

田野町文化財調査報告書第47集

# 鹿村野地区遺跡

県営畠地帯総合整備事業鹿村野地区

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

県宮崎郡田野町教育委員会

田野町文化財調査報告書 第47集 鹿村野地区遺跡 正誤表

文章・図面

頁	行	誤	正
1	24	田野町文化財調査報告書第42集	田野町文化財調査報告書第43集
17	3	(第14図16・17)	(第13図16・17)
138	1	第5節 主とめ	第5節 小結
194	SI-36	987.200m	97.200m
220	右下	23…SI-12内	23…SI-30内
236	2	(第40～46)図 187～436・457	(第40～46)図 187～436・457
253	9	(第47図465～484)	(第47～50図465～484)
253	30	(第50図485～488)	(第50・51図485～488)
253	34	(第51図214)	(第51図489)
260	4	(第51・52図492～505)	(第52・53図492～505)
抄録	シリーズ番号	第44集	第47集
抄録	調査期間	1997.1.16～3.16	1998.1.19～3.19

表

頁	項目	訂 正 間 所
101～104	図面番号	番号に1を足してください。
121・122	図面番号	番号に1を足してください。
224	出土遺構	SP-86, SX-88(2点とも)に1を足してください。
275	番号	263以後の番号は、全て275を足してください。

## 序

田野町は、宮崎市の西方約20kmにあります。鹿村野地区では、平成9年度から県営畠地帯総合整備事業が実施されることになりました。そこで、事業の施工によって現状保存が困難な部分を記録によって保存するための発掘調査を行いました。

調査は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業と国庫補助事業により平成9年度から12年度にかけて行いました。調査した遺跡はズクノ山第2遺跡、前ノ原第2遺跡、ズクノ山第1遺跡であります。

調査の結果、縄文時代の早期から晩期そして弥生時代までの遺構や遺物が多数検出されました。その主なものとして、縄文早期の石組みを行った調理施設多数、弥生時代の土製の勾玉（まがたま）、石器群、南九州的な住居跡が多数出土して、集落全体の様相が明らかになったものなどの、貴重な遺構や遺物であります。その他には、多数の土器片や石器類が出土しています。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や社会教育の場で広く活用され、埋蔵文化財の保護と理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この発掘調査にあたって御指導いただいた県教育委員会文化課並びに調査についてのご理解、ご協力をいただいた地元の方々や関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

田野町教育委員会

教育長 西田 英介

## 例　　言

- 1・本書は、平成9年度から実施された県営畠地帯総合整備事業鹿村野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、平成10年度に実施された前ノ原第2遺跡、ズクノ山第1遺跡、ズクノ山第2遺跡E地区における調査結果を報告するものである。
- 2・本遺跡の現地調査及び室内調査は、宮崎県中部農林振興局からの受託事業と文化庁の国庫補助金を得て、田野町教育委員会が実施した。調査体制は以下の通りである。

調査主体 田野町教育委員会

(平成10年度) 教育長	鍋倉 政信 (4~9月)
社会教育課長	堀内 侃 (10~3月)
社会教育課長補佐兼係長	田原 信行
埋蔵文化財担当 同主査	川口 博文
同主任主事	森田 浩史 (前ノ原第2遺跡)
	金丸 武司 (ズクノ山第2遺跡E地区)

(平成12年度) 教育長	堀内 侃
社会教育課長	永谷 弘
社会教育課長補佐	川越 修治
社会教育係長	有村 勝弘 (4~6月)
埋蔵文化財担当 同主査	後藤 敏典 (6~3月)
同主任	森田 浩史 (調査担当)
同調査員	金丸 武司
	田鍬 美紀

(平成14年度) 教育長	西田 英介
教育次長兼・社会教育課長	新坂 政光
社会教育課長補佐	川越 修治
社会教育係長	後藤 敏典
埋蔵文化財担当 同主査	森田 浩史
同主任	金丸 武司
同調査員	吉住さと子

- 3・現地の作業員として、田野町内の方から多数の参加をいただいた。
- 4・室内調査の実施にあたり、下記の方々の協力を得た。  
[Redacted]  
[Redacted]
- 5・現地における遺構図は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム及び町内の作業員が行

った。

- 6・本書の執筆及び編集は、森田と金丸が分担して行った。
- 7・現地の写真撮影は、ズクノ山第1遺跡、前ノ原第2遺跡を森田が、ズクノ山第2遺跡A～E地区を金丸が行った。
- 8・遺物の実測及びトレースは、田嶽・吉住及び室内整理作業員が行った。
- 9・遺物の写真撮影は吉住が行った。
- 10・写真図版・観察表の作成は森田、吉住及び室内整理作業員が行った。
- 11・ズクノ山第2遺跡E地区における土坑の覆土は、株式会社古環境研究所に自然化学分析を委託した。
- 12・本書で用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。
- 13・本書の色調表示は、農水省農林水産技術会事務局監修の『標準土色帳』を参考にした。
- 14・本書で用いた遺構略号は以下の通りである。  
 穴穴住居：SA、掘立柱建物：SB、集石遺構：SI、土坑：SC、ピット：SP、  
 配石遺構：SX  
 \*なお、集石遺構よりも範囲が広く、掘込みを伴わない疊の広がりは、「疊群」とした。
- 15・調査にあたっては、以下の方々にご指導・ご協力を賜った（五十音順・敬称略）。  
 秋成雅博、天池 学、石川悦雄、井田篤、伊東但、伊藤雅乃、今田秀樹、黒川忠広、柴畠光博  
 佐藤好司、日高広人、藤木 啓、馬鹿亮道、八木澤一郎、山下 実、山田鉄哉
- 16・本遺跡における縄文時代早期の時期は、土器型式上で前平式～石坂式を前葉、下剥峯～桑ノ丸式を中葉、妙見・天道ヶ尾式～塞ノ神式を後葉、鎌石橋式～轟I式を末葉とする。それぞれの型式の認定基準は、以下の文献に準じた。  
 南九州縄文研究会 2002 「南九州貝殻文系土器」 I～鹿児島県～『南九州縄文集成』 1  
 高橋信武 1998 「縄文早期後葉の九州」『九州縄文土器編年』諸問題』九州縄文研究会  
 吉本正典 1998 「妙見式土器の検討」『同上』
- 17・出土遺物や、図面等の記録類は、田野町教育委員会で保管している。

## 目 次

### 本文目次

第Ⅰ章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	1
第Ⅱ章 前ノ原第2遺跡	
第1節 調査の概要	5
第2節 層序	5
第3節 検出遺構	5
I・ピット	5
II・集石遺構	15
第4節 出土遺物	15
I・土器	15
II・石器	23
第5節 小結	35
第Ⅲ章 ズクノ山第1遺跡	
第1節 調査の概要	53
第2節 繩文時代早期の遺構と遺物	53
第3節 弥生時代の遺構と遺物	68
第4節 その他の遺構	74
第5節 小結	138
第Ⅳ章 ズクノ山第2遺跡A, B, C地区	
第1節 調査の概要	173
第2節 層序	173
第3節 各地区的調査結果	175
第4節 出土遺物	179
第5節 小結	179
第Ⅴ章 ズクノ山第2遺跡E地区	
第1節 調査の概要	185
第2節 層序	185
第3節 検出遺構	187

I・礫群	187
II・集石遺構	202
III・土坑	203
IV・ピット	204
V・配石遺構	204
第4節 出土遺物	209
I・遺構内出土遺物	209
II・包含層出土土器	209
III・石器	236
第5節 小結	268
第VI章まとめ～縄文時代早期を中心として～	338

#### 図版目次

第Ⅰ章 序説	
第1図 鹿村野地区周辺遺跡分布図	3
第2図 鹿村野地区遺跡分布図	3
第Ⅱ章 前ノ原第2遺跡	
第1図 前ノ原第2遺跡周辺地形図	6
第2図 前ノ原第2遺跡土層断面図	6
第3図 ピット群平面分布図	7
第4図 ピット実測図	7
第5図 烧礫及び風倒木底平面分布図	8
第6図 集石遺構平面分布図	9
第7図 集石遺構実測図(1)	10
第8図 集石遺構実測図(2)	11
第9図 集石遺構実測図(3)	12
第10図 集石遺構実測図(4)	13
第11図 集石遺構実測図(5)	14
第12図 集石遺構実測図(6)	15
第13図 出土土器実測図(1)	16
第14図 出土土器実測図(2)	18
第15図 出土土器実測図(3)	19
第16図 出土土器実測図(4)	21
第17図 出土土器実測図(5)	22
第18図 出土土器実測図(6)	24
第19図 出土石器実測図(1)	32
第20図 出土石器実測図(2)	34
第21図 出土石器実測図(3)	35
第22図 出土土器平面分布図(I類)	36
第23図 出土土器平面分布図(II類)	37
第24図 出土土器平面分布図(III~V類)	38
第25図 出土土器平面分布図(VI類)	39
第26図 出土土器平面分布図(VII~IX類)	40
第Ⅲ章 ズクノ山第1遺跡	
第1図 集石遺構分布図	54
第2図 集石遺構実測図(SI-01~02)	55
第3図 集石遺構実測図(SI-03~04)	56
第4図 集石遺構実測図(SI-05~06)	57
第5図 集石遺構実測図(SI-07)	58
第6図 集石遺構実測図(SI-08~09)	59
第7図 集石遺構実測図(SI-10~11)	60
第8図 集石遺構実測図(SI-12~13)	61
第9図 集石遺構実測図(SI-14~15)	62
第10図 包含層出土遺物実測図(土器)	64
第11図 包含層出土遺物実測図(石器)	66
第12図 包含層出土遺物実測図(石器)	67
第13図 弥生時代遺構分布図	75

第14図 弥生時代遺構検出面地形図	76	第50図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	123
第15図 壁穴住居実測図(SA-01・02)	78	第51図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	124
第16図 壁穴住居実測図(SA-03・05)	79	第52図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	125
第17図 壁穴住居実測図(SA-04・06)	80	第53図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	126
第18図 壁穴住居実測図(SA-07・08)	81	第54図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	127
第19図 壁穴住居実測図(SA-09)	82	第55図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	128
第20図 壁穴住居実測図(SA-10)	83	第56図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	129
第21図 壁穴住居実測図(SA-11・12)	84	第57図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	130
第22図 壁穴住居実測図(SA-13・14)	85	第58図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	131
第23図 壁穴住居実測図(SA-18・20)	86	第59図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	132
第24図 壁穴住居実測図(SA-16)	87	第60図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	133
第25図 壁穴住居実測図(SA-15・17)	89	第61図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	134
第26図 壁穴住居実測図(SA-21~24)	91	第62図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	135
第27図 壁穴住居実測図(SA-19)	93	第63図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	136
第28図 壁穴住居実測図(SA-25・26)	94	第64図 壁穴住居出土遺物実測図(石器)	137
第29図 壁穴住居実測図(SA-27・28)	95		
第30図 壁穴住居実測図(SA-29・30)	96		
第31図 壁穴住居実測図(SA-31・32・34)	97		
第32図 壁穴住居実測図(SA-33)	98		
第33図 挖立柱建物実測図(SB-01・02)	99		
第34図 挖立柱建物実測図(SB-03)	100		
第35図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	106		
第36図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	107		
第37図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	108		
第38図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	109		
第39図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	110		
第40図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	111		
第41図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	112		
第42図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	113		
第43図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	114		
第44図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	115		
第45図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	116		
第46図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	117		
第47図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	118		
第48図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	119		
第49図 壁穴住居出土遺物実測図(土器)	120		
		第IV章 ズクノ山第2遺跡A、B、C地区	
		第1図 ズクノ山第2遺跡A~C地区周辺地形図	174
		第2図 土層柱状模式図	174
		第3図 A区遺構分布図	176
		第4図 A区コンタ図	176
		第5図 A区土層断面図	176
		第6図 B区遺構分布図	177
		第7図 B区コンタ図	177
		第8図 B区土層断面図	177
		第9図 C区遺構分布図	178
		第10図 C区コンタ図	178
		第11図 C区土層断面図	178
		第12図 出土遺物実測図	180
		第V章 ズクノ山第2遺跡E地区	
		第1図 ズクノ山第2遺跡E地区周辺地形図	186
		第2図 ズクノ山第2遺跡E地区土層断面図	186
		第3図 遺構配図	188
		第4図 集石遺構実測図(1)	189

第5図	集石遺構実測図(2).....	190
第6図	集石遺構実測図(3).....	191
第7図	集石遺構実測図(4).....	192
第8図	集石遺構実測図(5).....	193
第9図	集石遺構実測図(6).....	194
第10図	集石遺構実測図(7).....	195
第11図	集石遺構実測図(8).....	196
第12図	集石遺構実測図(9).....	197
第13図	集石遺構実測図(10).....	198
第14図	集石遺構実測図(11).....	199
第15図	集石遺構実測図(12).....	200
第16図	集石遺構実測図(13).....	201
第17図	集石遺構実測図(14).....	202
第18図	土坑列実測図.....	204
第19図	土坑実測図(1).....	205
第20図	土坑(2)・ピット実測図(1).....	206
第21図	配石遺構実測図(1).....	208
第22図	配石遺構実測図(2).....	209
第23図	遺構内出土遺物実測図(1).....	220
第24図	遺構内出土遺物実測図(2).....	221
第25図	遺構内出土遺物実測図(3).....	222
第26図	出土土器実測図(1).....	225
第27図	出土土器実測図(2).....	226
第28図	出土土器実測図(3).....	229
第29図	出土土器実測図(4).....	230
第30図	出土土器実測図(5).....	231
第31図	出土土器実測図(6).....	232
第32図	出土土器実測図(7).....	234
第33図	出土土器実測図(8).....	235
第34図	出土土器平面分布図(I類).....	244
第35図	出土土器平面分布図(II~IV類).....	244
第36図	出土土器平面分布図(VE類).....	245
第37図	出土土器平面分布図(VA~VD類).....	245
第38図	出土土器平面分布図(VI~VII類).....	246
第39図	出土土器平面分布図(VIII~IX類).....	246
第40図	出土石器実測図(1).....	247
第41図	出土石器実測図(2).....	248
第42図	出土石器実測図(3).....	249
第43図	出土石器実測図(4).....	250
第44図	出土石器実測図(5).....	251
第45図	出土石器実測図(6).....	252
第46図	出土石器実測図(7).....	254
第47図	出土石器実測図(8).....	259
第48図	出土石器実測図(9).....	261
第49図	出土石器実測図(10).....	262
第50図	出土石器実測図(11).....	263
第51図	出土石器実測図(12).....	264
第52図	出土石器実測図(13).....	265
第53図	出土石器実測図(14).....	266
第54図	出土石器実測図(15).....	267
第55図	出土石器実測図(16).....	268
第56図	出土石器実測図(17).....	269
第57図	出土石器実測図(18).....	270
第58図	出土石器実測図(19).....	271
第59図	出土石器実測図(20).....	272
第60図	出土石器実測図(21).....	273
第61図	出土石器実測図(22).....	274
第62図	出土石器平面分布図(磨石).....	276
第63図	出土石器平面分布図(石錐).....	276

## 表目次

### 第Ⅰ章 序説

表 1	鹿村野台地周辺の遺跡地名表.....	4
第Ⅱ章 前ノ原第2遺跡		

表 1	出土土器観察表(1).....	25
表 2	出土土器観察表(2).....	26
表 3	出土土器観察表(3).....	27
表 4	出土土器観察表(4).....	28

表 5	出土土器観察表(5).....	29
表 6	出土土器観察表(6).....	30
表 7	出土土器観察表(7).....	31
表 8	集石遺構観察表.....	33
表 9	出土石礫観察表.....	33
表10	出土磨石観察表.....	33
第Ⅲ章 ズクノ山第1遺跡		
表 1	包含層出土土器観察表.....	63
表 2	包含層出土土器観察表.....	65
表 3	堅穴住居観察表.....	77
表 4	遺構内出土土器観察表(1).....	101
表 5	遺構内出土土器観察表(2).....	102
表 6	遺構内出土土器観察表(3).....	103
表 7	遺構内出土土器観察表(4).....	104
表 8	遺構内出土土器観察表(5).....	105
表 9	遺構内出土土器観察表(6).....	121
表10	遺構内出土土器観察表(7).....	122
第V章 ズクノ山第2遺跡E地区		
表 1	集石遺構観察表.....	210
表 2	遺構覆土注記(1).....	211
表 3	遺構覆土注記(2).....	212
表 4	遺構覆土注記(3).....	213
表 5	遺構覆土注記(4).....	214
表 6	遺構覆土注記(5).....	215
表 7	遺構覆土注記(6).....	216
表 8	遺構覆土注記(7).....	217
表 9	遺構覆土注記(8).....	218
第VI章 まとめ		
表 1	縄文早期遺跡別遺物出土状況.....	340
表 2	ズクノ山第2遺跡E地区 出土石礫形態散布図.....	341
表 3	ズクノ山第2遺跡F地区 出土石礫形態散布図.....	341
表 4	ズクノ山第2遺跡E地区 出土石礫石材割合表.....	341
表 5	ズクノ山第2遺跡F地区 出土石礫石材割合表.....	341

## 写真図版目次

### 第Ⅱ章 前ノ原第2遺跡

図版 1	施村野台地航空写真(南から).....	42
図版 2	調査区近景、ビット群.....	43
図版 3	礫群、SI-01・SI-02、SI-03、 SI-04.....	44
図版 4	SI-05、SI-06、SI-10、SI-11、 SI-13、SI-16.....	45

図版 5	SI-18、SI-19、SI-21、 SI-22、SI-23、SI-24.....	46
図版 6	出土土器(I・IIA・IIB類).....	47
図版 7	出土土器(IIIC・III・IV類、V ・VIA・VIB類).....	48
図版 8	出土土器(VIB~VID・VI・VII類).....	49

図版 9 出土土器(IX・X・XI 類) .....	50	図版19 SA-22・23・24検出状況	
図版10 出土土器(II A・III・IV・X 類), 出土石器(石礫ほか) .....	51	SA-23・24検出状況	
図版11 出土石器(剥片・石斧・磨石・凹石) .....	52	SA-23完掘状況 .....	157
第Ⅲ章 ズクノ山第1遺跡		SA-28完掘状況 .....	158
図版1 集石遺構検出状況全景 .....	139	図版21 SA-29完掘状況 SA-30検出状況	
図版2 調査区南端検出状況 .....	140	SA-31完掘状況 .....	159
図版3 集石遺構検出状況 .....	141	図版22 繩文時代の出土遺物 .....	160
図版4 集石遺構検出状況 .....	142	図版23 弥生時代の出土遺物 .....	161
図版5 弥生時代遺構検出状況遠景 .....	143	図版24 弥生時代の出土遺物 .....	162
図版6 弥生時代遺構検出状況遠景 .....	144	図版25 弥生時代の出土遺物 .....	163
図版7 作業風景 SA-01完掘状況 SA-02検出状況(北から) .....	145	図版26 弥生時代の出土遺物 .....	164
図版8 SA-03検出状況 SA-03遺物 出土状況 SA-04検出状況 .....	146	図版27 弥生時代の出土遺物 .....	165
図版9 SA-05検出状況 SA-06検出状況 SA-07検出状況 .....	147	図版28 弥生時代の出土遺物 .....	166
図版10 SA-32完掘状況 SA-33完掘状況 SA-35検出状況 .....	148	図版29 弥生時代の出土遺物 .....	167
図版11 SA-08検出状況 SA-09初期 検出状況 SA-09検出状況 .....	149	図版30 弥生時代の出土遺物 .....	168
図版12 SA-10検出状況 SA-10 遺物出土状況 SA-10検出状況 .....	150	図版31 弥生時代の出土遺物 .....	169
図版13 SA-11検出状況 SA-11完掘状況 SA-12検出状況 .....	151	図版32 弥生時代の出土遺物 .....	170
図版14 SA-13検出状況 SA-13遺物 出土状況 SA-13完掘状況 .....	152	図版33 弥生時代の出土遺物 .....	171
図版15 SA-14完掘状況 SA-15完掘状況 SA-16検出状況 .....	153	図版34 弥生時代の出土遺物 .....	172
図版16 SA-16遺物出土状況 SA-16土坑 内遺物出土状況 SA-16完掘状況 .....	154	第IV章 ズクノ山第2遺跡A, B, C地区	
図版17 SA-17検出状況 SA-17遺物 出土状況 SA-17完掘状況 .....	155	図版1 A区調査区近景、B区調査区近景, C区調査区近景、C区溝状遺構、 B区溝状遺構、A区ピット群 .....	182
図版18 SA-19検出状況 SA-19完掘状況 SA-21完掘状況 .....	156	図版2 A区ピット群、A区東壁、B区南壁、 C区北壁、作業風景 .....	183
		図版3 出土遺物(土器・石礫) (磨石) .....	184
第V章 ズクノ山第2遺跡E地区		第VI章 ズクノ山第3遺跡	
図版1 磨群01、磨群02、磨群03、 磨群04、磨群05、磨群06 .....	283	図版1 SA-22・23・24検出状況	
図版2 磨群07、磨群08、SI-09、SI-10、 SI-11 .....	284	SA-23・24検出状況	
図版3 SI-12 .....	285	SA-23完掘状況 .....	
図版4 SI-12、SI-13、SI-14、SI-15 .....	286	SA-28完掘状況 .....	
図版5 SI-16、SI-17 .....	287	SA-29完掘状況 SA-30検出状況	

図版 6	SI-17、SI-18・19、SI-20…	288				
図版 7	SI-21、SI-22、SI-23、SI-24					
		289				
図版 8	SI-25、SI-26、SI-27…	290				
図版 9	SI-28、SI-29、SI-30…	291				
図版10	SI-31、SI-32、SI-33、 SI-34…	292				
図版11	SI-34、SI-36、SI-37、SI-38					
		293				
図版12	SI-39、SI-41、SI-42…	294				
図版13	SI-43、SI-44、SI-42～44、 SI-45…	295				
図版14	SI-45、SI-46、SI-61…	296				
図版15	SI-61、SI-48…	297				
図版16	SI-48、SI-49、SI-50…	298				
図版17	SI-50、SI-51、SI-52…	299				
図版18	SI-53、SI-54、SI-55…	300				
図版19	SI-55、SI-56、SI-57…	301				
図版20	SI-57、SI-58、SI-59、SI-60、 SI-47…	302				
図版21	SI-62、SI-63、SI-64…	303				
図版22	SI-65、SI-66、SI-67…	304				
図版23	SI-67、SI-68、SI-69…	305				
図版24	SI-70…	306				
図版25	SI-70…	307				
図版26	SI-71、SI-72、SI-73、SI-74、 集石遺構剥ぎ取り作業…	308				
図版27	集石遺構剥ぎ取り作業…	309				
図版28	土坑列(SC-76～81)、SC-76、 SC-77…	310				
図版29	SC-78、SC-79、SC-80、 SC-81、SC-82…	311				
図版30	SC-83、SC-84、SC-85、 SC-86、SP-87…	312				
図版31	SP-87、SX-88…	313				
図版32	SX-88、SX-89…	314				
図版33	SX-89…	315				
図版34	SX-89、SX-90、SX-91…	316				
図版35	SX-91、SX-92…	317				
図版36	SX-92、SX-93…	318				
図版37	出土土器(遺構内)…	319				
図版38	出土土器(遺構内)…	320				
図版39	出土土器(遺構内)、 出土土器(I類)…	321				
図版40	出土土器(II・III A・III B・IV類 VA類)…	322				
図版41	出土土器(VA・VI C類)…	323				
図版42	出土土器(VB・VC類)…	324				
図版43	出土土器(VC～VE・VI類)…	325				
図版44	出土土器(VI類・VII・IX・X類)…	326				
図版45	出土土器(X I類)、 出土石器(古礫)…	327				
図版46	出土石器(石礫)…	328				
図版47	出土石器(石礫)…	329				
図版48	出土石器(石礫)…	330				
図版49	出土石器(石礫・尖頭状石器 ・石錐)…	331				
図版50	出土石器(剥片石器)…	332				
図版51	出土石器(剥片石器)…	333				
図版52	出土石器(剥片石器)…	334				
図版53	出土石器(剥片石器・磨石)…	335				
図版54	出土石器(磨石)…	336				
図版55	出土石器(磨石・用途不明石器)…	337				

## 第Ⅰ章 序説

### 第1節 調査に至る経緯

田野町は、宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、それを取り囲む鶴塚山を始めとする山々からなり、1市（宮崎市）と5町（清武町、高岡町、山之口町、三股町、北郷町）に接している。主な産業は、大根やタバコなどを主体とする農業であるが、近年は、高速道路や国県道の整備によって交通の要衝の地となり、更に工業団地の整備、企業や専門学校の誘致、宅地開発の振興が行われた結果、徐々にではあるが商・工業の町として発展を見せていく。その反面で、農業基盤整備事業や各種開発事業に伴う埋蔵文化財の保存は大きな問題となっており、町教育委員会でも調整や調査体制の整備充実を図ってきた。しかし、遺跡の大半は記録保存の対象となり、消滅しているのが現状である。

平成9年度、町北東部にあたる鹿村野台地において県営畑地帯総合整備事業鹿村野地区が実施されることとなり、県文化課が事業地内に試掘調査を行ったところ、アカホヤ火山灰層上層において、部分的に柱穴や縄文時代後期にあたる遺物が確認された。この地点は農道が敷設される予定であったため、生活跡が確認された部分の周辺に、調査による記録保存を実施することとなった。調査は平成10年1月19日に着手し、3月19日まで行われた。遺跡名は「ズクノ山第2遺跡A～C地区」である。

平成10年度には、台地南端と北端の2箇所が事業予定地となった。県文化課の試掘調査により、集石遺構などの縄文時代早期の生活跡が分布する事が明らかとなった。この結果を受け、設計施工上消滅を免れない部分について、発掘調査による記録保存を実施する事となり、平成10年8月11日より現地の調査に着手した。調査は12月21日まで行われた。遺跡名は、台地北端が「ズクノ山第2遺跡E地区」、南端が「前ノ原第2遺跡」である。

平成11年度は、台地北部の丘陵地が事業予定地となり、発掘調査が行われた。この調査結果については、「田野町文化財調査報告書第42集 ズクノ山第2遺跡F地区」で既に報告したとおりである。

平成12年度には、丘陵地の西側が事業予定地となった。県文化課の試掘により、アカホヤ火山灰層下部において縄文時代早期の生活跡が分布することが明らかとなった。この結果を受け、設計施工上やむを得ず消滅を免れない部分について、発掘調査による記録保存を実施する事となり、平成12年9月1日より現地の調査に着手した。当初は縄文時代早期を調査する予定であったが、アカホヤ火山灰層を取り除いた段階で、弥生時代の住居跡が多数存在することが明らかとなった。調査は同年12月28日まで行われた。遺跡名は「ズクノ山第1遺跡」である。

### 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

鹿村野地区は、田野町の北々東、清武町と宮崎市の境界付近にある、標高95～110mの台地である。東側には清武川が北側に向かって流れ、西側には黒北川が台地の縁辺に鋸歯状の谷

を刻みながら流れるため、周囲から半ば孤立している。現在は起伏の少ない平坦地が広がっているが、開墾前は開析谷と微高地が混在する地形であったことが、表土除去作業を通して明らかになった。

鹿村野地区に広がる台地上は、平成9年度より12年度まで続けられた発掘調査の成果によって、先史時代の遺跡が多く分布することが明らかとなっている。平成10年度に行われたズクノ山第2遺跡D地区の調査では、アカホヤ火山灰層下部で検出されたピットより、山形押型文と燃糸文が併用された土器が出土した。また、北側に位置する丘陵の傾斜面上に立地するF地区からは、30基以上の集石遺構や3基の炉穴が検出されたほか、主に縄文時代早期中葉の遺物が多く出土した。台地南側は前ノ原第2遺跡以外に遺跡の分布は確認されていないが、調査区の隣接地より抉状耳飾が採集されている。

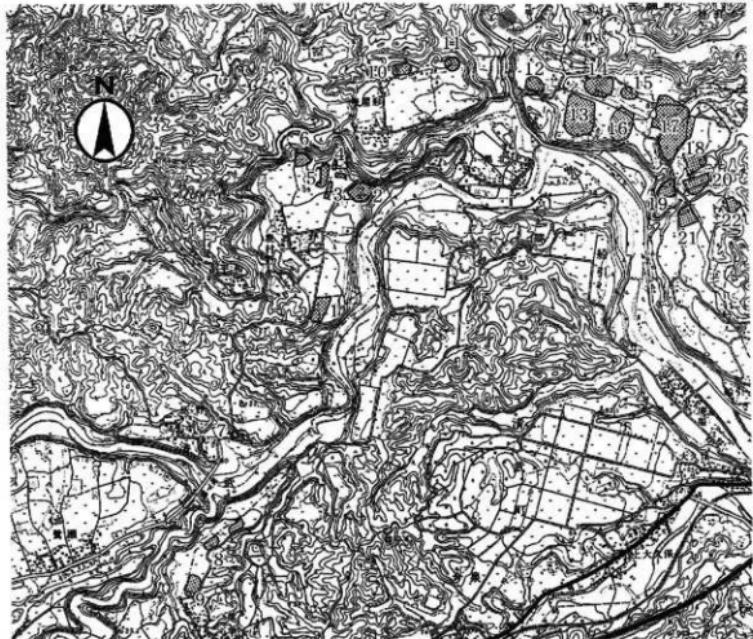
鹿村野台地周辺は、清武川が北側に大きく蛇行する地点であり、この左岸の台地上は、宮崎市・清武町に跨って先史時代の遺跡が密集する。鹿村野台地より黒北川を挟んで北側にある椎屋形地区には椎屋形第1・第2遺跡が立地しており、旧石器時代の遺物や縄文時代草創期の爪形文土器、早期前葉に当たる砾群、炉穴等が検出されている。開析谷を挟んだ東側には時屋地区遺跡群が立地しており、上の原第1～第4遺跡からは、旧石器時代から中世まで幅広い年代にわたって生活跡が確認されている。また、白ヶ野第2・第3遺跡は、縄文時代を通して集落が検出されている。更にその南東には、清武町教育委員会により、平成8年度から、平成14年度である現在まで調査が続けられている、船引地区遺跡群が立地している。

このように、鹿村野地区及びその周辺には、多くの遺跡が集中する地点である。これらの遺跡の変遷は、第VI章で詳しくまとめたい。

なお、次頁の表1は、第1図内に示した遺跡の概略を示したものである。

#### (参考文献)

- 九州前方後円墳研究会 2001『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第II分冊
- 清武町教育委員会 1997「白ヶ野第1・第4遺跡」『清武町文化財調査報告書』第5集
- 清武町教育委員会 1998「浦川第1・第2遺跡-1・-2」『清武町文化財調査報告書』第6集
- 清武町教育委員会 1999「浦川第1遺跡-2・浦川第2遺跡-2」『清武町文化財調査報告書』第7集
- 清武町教育委員会 2000「山田第1・山田第2遺跡」『清武町文化財調査報告書』第8集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 1997「丸半・植原遺跡 槙原遺跡」  
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第8集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 1999「上の原第3遺跡」  
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第13集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2000「上の原第4遺跡 白ヶ野第3遺跡A地区 上の原第2遺跡  
上の原第1遺跡 白ヶ野第3遺跡B地区」  
『宮崎県埋蔵文化財センター』第25集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2002「白ヶ野第2・第3遺跡」  
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第52集



第1図 鹿村野地区周辺遺跡分布図(1/35,000)

- 1.前ノ原第2遺跡 2.ズクノ山第2遺跡E地区 3.同A～C地区 4.同D地区 5.同F地区 6.ズクノ山第1遺跡 7.灰ヶ野地下式横穴墓 8.尾平・橋原遺跡 9.尾平遺跡 10.椎屋形第2遺跡 11.椎屋形第1遺跡 12.上の原遺跡 13.上の原第2遺跡 14.上の原第3遺跡 15.上の原第4遺跡 16.上の原第1遺跡 17.白ヶ野第1～第3遺跡 18.白ヶ野第1遺跡  
19.滑川第1遺跡 20.滑川第2遺跡 21.山田第1遺跡 22.山田第2遺跡



第2図 鹿村野地区遺跡分布図(1/10,000)

宮崎県埋蔵文化財センター 2002「白ヶ野第2・第3遺跡 上の原第1遺跡 (B地区)  
『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第62集

宮崎市教育委員会 1996「椎屋形第1遺跡・椎屋形第2遺跡・上の原遺跡」

田野町教育委員会 1999「前ノ原第2遺跡・ズクノ山第2遺跡E地区」

『田野町文化財調査報告書』第30集

田野町教育委員会 1999「ズクノ山第2遺跡D地区」『田野町文化財調査報告書』第29集

田野町教育委員会 2001「ズクノ山第1遺跡」『田野町文化財調査報告書』第41集

田野町教育委員会 2002「ズクノ山第2遺跡F地区」『田野町文化財調査報告書』第43集

表1 鹿村野台地周辺の遺跡地名表

No	遺跡名	調査年度	調査主体	遺跡の時代(時期)
1	前ノ原第2遺跡	H10年度	田野町教育委員会	縄文(早)
2	ズクノ山第2遺跡 E地区	H10年度	田野町教育委員会	縄文(早)
3	ズクノ山第2遺跡 A~C地区	H9年度	田野町教育委員会	縄文(早・後)
4	ズクノ山第2遺跡 D地区	H11年度	田野町教育委員会	縄文(早)
5	ズクノ山第2遺跡 F地区	H11年度	田野町教育委員会	旧石器、縄文(早)
6	ズクノ山第1遺跡	H12年度	田野町教育委員会	縄文(早), 弥生
7	灰ヶ野地下式横穴墓	S47年	宮崎県総合博物館 田野町教育委員会	古墳(後)
8	橋原遺跡	H6~7年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・後)古代・中世
9	尾平・橋原遺跡	H6~7年度	宮崎県教育委員会	縄文(早), 古墳
10	椎屋形第2遺跡	H4年度	宮崎県教育委員会	縄文(早)
11	椎屋形第1遺跡	H3年度	宮崎県教育委員会	縄文(草・早), 弥生(後)
12	上の原遺跡	H5年度	宮崎県教育委員会	旧石器、縄文(草・早), 古代
13	上の原第2遺跡	H6年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・後), 中近世
14	上の原第3遺跡	H6年度	宮崎県教育委員会	縄文(早期), 古墳(中)
15	上の原第4遺跡	H7年度	宮崎県教育委員会	縄文(早), 古墳(前)
16	白ヶ野第1遺跡	H7~8年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前), 古代
17	白ヶ野第2・第3遺跡	H7~8年度	宮崎県教育委員会	縄文(早・中・後)
18	清川第3遺跡	H19年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前)
19	清川第1遺跡	H10年度	清武町教育委員会	縄文(早・前)
20	清川第2遺跡	H10年度	清武町教育委員会	旧石器, 縄文(早・前)
21	山田第1遺跡	H11年度	清武町教育委員会	縄文(早), 古代
22	山田第2遺跡	H11年度	清武町教育委員会	縄文(早)

## 第Ⅱ章 前ノ原第2遺跡

### 第1節 調査の概要

前ノ原第2遺跡は、鹿村野地区台地の南端部、県道花見田野線の東側にある。調査前の地形は、南西から北東方向にかけて緩やかな傾斜を呈する畠地であったが、耕作土を除去した段階で調査区南側は既にシラス層が露出しており、開墾の影響をかなり受けていることを確認したほか、調査区中央部には、天地返しを行った部分も見られた。また、西側中央には、比較的深い谷地形も確認した。詳細に調査した面積は、文化層の消滅部分を除くと、約2,800m<sup>2</sup>である。

本遺跡の調査にあたっては、前段階で実施された試掘調査のデータに基づいて、縄文時代早期の造構・遺物が出土することを想定した。なお、県道を挟んだ西側において块状耳飾が採集されていることから、縄文時代前期の集落跡の検出も念頭に置き(註1)、第2層直上まで機械掘削を行った。この面で、縄文時代の前期以降と考えられるピット群を検出した。更に第3層まで掘削したのち、手掘りによる遺物包含層の調査並びに造構の検出作業を始めた。第3層直上においては焼穢が数点見られる程度であったが、同層掘り下げの段階で遺物の出土量も増し、第4層直上に至った段階で集石造構を検出した。また、第4層掘り下げの段階でも、集石造構や遺物が確認されたことから、集落の営続期間は、縄文時代早期でも幅広い時期にわたると推定される。

### 第2節 層序

調査区内の基本層位は以下の通りである。堆積状況は第2図の通りである。

第1層：耕作土層

第2層：アカホヤ火山灰堆積層

第3層：暗褐色硬質土層（通称カシワバン）

第4層：褐色土層1

第5層：褐色土層2

第6層：褐色硬質土層（小林降下軽石混入）

一部アカホヤ火山灰堆積層の上層においてアカホヤ火山灰二次堆積（または腐植土）層や黒色土層も確認した。

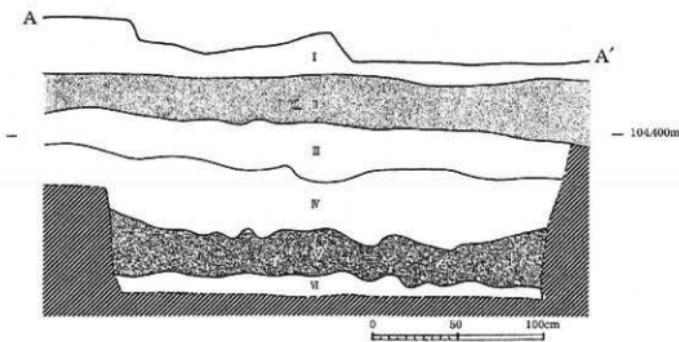
### 第3節 検出造構

#### I・ピット（第4図）

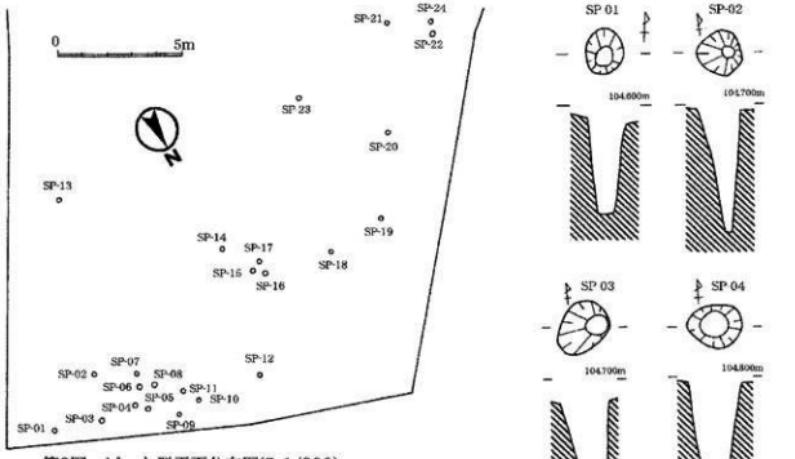
2層上位より検出された。全体で24基検出されたが、半分は北端部に集中しており、他は疎らな状態で分布する。平面形はやや歪な楕円形を呈するものが多数を占める。断面形はテラスや段を設けるものもあるが、直に落ちるもののが殆どである。深さは1mに達するものから30cm前後のものまでまちまちである。覆土中から遺物の出土はないため、具体的な時期は断定できないが、いずれもアカホヤ火山灰二次堆積（または腐植土）層を覆土としていることから、



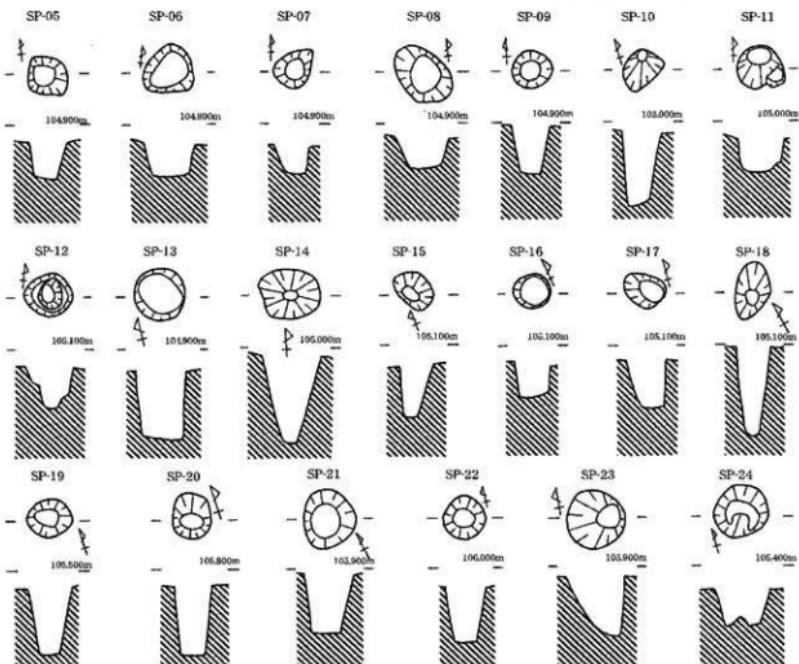
第1図 前ノ原第2遺跡周辺地形図 (S=1/1000)



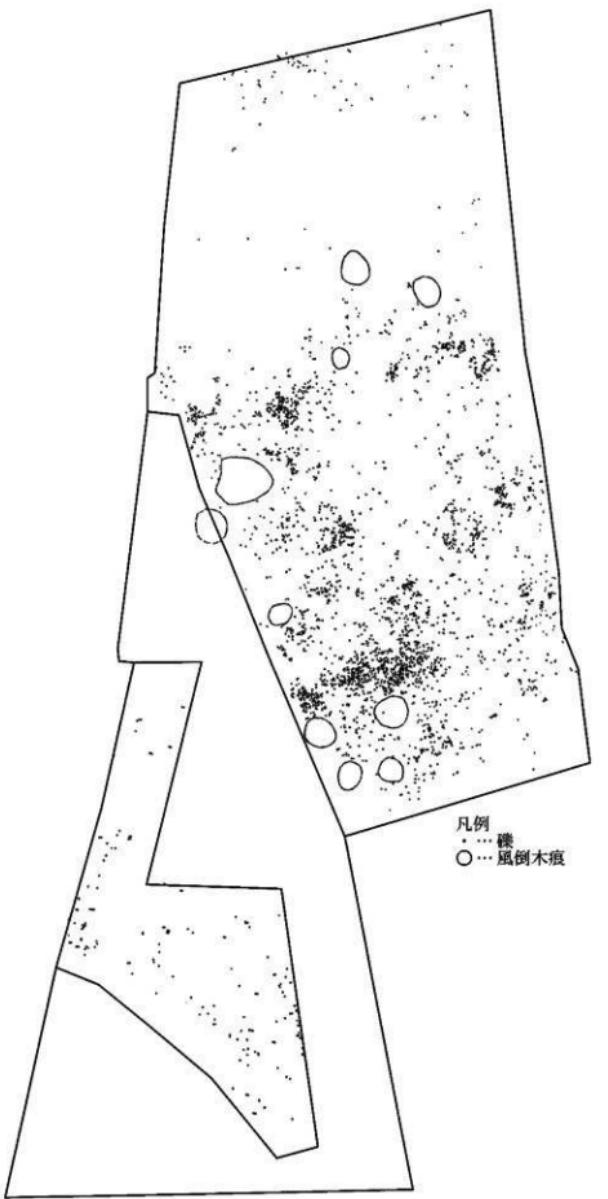
第2図 前ノ原第2遺跡土層断面図



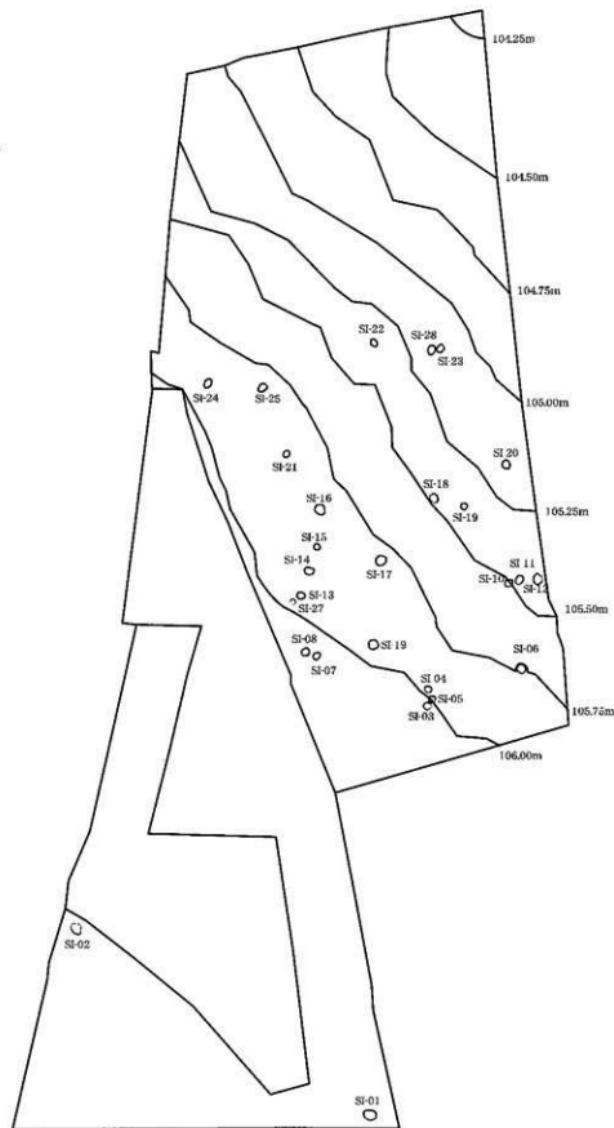
第3図 ピット群平面分布図(S=1/200)



第4図 ピット実測図(S=1/30)

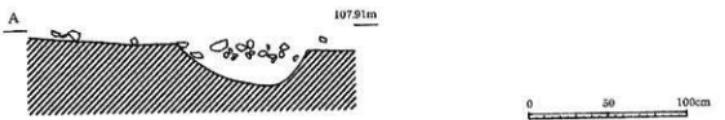
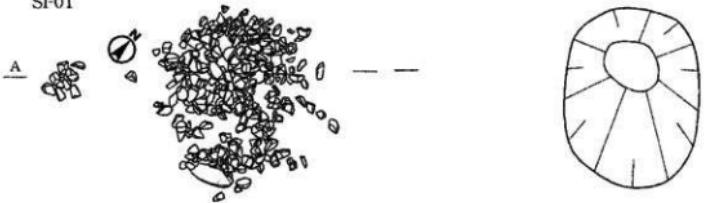


第5図 焼土及び風倒木痕平面分布図(1/200)

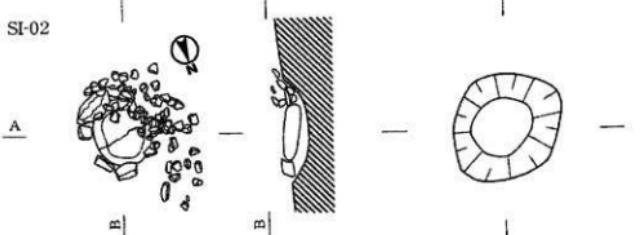


第6図 集石遺構平面分布図(1/200)

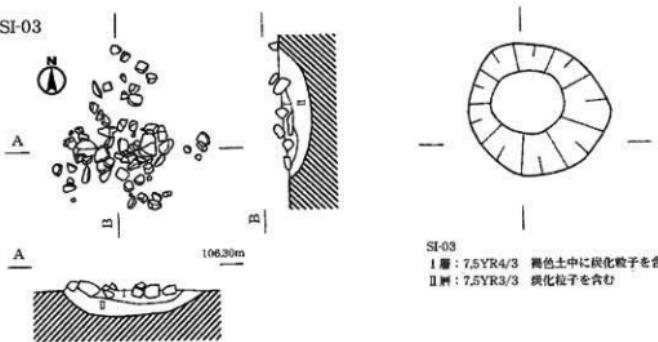
SI-01



SI-02

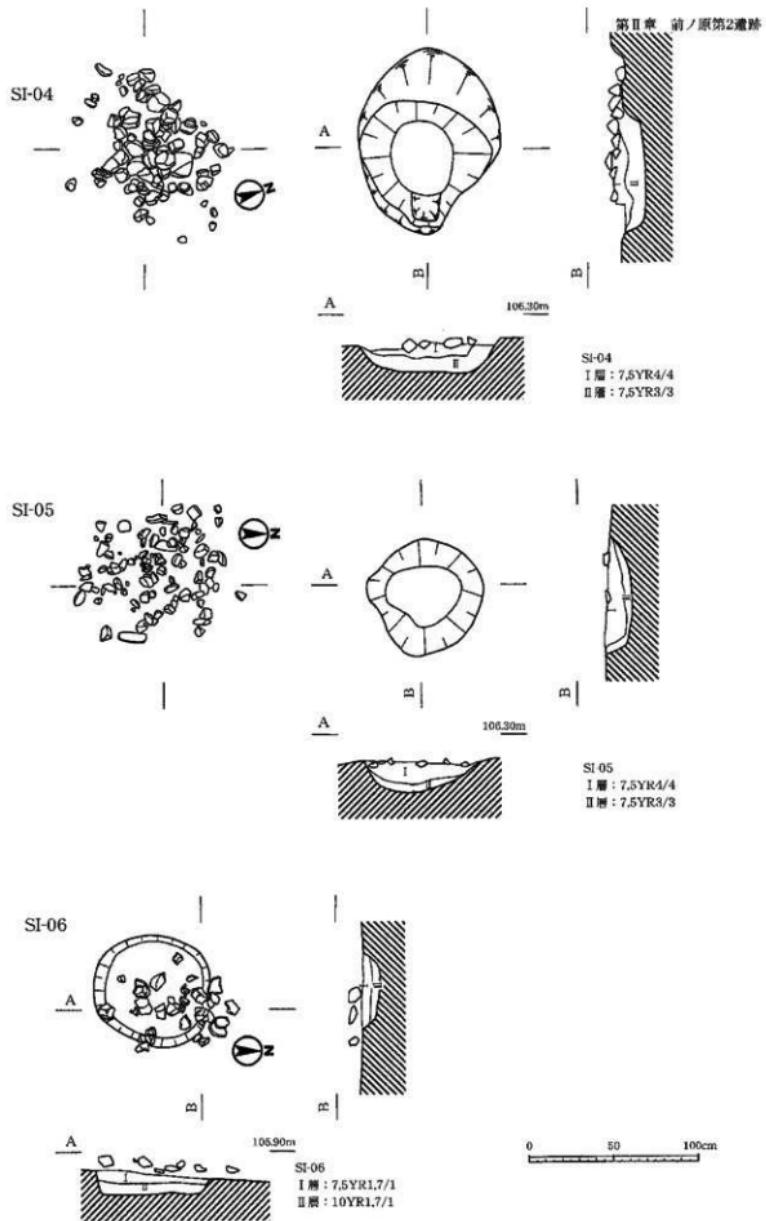


SI-03

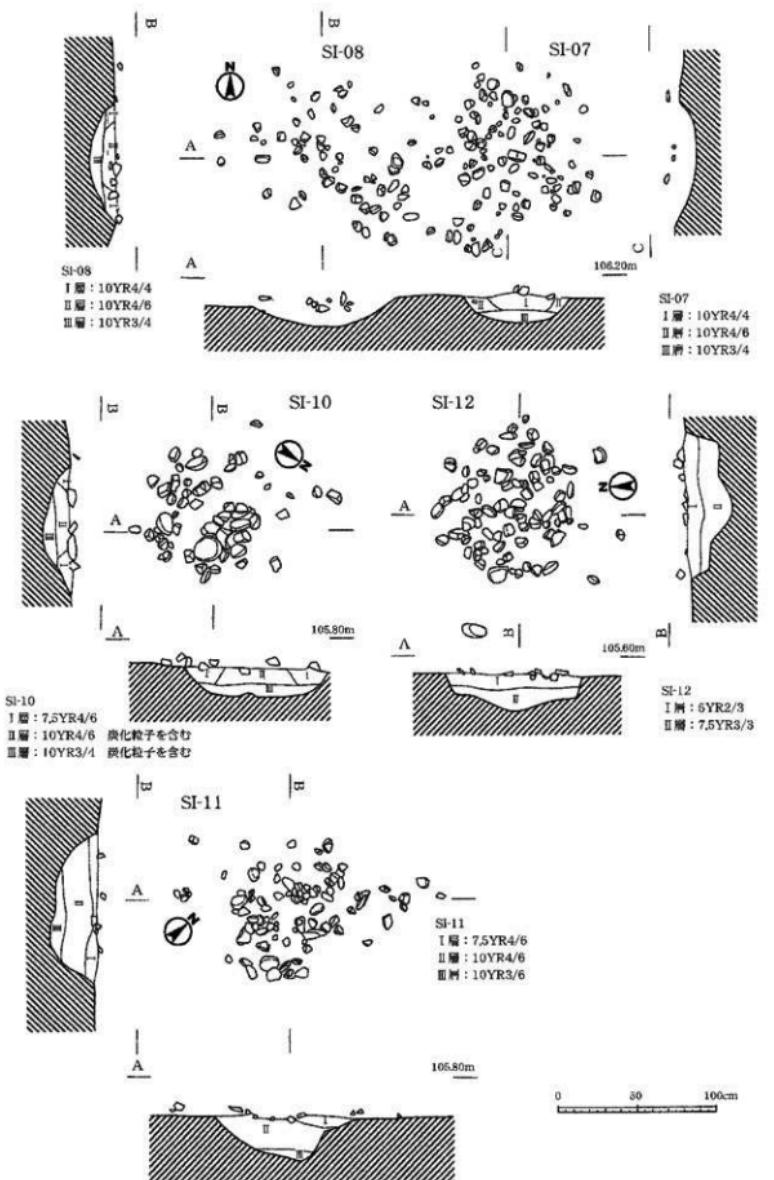


SI-03  
I層: 7.5YR4/3 黄色土中に炭化粒子を含む  
II層: 7.5YR3/3 炭化粒子を含む

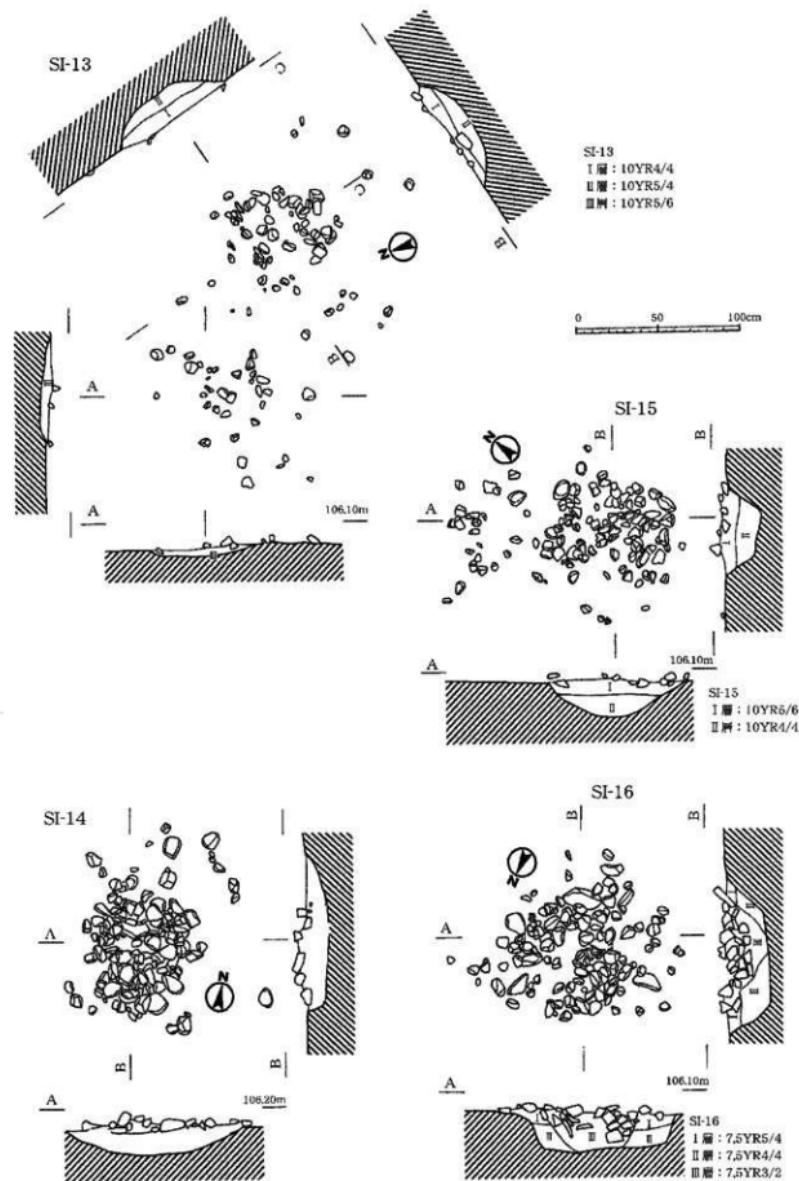
第7図 集石遺構実測図(1)



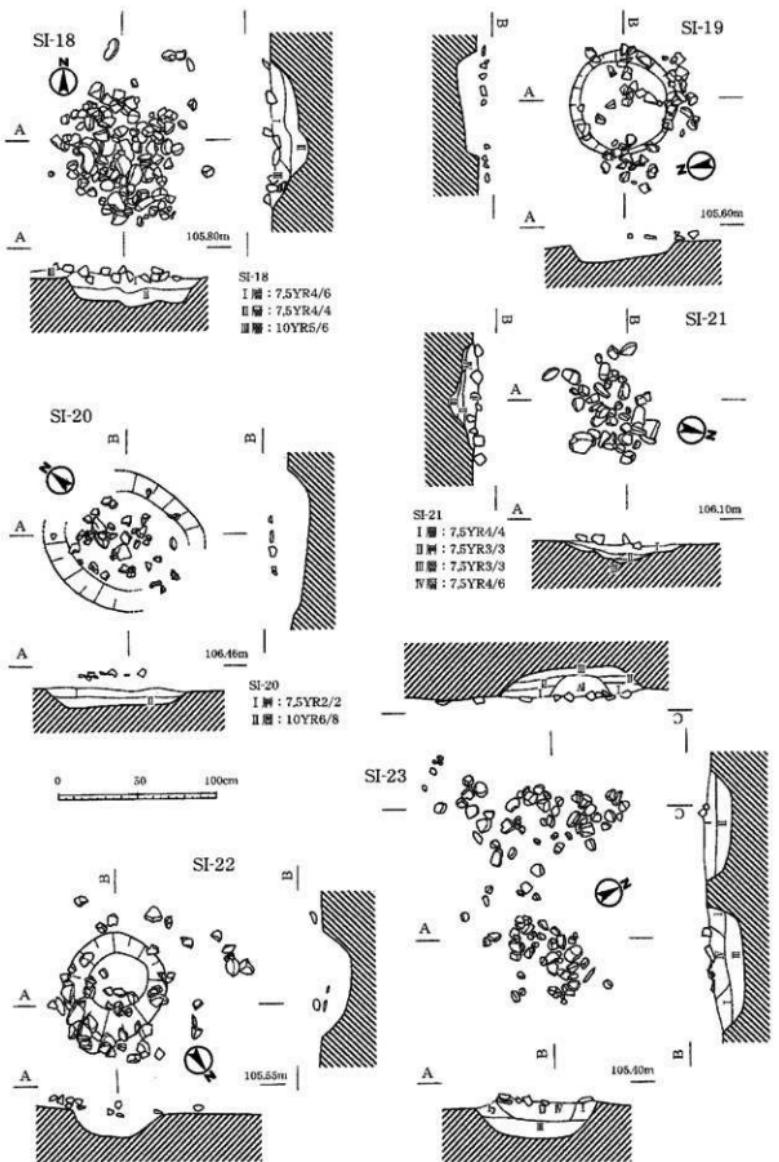
第8図 集石造構実測図(2)



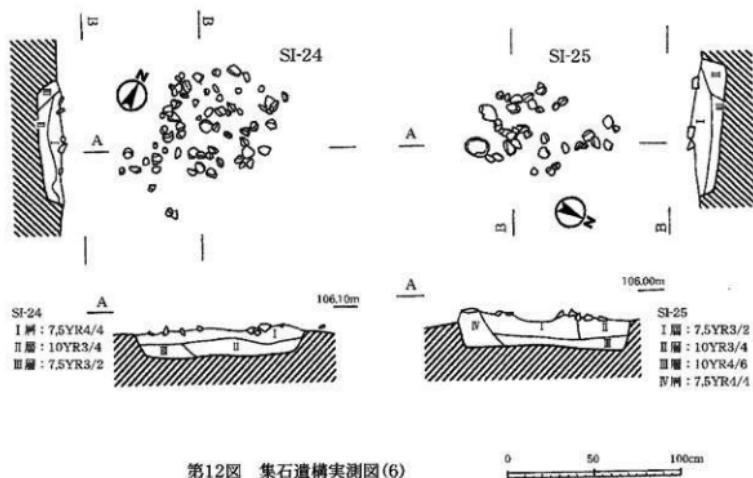
第9図 集石遺構実測図(3)



第10図 集石遺構実測図(4)



第11図 集石遺構実測図(5)



第12図 集石遺構実測図(6)

これらは縄文時代前期若しくはやや下る時期に、集中的に構築されたと考えられる。但し、これらの配置には、建物を想起させるような規則性は認められなかった。

## II・集石遺構(第7~12図)

26基検出された。観察結果の詳細は、表8のとおりである。全て掘り込みを伴うものであるが、礫の検出が掘り込みの下部にまで達していた遺構は僅かである。また、底石等の付加施設は殆ど伴わない。

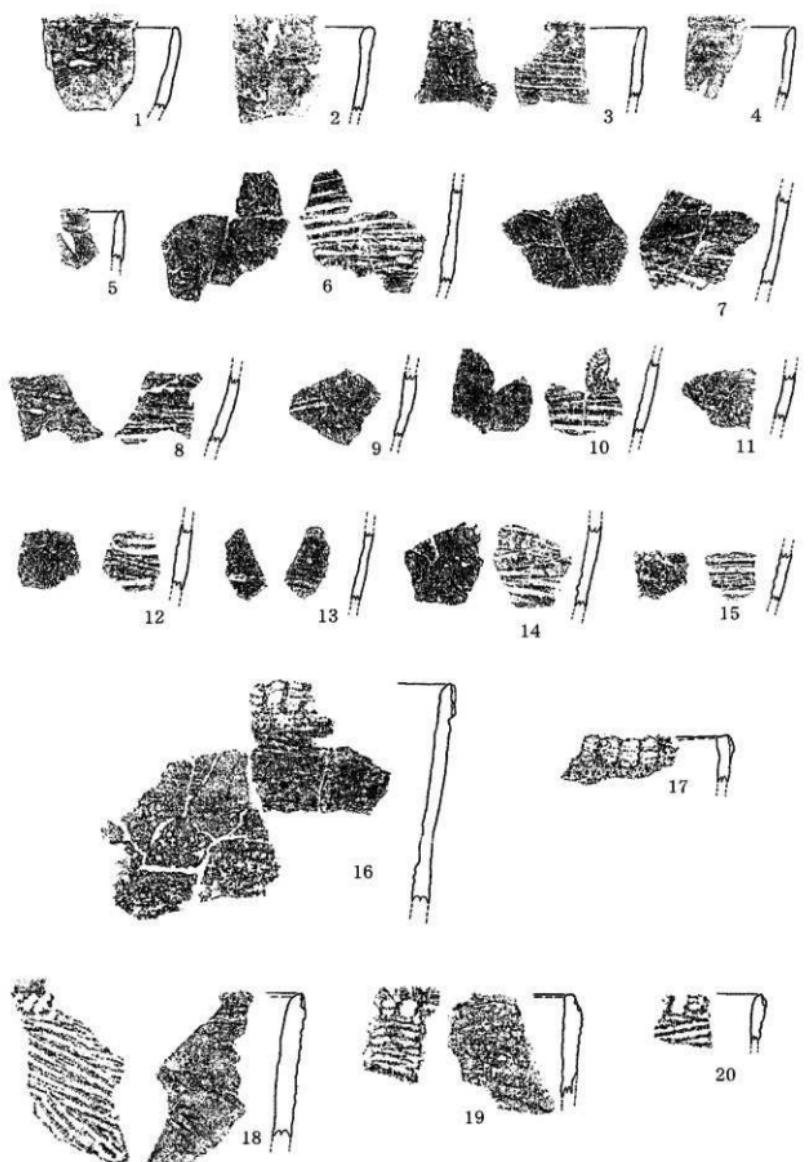
## 第4節 出土遺物

### I・土器

出土した土器は、次のI~XI類に分類を行った。

#### I類：無文で薄手の土器群(第13図1~15)

底部から口縁部にかけて殆ど変化することなく外反する器形を呈する。口縁部の断面は、(1)はやや内傾し、(3)は僅かに外反する。また(2)は、口縁直下の調整が雑であるが、全体的には口縁部から胴部まで大きな変化なく外反する器形を呈する。内面は横方向の条痕が施された後、口縁部付近のみナデが行われている。色調は、多くが暗褐色であり、胎土は、長石・角閃石など一般的な混和材の量が少ない一方、器面には繊維の痕跡が認められる多くは同一個体と思われる。



第13図 出土土器実測図(1)

0 50 10cm

**II類：前平式土器**

2類に細別が可能である。

**IIA：胴部にナデによる調整が行われる上器群（第14図16・17）**

僅かに外反した、円筒状の器形を呈しており、口唇部が内傾する一群である。口縁部付近には、貝殻腹縁刺突が行われている。（16）は、口縁部文様帯と胴部の境界にも、貝殻腹縁を横位に2列刺突する。外面の胴部及び内面は、丁寧なナデ調整が行われる。

**IIB：胴部に貝殻条痕による調整が行われる土器群**

更に3類に細別が可能である。

**IIBa：口縁部に貝殻腹縁刺突が行われる土器（第13図18～20）**

僅かに外反した、円筒状の器形を呈する。（18・20）の口唇部は内傾するが、（19）は水平に近い。文様は、胴部に斜位の深い条痕を行った後、口縁部付近に貝殻腹縁刺突を施す。内面は、斜位に粗雑なナデ調整が行われる。

**IIBb：口縁部に工具による刺突が行われる土器（第14図21～27）**

僅かに外反した、円筒状の器形を呈する。口唇部は内傾する。文様は、口縁部に工具による連点を巡らせた後、胴部に斜位の深い条痕を施す。口縁部の刺突は、（21）を除いて2列である。内面は斜位の粗いナデ調整が行われる。なお、（27）の口唇部には、工具による押引が行われる。

**IIBc：a・bの胴部片（第14図28～44）**

a・bのどちらかであろうと思われる胴部である。いずれも僅かに外反する器形を呈し、外面に深い条痕が残される。条痕の方向は多くが斜位である。

**III類：貝殻条痕文土器（第15図45～49）**

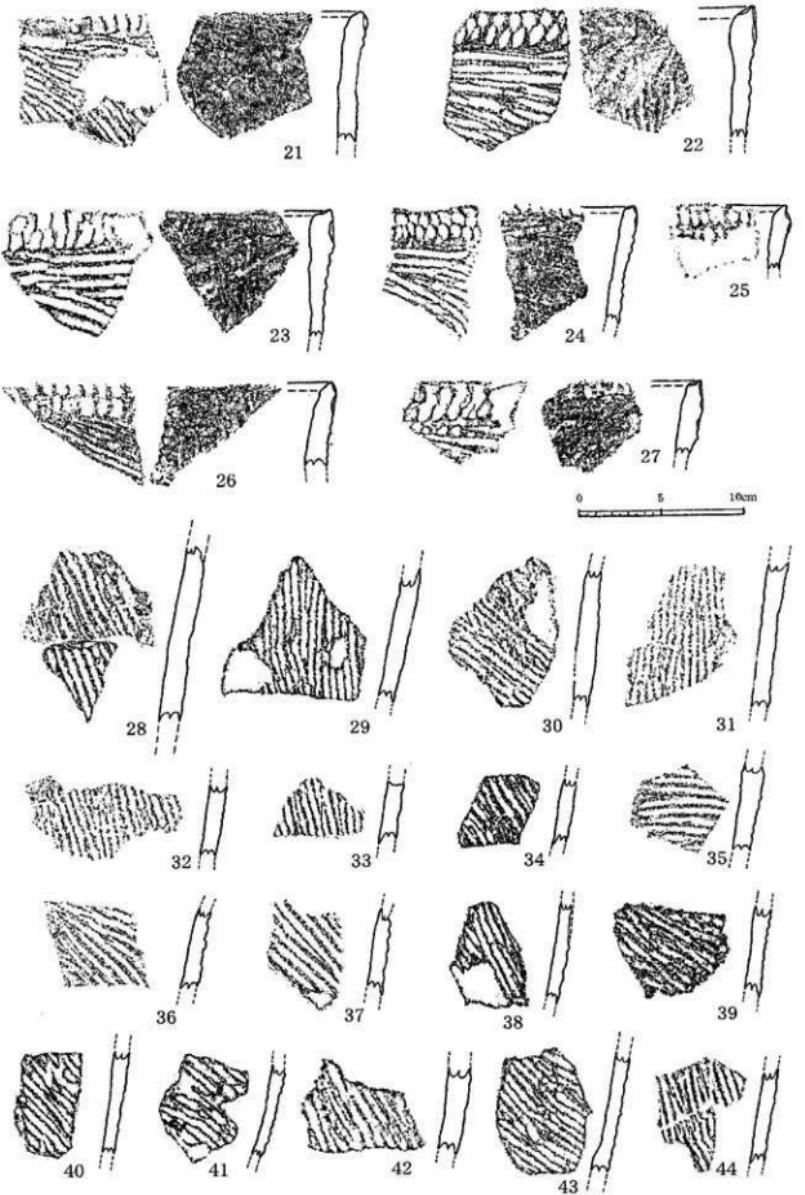
胴部が膨らみ、口縁部がやや外反する器形を呈する。外面には、二枚貝条痕が行われる。口唇部に稜は設けられず、口縁部に貝殻腹縁刺突は行われない。後述するが、ズクノ山第2遺跡E地区からは、この一群が主体的に出土した。

**IV類：中原式土器（第15図50～53）**

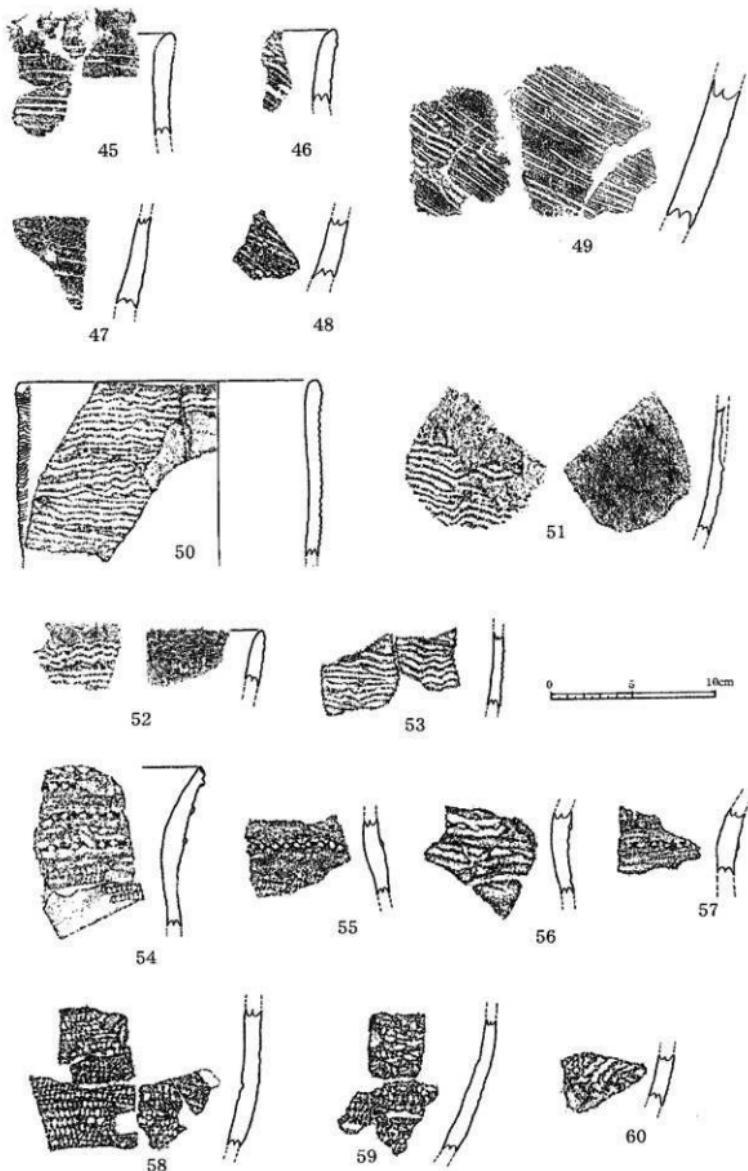
全体的に円筒状の器形であるが、胴部が僅かに膨らみ、口縁部がやや外反する器形を呈する。外面は工具による波状の条痕文が横位に巡る。内面は、II類と同様に粗いナデが行われる。いずれも暗い色調である。木崎氏の編年に従えば<sup>(註2)</sup>、III式もしくはIV式にあたる。

**V類：妙見式土器（第15図54～60）**

口縁部が大きく外反し、頸部で明瞭な屈曲が見られ、胴部が膨らむ器形を呈する。押压繩文が全面に施され、口縁部にはその上に刻目を有する突帯が横位に数条貼り付けられる。色調は、いずれも赤みがかかっている。



第14図 出土土器実測図(2)



第15図 出土土器実測図(3)

#### **VI類：平柄式土器**

4類に細分が可能である。

##### **VIA：口縁部文様帯に沈線文が多用される土器 (第16図61～65)**

肥厚する口縁部が大きく外反する器形を呈する。いずれも口縁部片であるが、同一型式である、B類と同様の器形を呈すると思われる。他の出土土器と比べ、焼成が良好である。

##### **VI B：口縁部文様帯に刺突文が多用される土器 (第16図66～86)**

外反気味になる口縁部を持ち、頸部で屈曲し、胴部が膨らむ器形を呈する。文様は沈線と工具刺突を多用しており、縄文は使用しない。施文部位は主に口縁部と胴部である。(73)は、頸部に施文されたもので、刻目を有する突帯が2条貼り付けられる。内面は横位のナデが行わる。

##### **VI C：その他の土器 (第16図87～95)**

(87～89)は、頸部から外反し、口縁部に肥厚帯が設けられる。波状口縁を呈しており、内外面共にナデによる調整を行う。施文は全く行わない。(90)は、大きく外反する口縁部であり、刻目を持つ隆帯が横位に数条貼り付けられる。(91)は、肥厚帯に縄文が施文される。(94・95)は、口縁端部にて突帯が貼り付けられる。突帯は、その下位にも貼り付けられるが、口縁に平行しない。

##### **VID：A～Cの胴部片 (第16・17図96～111)**

(96・100・102)は、胴部上半に膨らみが認められる。(97～99・101)は、縄文の後に、撚糸文を幾重にも施文する。(103)は、刻目突帯と棒状の工具による条痕が施文されている。(108・109)は、VI類Bと同様の刺突が行われている。

#### **VII類：塞ノ神式土器 (第17図112・113)**

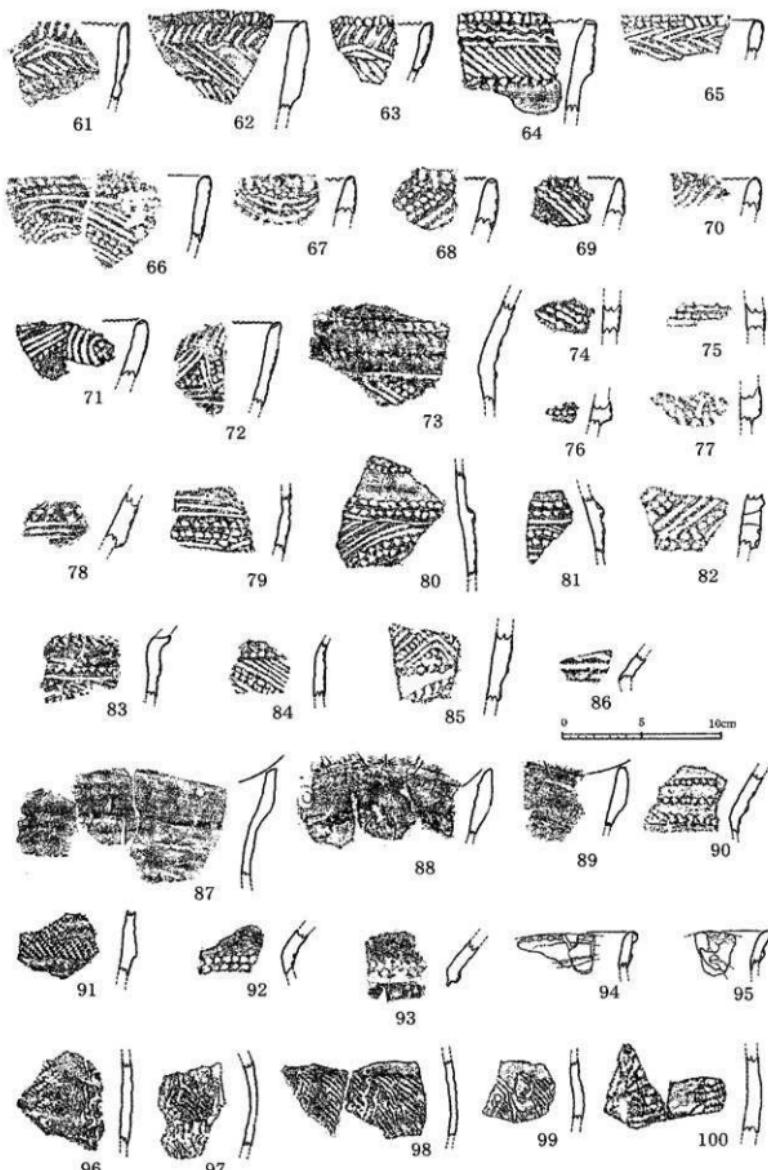
(112)は、膨らみを持たず、底部までほぼ垂直に達する胴部片である。外面には網目状の撚糸文が縦位に施文されており、その上に沈線が施文される。(113)は、口縁部と胴部の境界にあたり、口縁は大きく外反する。刻目を持つ突帯が2列にわたって貼り付けられる。

#### **VIII類：鎌石橋式土器・壽I式土器 (第17図114～116)**

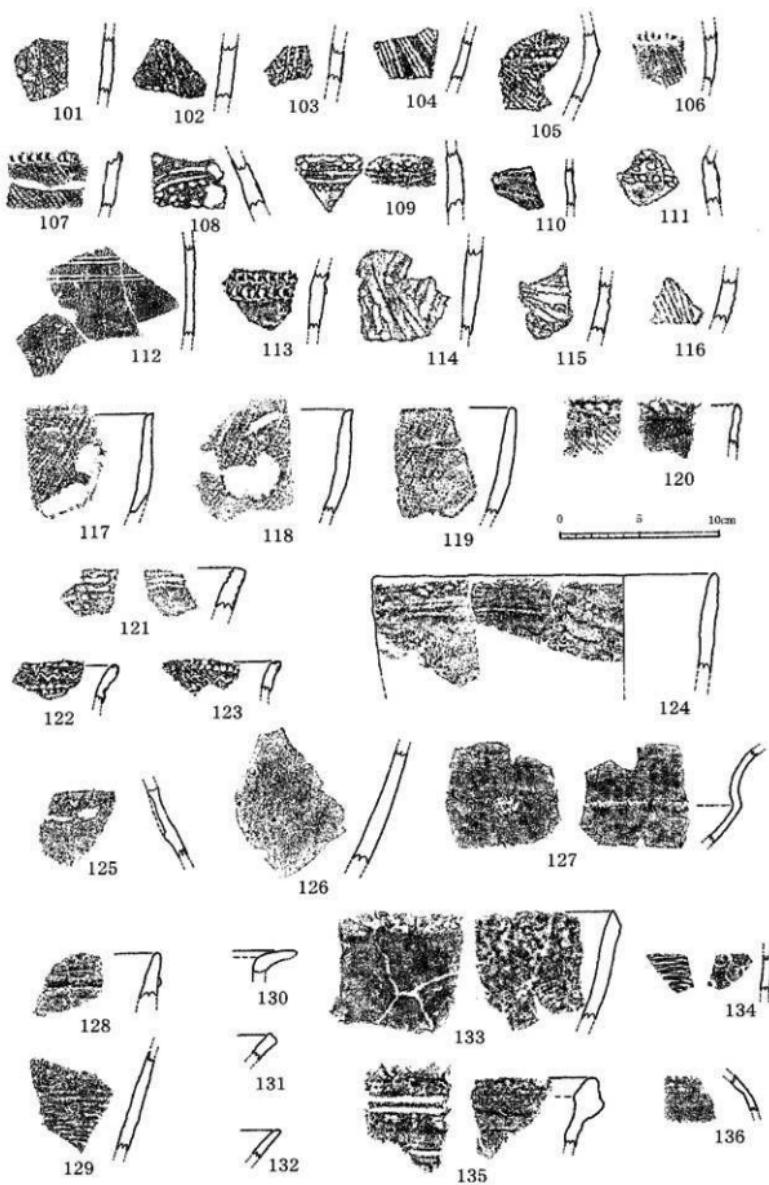
口縁部から底部にかけて、やや外反する器形を呈すると思われる。(114・115)は、ヘラ状工具による条痕を一定間隔に行い、脇にはみ出た粘土で微隆起を作出したものである。(116)は、細い鋭利な工具で粗い条痕を行ったものである。

#### **IX類：縄文系土器 (第17図117～120)**

(117～119)は同一個体であり、口縁部はやや内傾気味である。(120)は、口唇部に刻みが行わっている。



第16図 出土土器実測図(4)



第17図 出土土器実測図(5)

**X類：その他の土器 (第17図121～136)**

(121)は、外面に二枚貝による文様が横位に施文され、内面の口縁部付近には燃糸文が施文される。口唇部の断面は方形を呈し、口縁は外反する。(122・123)は同一個体である。口縁の径が著しく小さく、口縁部が外反する一方、頸部は窄まっていることから、壺形土器であると考えられる。(124)は口縁部片である。僅かに外反しながら胴部に至る器形を呈すると考えられる。内外面には、条痕の後にナデが行われるが、文様は全く施文されない。(125)も、同様に壺形土器と考えられる。

(126～129)は、縄文時代早期以降の縄文土器である。

(126)は、胴部下半にあたると考えられる。全面にわたって丁寧なナデ調整が斜位に行われている。焼成は良好であり、縄文後期～晩期の土器と考えられる。(127)は、入念に磨かれた黒色磨研土器である。

(128・129)は、時期不明の縄文土器である。(128)は、口縁直下に隆帯が一条、口縁に平行して貼付けられる。内外面にはナデ調整が行われる。(129)の内面には、刷け目状の調整が行われる。

(130～136)は、縄文時代以降の土器である。

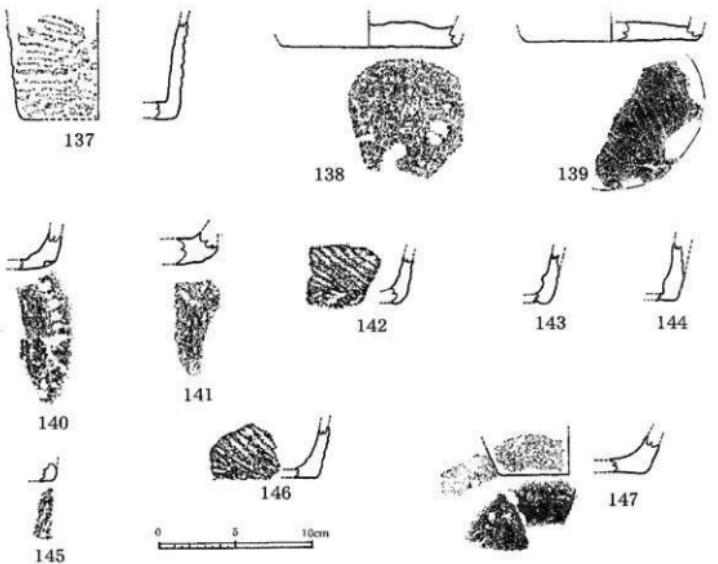
(130～132)は、胎土や器形から、弥生土器である可能性が高い。(133)は、楕円形の器形を呈し、口縁部には鋭利な稜が設けられる。外面には目立った調整は行われず、内面には布の圧痕が認められる。焼きは脆く、混和材の割合も少ない。古代に生産された布痕土器である。(134)は須恵器である。外面に横方向の平行タタキが行われ、内面には同心円当具痕が見られる。極めて薄手である。(135)は陶器である、口縁部に設けられた肥厚帯には凹線が2条巡っており、内面には鋭利な沈線が縦位に施される。器形から拂り鉢と考えられる。(136)も陶器であり、蓋にあたるものと思われる。ロクロを使って生産されており、内面には濃厚に釉薬が付着する。釉薬は外面下部にも認められる。

**X I類：底部 (第18図137～147)**

(137)は、外面に深い条痕が残る。(138)の内側は、調整が行われないが、(139)は、内外面にわたって丁寧なナデ調整が行われる。(140)は、底面の縁の一部に工具による刺突が施文される。(141・142)の底部は極端に薄く作られている。

**II・石器****石鎌 (第19図148～160)**

いずれも基部に抉りを有する。中でも(148・149・153・155・156)の基部には深い抉りが認められるが、それ以外の基部は抉りが浅い。(155)は、尖端部と基部の計3箇所が鋭利になるよう、微細な調整を行い、形状を整えたものである。一方、(154・159)の調整は全体に粗く、



第149図 出土土器実測図(6)

特に尖端部に対する調整が不足していることから、製作途中である可能性も考えられる。(160)は、尖端部が欠損した後に、上部から剥離を行うことによって再製作を行おうとしたものである。しかし、剥離を数回行った段階で、製作を中断、若しくは放棄している。

#### 尖頭状石器 (第19図161)

粗悪なチャートを剥離する際に生じた厚手の剥片を用いたもので、両面からの大まかな調製により、尖頭部を作出する。ただし、尖端部をより銳利にすることを目的とした調製は少ない。

#### 両面加工石器 (第19図162)

両面からの剥離により、紡錘形に成形する石器である。面的な調整により、断面が凸レンズ状となっている。一方、両端を尖らせるよう意図した調整は乏しい。

#### 二次加工剥片 (第19図163)

同一方向から連続的に剥離された不定形な剥片の上部に、両側から剥離を加えたものである。この調整により、剥片上部につまみ状の突出部が作出される。一見すると石匙にも見えるが、



件名	手筋	部位	分類	部位	色		量	備考
					外	内		
22 第23回	II B b	口唇部	内: 鮫点・鰓化ナード	外: 鮫点・鰓化ナード	白:	青:	少D: 中E: 少F: 少	口唇部に薄目 C網大
23 第23回	II B b	口唇部	外: 鮫点・鰓化ナード	内: 鮫点・鰓化ナード	白:	青:	多D: 多E: 少F: 少	口唇部に薄目 C網大
24 解23回	H B b	口唇部	外: 鮫点・鰓化ナード	内: 鮫点・鰓化ナード	白:	青:	多D: 中E: 少F: 微G: 粉	口唇部に薄目 C網大
25 新23回	II B b	口唇部	外: 鮫点	内: 鮫点ナード	白:	青:	少D: 中E: 少F: 少G: 粉	口唇部に薄目 C網大
26 新23回	II B b	口唇部	外: 鮫点・鰓化ナード	内: 鮫点・鰓化ナード	白:	青:	多D: 多E: 少F: 少G: 粉	口唇部に薄目 C網大
27 新23回	II B b	口唇部	外: 鮫点・鰓化ナード	内: 鮫点ナード	白:	青:	少D: 中E: 少F: 少G: 粉	口唇部に薄目 C網大
28 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化系統	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
29 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化系統ナード	白:	青:	少D: 少E: 微	脚部
30 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 中F: 微	脚部
31 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 中F: 微	脚部
32 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
33 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 微	脚部
34 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
35 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: ナード	白:	青:	少D: 中E: 少F: 微	脚部
36 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
37 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
38 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
39 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
40 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
41 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 鮫化ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部
42 第23回	II B c	脚部	外: 鮫化系統	内: 不定方向ナード	白:	青:	少D: 少E: 少F: 微	脚部

表2 出土土器観察表(2)

表3 出土器觀察表(3)

出土品名	C:白色地 E:砂岩	F:淡黄色地 G:墨黑石片	H:赤土	（特多:特に多量、多:多量、中:中量、少:少量、無:微量）	備考	
部	位置	部位	部位	部位		
60	第25岡 VIA	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部	外: 脚尖部→脚位短い遠点 内: 脚尖部ナラフ	A:微少; B:中; C:特多; D:中; E:少; 内: B:中; C:特多; D:中; E:少;	口部部に深い窓日
66	第25岡 VIA	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→脚位短い遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
67	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
68	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
69	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
70	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
71	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
72	第25岡 VIB	1.脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による跡印 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
73	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部貼付→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
74	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・沈縫 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
75	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・沈縫 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
76	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
77	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
78	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
79	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
80	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
81	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
82	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
83	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日
84	第25岡 VIB	脚部 内:	外: 脚尖部 内: 脚尖部ナラフ	外: 脚尖部→工具による遠点・工具による遠点 内: 脚尖部ナラフ	外: C:少; D:中; E:少; 内: C:少; D:中; E:少;	口部部に脚日

表4 出土土器觀察表(4)

表5 山土器觀察表(5)

No.	分類	部位	外: <i>T</i> 具による痕跡、工具による刮削痕跡 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	色 調	土 質	備考
85	第25回	VIB	脣部	外: <i>T</i> 具による痕跡、工具による刮削痕跡 内: 斜位ナード	A:少:C:少:D:少:E:微	A:少:C:少:D:中:E:少	
86	第25回	VIB	脣部	外: <i>T</i> 具による痕跡、工具による刮削痕跡 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	
87	第25回	VIC	口縁部	外: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	87~89は同一個体
88	第25回	VIC	口縁部	外: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	87~89は同一個体
89	第25回	VIC	口縁部	外: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	87~89は同一個体
90	第25回	VIC	脣部	外: 斜位ナード→斜口突起部分 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	87~89は同一個体
91	第25回	VIC	脣部	外: 斜位ナード→墨文→→筆跡 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	87~89は同一個体
92	第25回	VIC	口縫～脣部	外: 斜位ナード→連点 内: 「筆」文風化ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	93と同一個体
93	第25回	VIC	口縫～脣部	外: 斜位ナード→墨文 内: 「筆」文風化ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	93と同一個体
94	第25回	VIC	口縫部	外: ナード付端部付→弱点 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	95と同一個体
95	第25回	VIC	口縫部	外: ナード付端部付 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	96と同一個体
96	第25回	VID	脣部	外: 斜位ナード→端部端 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	97と同一個体
97	第25回	VID	脣部	外: 墨文→筆文 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	98と同一個体
98	第25回	VID	脣部	外: 墨文→筆文→墨文→墨文 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	99と同一個体
99	第25回	VID	脣部	外: 墨文→筆文→墨文→墨文 内: ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	100と同一個体
100	第25回	VID	脣部	外: 墨文→筆文→筆文 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	101と同一個体
101	第25回	VID	脣部	外: 墨文→筆位系文 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	102と同一個体
102	第25回	VID	脣部	外: 墨位系文→筆位系文 内: ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	103と同一個体
103	第25回	VID	脣部	外: 前自然帶付付→工具による沈刷 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	104と同一個体
104	第25回	VID	脣部	外: 斜位文→斜口突起部分 内: 斜位ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	105と同一個体
105	第25回	VID	脣部	外: 斜口突起部分→斜口突起部分 内: ナード	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	106と同一個体

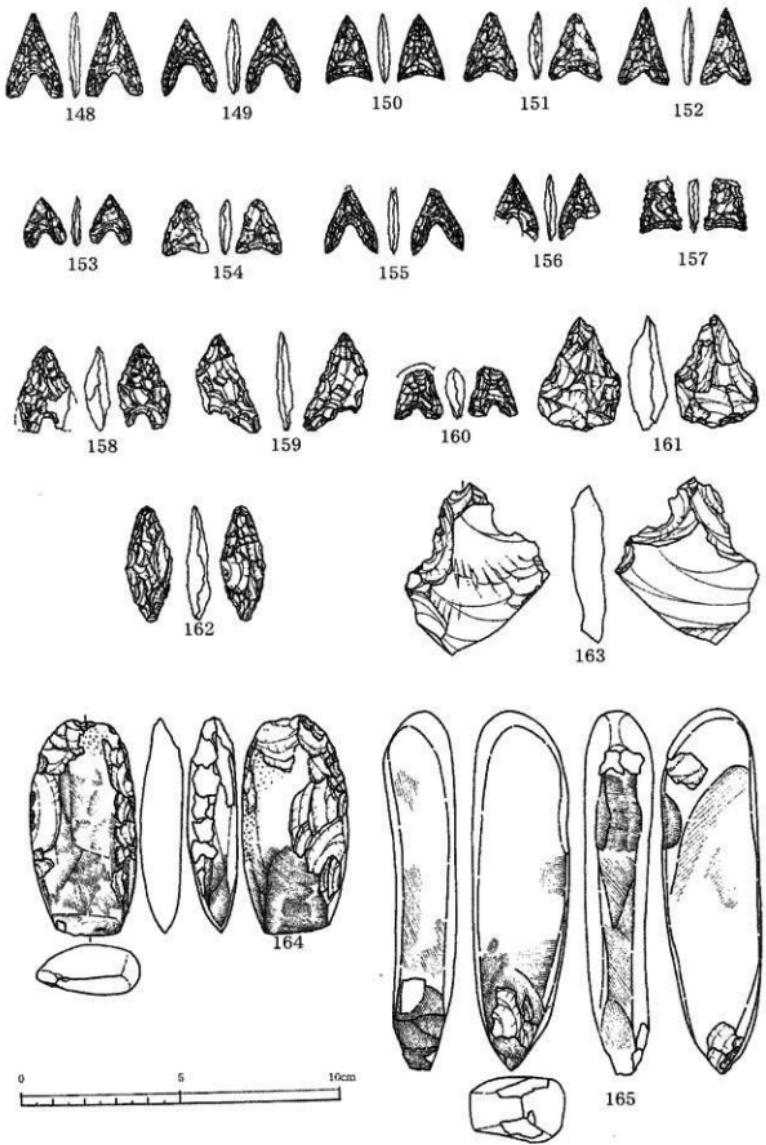
No.	平面分布図	分類	部 位	面 位	基	（特徴）	多：多量	少：少量	中：中量	少：少量	中：中量	少：少量	基	土	備考
106	第25図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶附付		外：縦5YR7/6	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	
107	第25図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶附付	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/6	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
108	第5図	VII	脚部	外：丁字に沿う縫合・透点	内：横文・ナード	内：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
109	第25図	VII	脚部	外：側面直角帶付・一枚状透織・透孔	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
110	第25図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶付・側位ナード	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
111	第25図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶付・一枚状透織	内：横文・ナード	内：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
112	第26図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶付	内：横文・ナード	内：縦7.5YR7/3	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	多：多
113	第26図	VII	脚部	外：縦文・側面直角帶付	内：横文・ナード	内：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
114	第26図	VII	脚部	外：毛糸なし下反方向の条痕	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
115	第26図	VII	脚部	外：毛糸なし下反方向の条痕	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
116	第26図	VII	脚部	外：毛糸なし下反方向の条痕	内：横文・ナード	外：縦7.5YR7/3	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
117	第26図	VII	口縫部	外：横文・ナード	内：毛糸なし	内：縦7.5YR7/1	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
118	第26図	VII	口縫部	外：横文・ナード	内：毛糸なし	外：縦7.5YR7/2	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
119	第26図	VII	口縫部	外：横文・ナード	内：毛糸なし	内：毛糸なし	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
120	第26図	VII	口縫部	外：横文・ナード	内：毛糸なし	内：縦7.5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
121	—	X	口縫部	外：只縫合透織	内：ナード・縫合透織	外：縦5YR7/3	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
122	—	X	口縫部	外：横文・丁字に沿う縫合・一枚状透織	内：丁字に沿うナード	外：縦5YR7/6	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
123	—	X	口縫部	外：丁字に沿う縫合・一枚状透織	内：丁字に沿うナード	外：縦5YR7/6	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
124	—	X	口縫部	外：横文・丁字に沿う縫合・一枚状透織	内：丁字に沿うナード	外：縦5YR7/4	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
125	—	X	口縫部	外：横文・ナード	内：横文・ナード	外：横文・YR7/8	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少
126	—	X	口縫部	外：丁字に沿う縫合・一枚状透織	内：丁字に沿うナード	外：縦5YR7/6	A-1	C-1	D-1	E-1	F-1	G-1	H-1	I-1	少：少

表6 出土器類整理(6)

出土(A:青石 B:白石 C:白色砂 D:墨玉 E:砂岩 F:素面砂岩 G:黑石 H:人形石 ) (地名:前ノ原)

No.	平面分布図	分類	部位	解説	色	調査	測定
127	—	X	腹部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/3 内: 深赤2. BY7/3	内: 黄: 深C:少F:微 外: 深C:少F:微	A:多C:少F:微
128	—	X	口縁部	外: 横位ミガキ 内: 横位ミガキ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/3	内: 黄: 深C:少F:微 外: 深C:少F:微	A:多C:少F:少
129	—	X	腹部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/1 内: 深黄2. BY7/1	内: 黄: 深C:少F:微 外: 深C:少F:微	A:多C:少F:微
130	—	X	口縁部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 深黄2. BY7/6	C:少F:微
131	—	X	口縁部	内: 丁寧な横位ミガキ 外: 丁寧な横位ミガキ	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	A:多C:少F:少
132	—	X	口縁部	内: 丁寧な横位ミガキ 外: 丁寧な横位ミガキ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	A:多C:少F:少
133	—	X	口縁部	内: 丁寧な横位ミガキ 外: 丁寧な横位ミガキ	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	A:多C:少F:少
134	—	X	腹部	内: 平坦円筒状 外: 平坦円筒状	深黄2. BY7/2 内: 深黄2. BY7/1	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	深黄
135	—	X	口縁部	内: 同底横位ミガキ 外: 同底横位ミガキ	深黄2. BY7/3 内: 深黄2. BY7/2	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	A:多C:少F:少
136	—	X	腹部	内: 同底横位ミガキ 外: 同底横位ミガキ	深黄2. BY7/1 内: 深黄2. BY7/1	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C:少
137	—	X I	底部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
138	—	X I	底部	内: ナデ 外: ナデ	深黄2. BY7/3 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
139	—	X I	底部	内: 丁寧なナデ 外: 丁寧なナデ	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
140	—	X I	底部	内: ミガキ→工具による削除 外: ナデ→粗略なナデによる底部との接觸	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
141	—	X I	底部	内: ナデ 外: ナデ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/3	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
142	—	X I	底部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
143	—	X I	底部	内: ナデ→粗略なナデによる底部との接觸	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
144	—	X I	底部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/8 内: 深黄2. BY7/8	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
145	—	X I	底部	内: ナデ	— 内: —	内: — 外: 黄: 深C:少F:少	— A:多C:少F:少
146	—	X I	底部	内: 横位ミガキ 外: 横位ミガキ	深黄2. BY7/6 内: 深黄2. BY7/6	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大
147	—	X I	底部	内: ミガキ 外: 丁寧なナデ	深黄2. BY7/4 内: 深黄2. BY7/4	内: 黄: 深C:少F:少 外: 黄: 深C:少F:少	C相人 C相大

表7 出土器觀察表(7)



第19図 出土石器実測図(1)

表8 集石遺構観察表

No.	礫の範囲(m)	掘込みの深さ(m)	礫密度	配石	炭化物	分類
SI-01	1.88×1.22	0.26	密	×		II
SI-02	0.92×0.78	0.15	密	○		III
SI-03	1.04×0.99	0.17	疎	×	○	II
SI-04	1.06×0.99	0.17	密	×		II
SI-05	1.02×0.81	0.18	疎	×		II
SI-06	0.83×0.59	0.15	疎	×		II
SI-07	1.22×1.19	0.2	疎	×		II
SI-08	1.28×1.19	0.15	疎	×		II
SI-09	—	—	—	—		—
SI-10	1.35×1.01	0.18	密	×	○	II
SI-11	1.71×0.90	0.3	疎	×		II
SI-12	1.23×1.05	0.29	密	×		II
SI-13	2.05×1.89	0.18	疎	×		II
SI-14	1.28×1.26	0.15	密	×		II
SI-15	1.49×1.10	0.23	密	×		II
SI-16	1.44×1.04	0.26	密	×		II
SI-17	—	—	—	—		—
SI-18	1.17×1.05	0.23	密	×		II
SI-19	0.95×0.78	0.12	疎	×		II
SI-20	0.83×0.66	0.14	疎	×		II
SI-21	0.77×0.74	0.18	密	×		II
SI-22	1.31×1.04	0.18	疎	×		II
SI-23	1.56×1.31	0.23	疎	×		II
SI-24	0.98×0.87	0.15	疎	×		II
SI-25	0.90×0.53	0.15	疎	×		II
SI-26	—	—	—	—		—

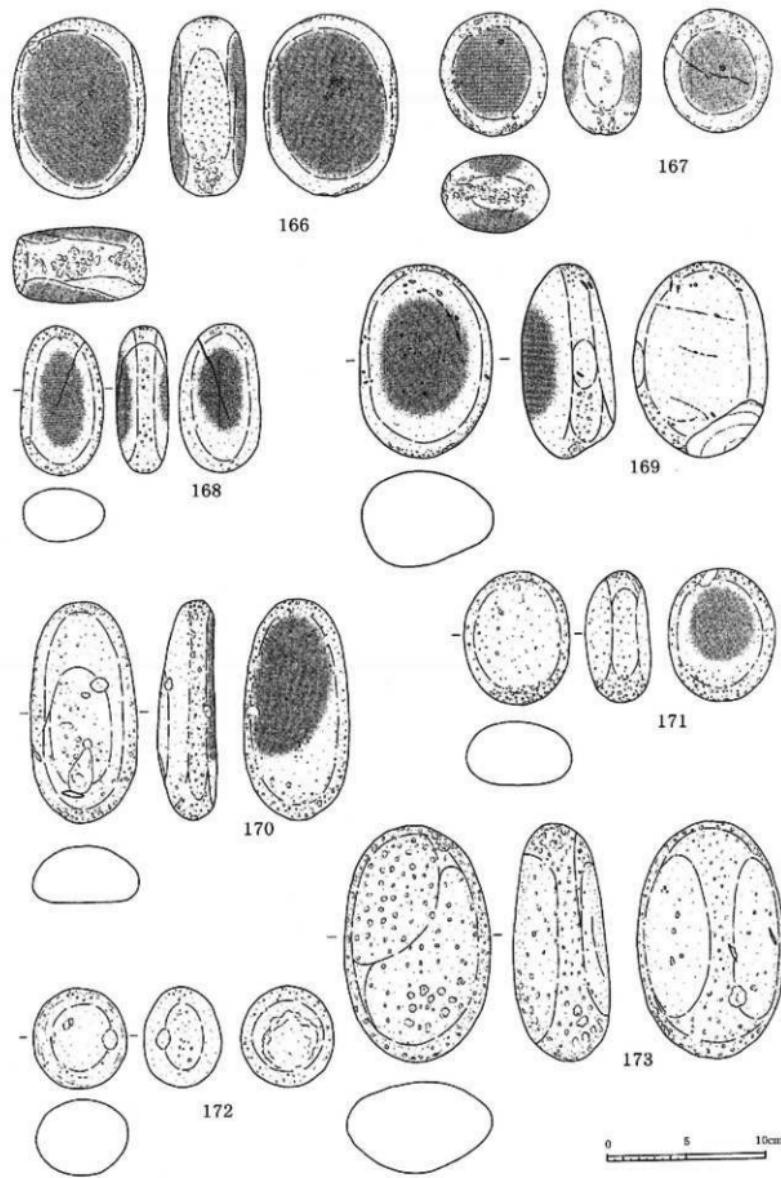
\*「分類」の概念は、八木澤一郎「1994年度九州の集石遺構」『南九州調査通信』No. 8の基準に従った。

表9 出土石破片表

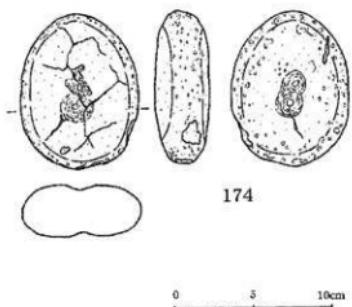
No.	長さ(cm)	幅(cm)	抉り(cm)	石 材	欠損部位
148	2.6	1.8	0.7	良質チャート	尖・片脚部
149	2.35	1.7	0.9	良質チャート	尖端部
150	2.15	1.45	0.2	ホルンフェルス	片脚部
151	2.15	1.7	0.3	安山岩質	
152	2.4	1.6	0.4	安山岩質	
153	1.6	1.3	0.45	安山岩質	片脚部
154	1.75	1.4	0.2	砂岩	
155	—	1.6	0.95	良質チャート	
156	2.05	1.4	0.7	良質チャート	
157	—	1.35	0.15	ホルンフェルス	
158	2.7	—	0.5	黒曜石A	
159	3.1	2.6	0.6	良質チャート	片脚部
160	—	1.55	0.35	良質チャート	片脚部

表10 出土磨石観察表

No.	石材名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	敲打痕	研磨痕
166	砂岩	11.3	8.4	4.9	800	周縁及び両面	両面
167	尾鈴酸性岩	7.7	6.7	4.8	370	周縁	両面
168	砂岩	9.3	5.2	3.2	250	周縁	両面
169	砂岩	12.2	8.3	5.8	800	両端部及び片面	片面
170	砂岩	14	6.7	3.7	480	ほぼ全面	片面
171	砂岩	8.4	6.7	4	310	周縁及び片面	片面
172	砂岩	6.3	5.8	4.9	250	周縁	無
173	砂岩	15	9.2	5.9	1000	全面	無



第20図 出土石器実測図(2)



第21図 出土石器実測図(3)

刃部調整は行われない。

#### 石斧 (第19図164)

1点出土した。堆積岩を両縁から剥離した後、刃部には研磨を、柄にあたる部分には敲打を行い仕上げたものである。

#### 磨石 (第20図166～173)

約30点出土した。ここでは、うち8点を掲載した。具体的な観察結果は表10のとおりである。

#### 凹み石 (第21図174)

平坦面に使用による凹みがあることから、磨石とは区別した。凹みは、両面の中央部にそれぞれ2箇所並んでいる。周縁には敲打痕が明確に認められる。

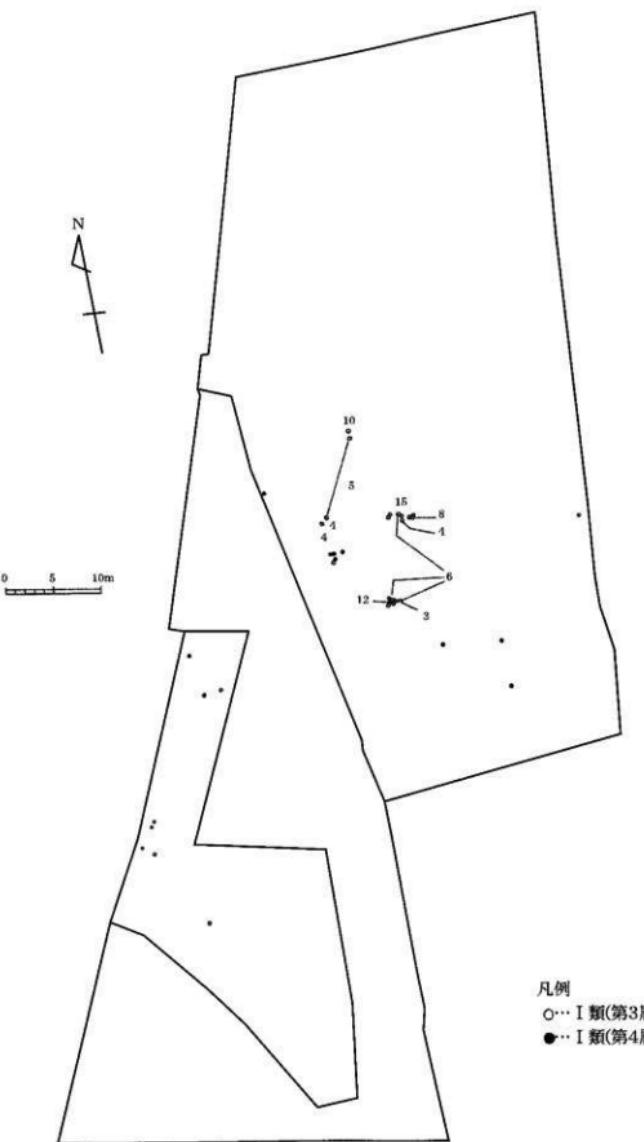
#### 抉入片刃石斧 (第19図165)

棒状の円錐を用い端部に側縁から面的な剥離を行い、更に研磨を行うことにより、刃部を作出する。研磨は片側の側縁にも顕著に行われ、柄がずれないよう、ストッパーも設けられている。弥生時代に使用された石斧の一種(註3)であるが、北部九州で見られるれるものよりも、研磨による成形が希薄であり、原礫の形状に大きな変更はない。アカホヤ火山灰層の上面で確認された。

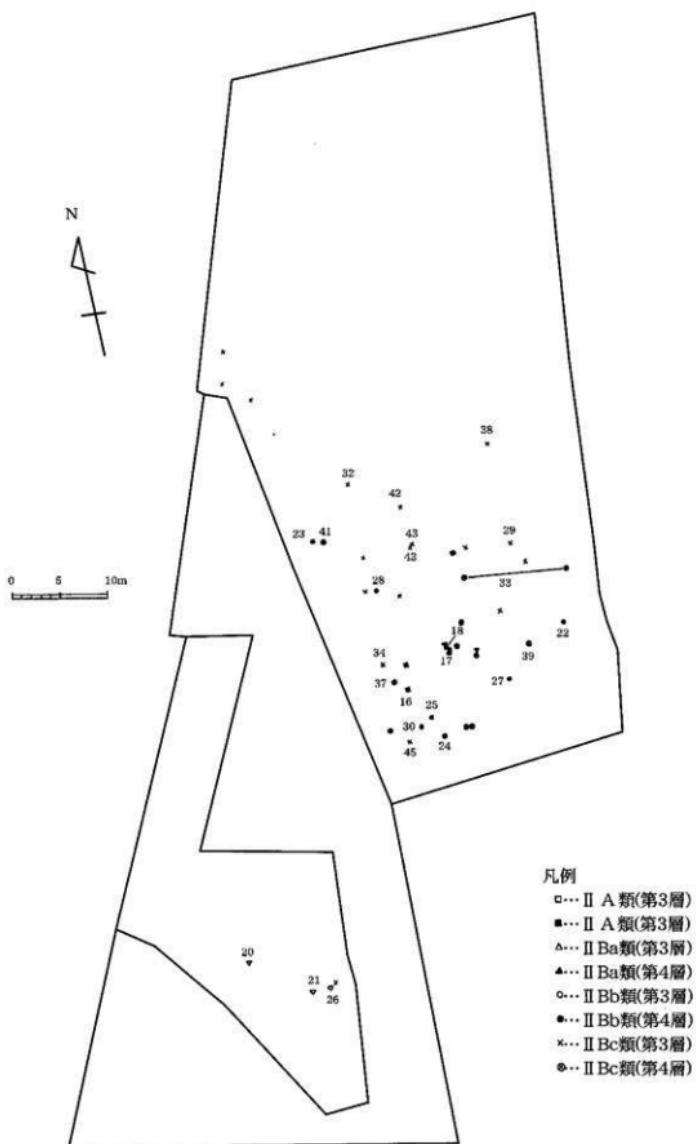
#### 第5節 小結

前ノ原第2遺跡からは、幅広い年代の生活跡が確認された。

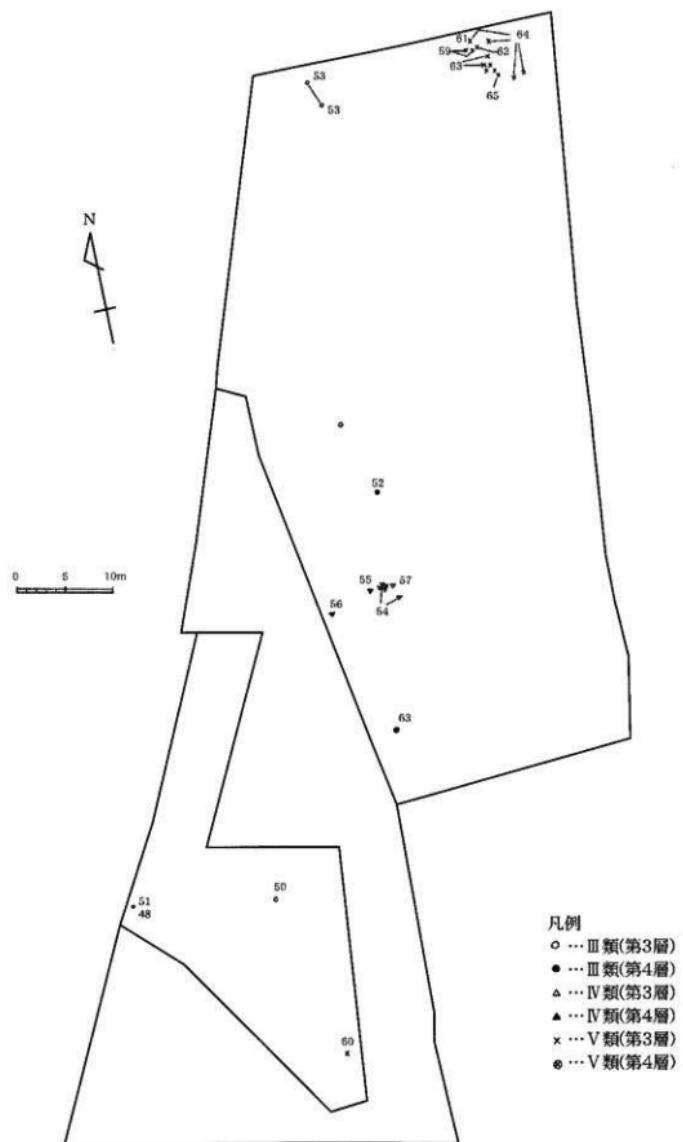
最も古い年代は縄文時代早期であり、早期の前葉から末にかけて、長期間にわたる集落が営



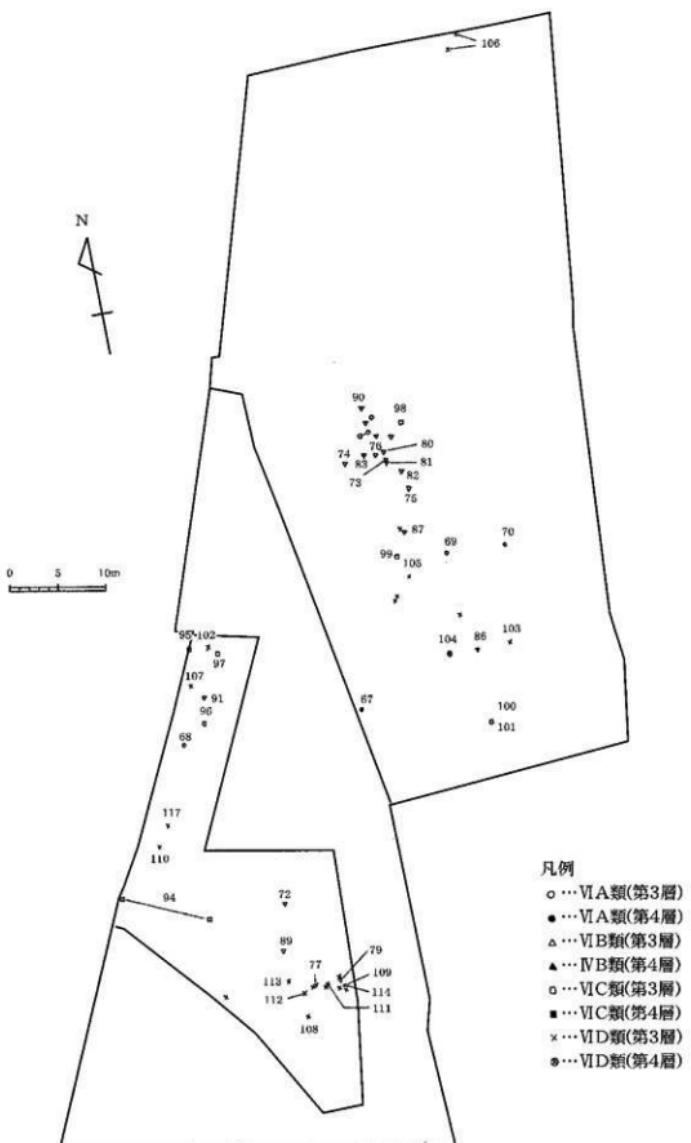
第22図 出土土器平面分布図(I類)



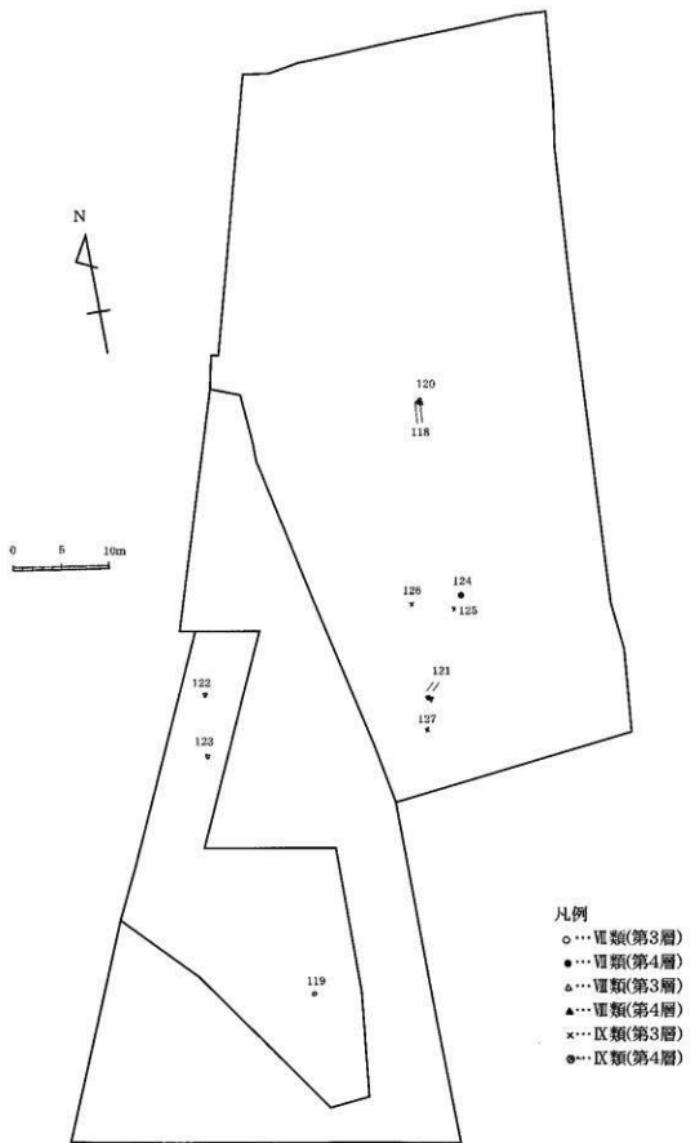
第23図 出土土器平面分布図(II類)



第24図 出土土器平面分布図(III～V類)



第25図 出土土器平面分布図(VI類)



第26図 出土土器平面分布図(VI～IX類)

まれていたことが明らかとなった。中でも、早期前葉の前平式と、後葉の平椿式の出土量は多く、集落の規模が比較的大きかったことを窺わせる。一方、早期中葉の土器群は、中原Ⅲ・Ⅳ式が一個体出土するのみであり、集落の縮小が考えられる。

調査区内からは検出された集石遺構は26基に上る。形態的には、殆どが掘り込みを伴い、底石を配置しない、八木澤氏の分類ではⅡ類にあたるものである(註4)。また、磨石も約30点出土している。このような出土状況は、縄文時代早期を通して、この地点が集落内における調理場であったことを物語っている。なお、石製品に目を向けると、石礫が8点しか出土せず、調査区内から出土する剥片も極めて少量であることから、石器の製作場は、調査区外に設けられていたと想定される。

生活跡は、縄文時代早期以降も見受けられる。アカホヤ火山灰層の上面からは、縄文後～晩期の土器や、弥生時代の遺物が少量出土し、古代の布痕土器も確認されている。また、時期不明ながら、柱穴と考えられるピット群も検出されている。アカホヤ火山灰層の上層が殆ど削平されていたために詳細は不明であるが、縄文時代早期以降も、たびたび集落が形成されていたことが窺える。

## 註

- 1: 上田耕・李烟光博 1997「宮崎県内の抉伏耳飾」『南九州縄文通信』No.11
- 2: 熊本県教育委員会 1996「衛生・上の原遺跡」『熊本県文化財調査報告書』第158集
- 3: 甲元真之・山商純男 1984「弥生時代の知識」東京美術
- 4: 八木澤一郎 1994「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No.8



鹿村野台地 航空写真（南から）

図版2



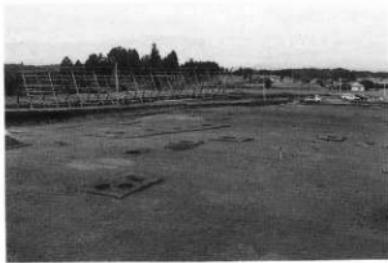
調査区近景



調査区近景



調査区近景



調査区近景



ピット群検出状況



ピット群検出状況



標群 検出状況



礫群 検出状況



SI-01 検出状況



SI-02 検出状況



SI-03 検出状況



SI-04 検出状況



SI-05 検出状況



SI-06 検出状況



SI-10 検出状況



SI-11 検出状況



SI-13 検出状況



SI-16 検出状況

図版  
5



SI-18 検出状況



SI-19 検出状況



SI-21 検出状況



SI-22 検出状況



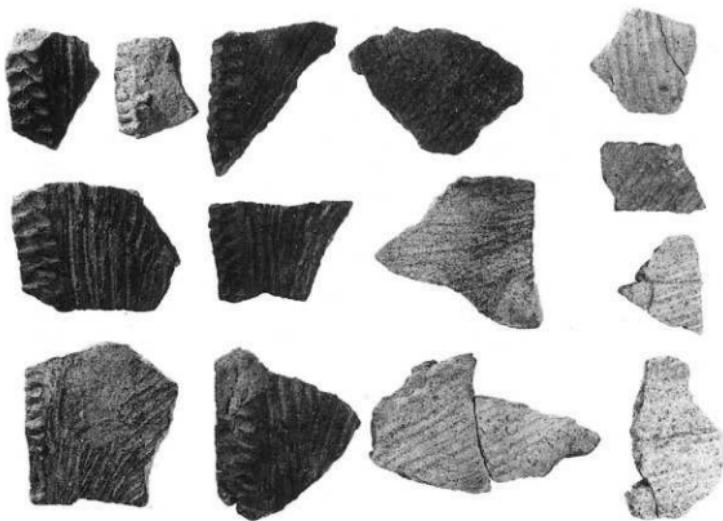
SI-23 検出状況



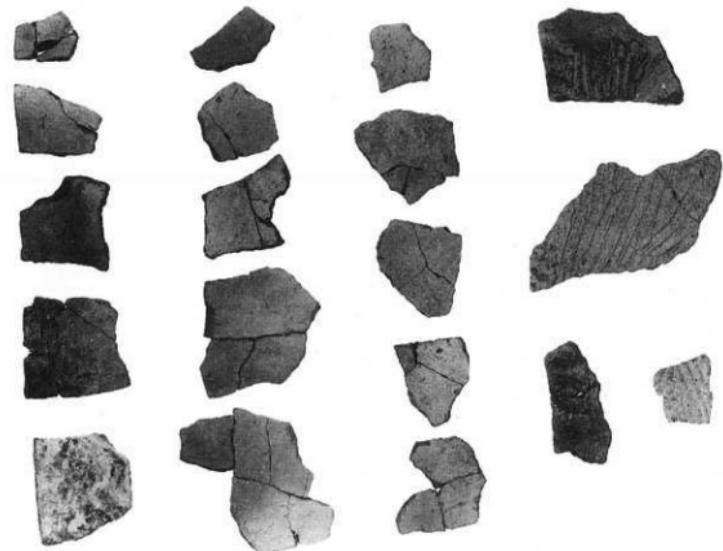
SI-24 検出状況

6図

出土土器(II Bb・II Bc類)

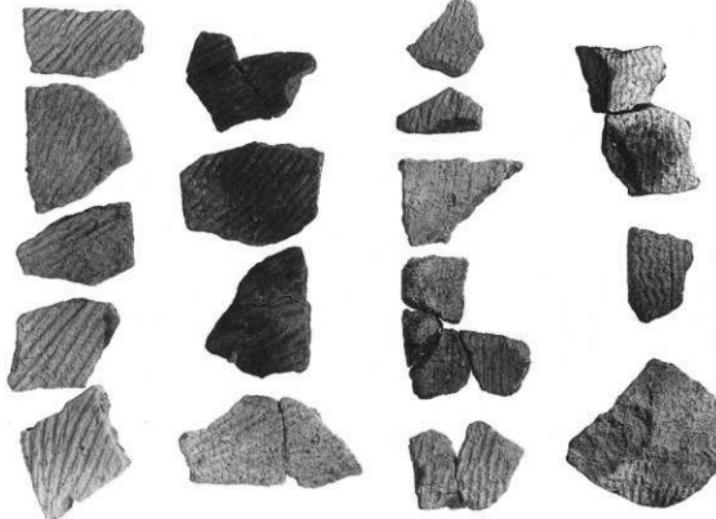


出土土器(I・II A・II Ba類)



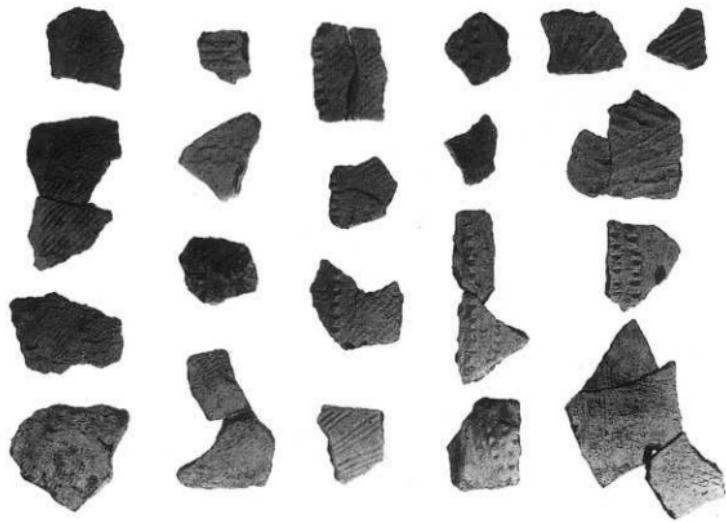


出土器(V・VI A・VI B類)

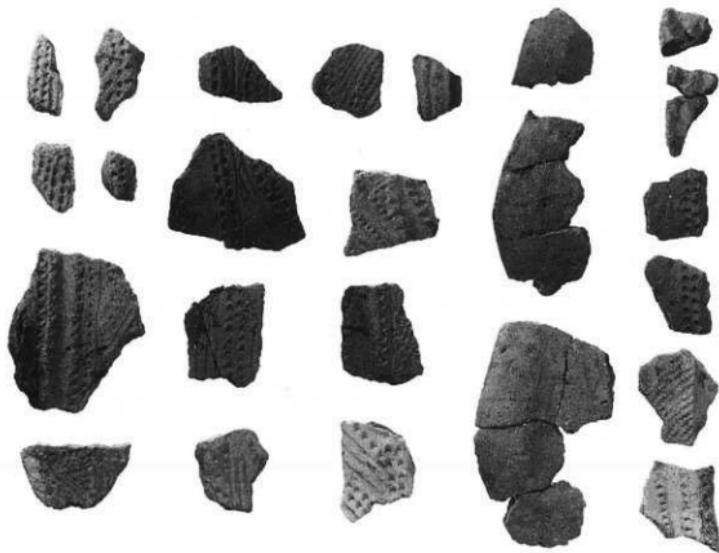


出土土器(II Bc・III・IV類)

出土土器(VID・VI・VII類)



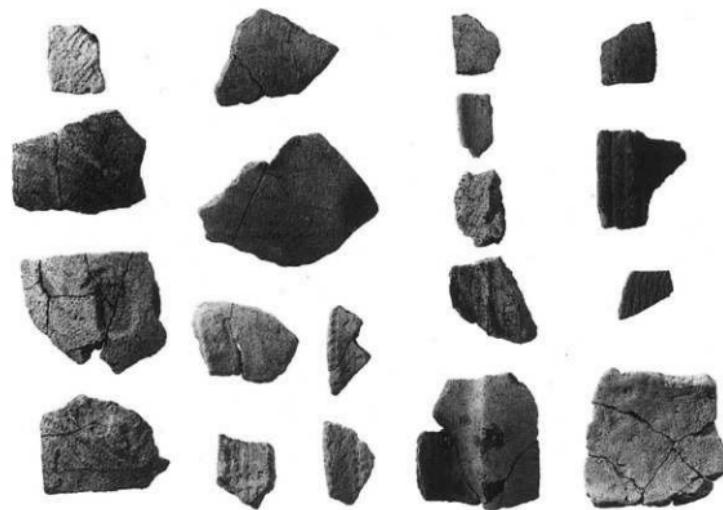
出土土器(VIB・VIC類)



9新図



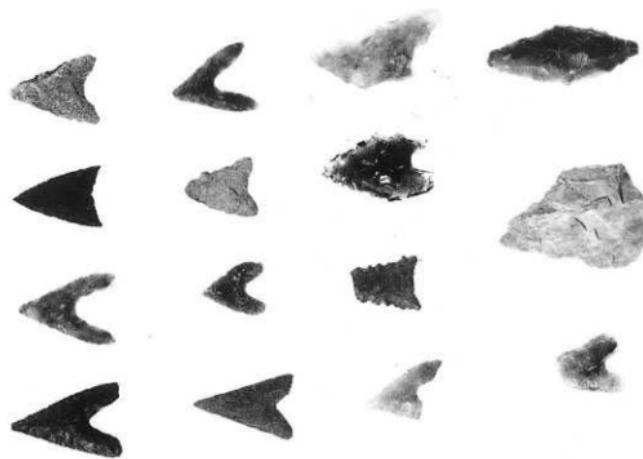
出土土器(X 1類)



出土土器(X・X類)

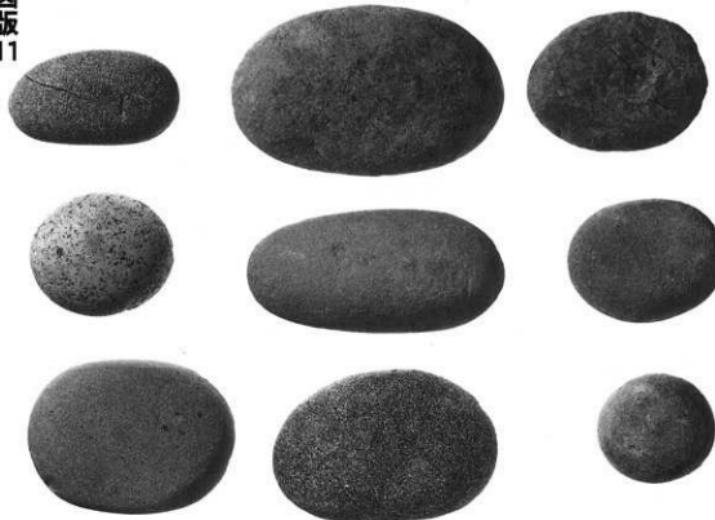
図  
10

出土石器(石核ほか)

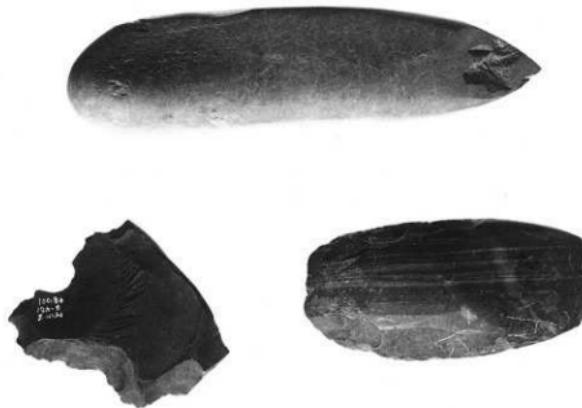


出土土器(上からIIA・III・IV・V類)





出土石器(磨石·凹石)



出土石器(刮片·石斧)

## 第Ⅲ章 ズクノ山第1遺跡

### 第1節 調査の概要

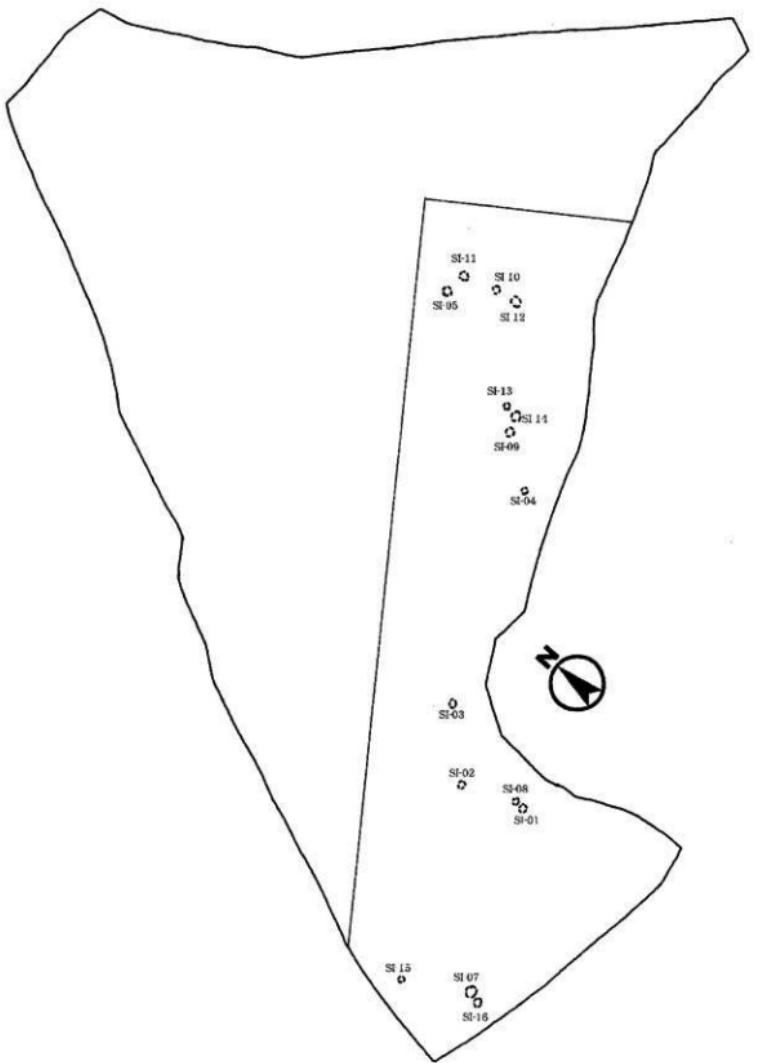
遺跡は黒北川の右岸にあたる鹿村野地区台地上の北部にある。この河川との高低差は60mを越え、特に北端側はシラス堆積層の侵食等により断崖絶壁ともいえる地形を形成している。遺跡の東側には、やはりシラスの侵食により形成されたと見られる谷地形を挟んでズクノ山第2遺跡E区が所在し、谷部においては湧水やそれに伴う「水穴」と呼ばれる空洞が数箇所確認された。調査は高低差約5mを有するやや緩やかな斜面上に営まれた畠地のうち、工事施工からの影響を免れないと判断された約5,650m<sup>2</sup>を対象として実施した。

調査を実施するにあたり、宮崎県文化課による事前試掘調査のデータを基に、主にアカホヤ堆積層より下部の縄文時代早期包含層及び遺構検出を想定していた。しかし、耕作土を除去した時点で、弥生時代の竪穴住居跡が発見されたため、急きょ同時代の集落跡調査を行うこととなった。検出面はアカホヤ火山灰堆積層と縄文時代早期の遺物包含層である暗褐色硬質土層上面までを対象とした。これは畠地開墾等の影響により既に一部のアカホヤ層が消失していたからである。調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡35軒のほか、時期は確定できなかったが据立柱建物も3軒検出された。調査の大半は弥生時代出土資料の記録作業に費やすこととなり、縄文時代早期についてはその分布域をトレンチ調査で絞り込み、必要最小限の区域のみを調査した。約15基の集石遺構が検出されたが、遺物の出土は少量にとどまった。

調査区内の層序は、上層から①耕作土層②黄橙色土層③アカホヤ火山灰堆積層④暗褐色硬質土層⑤褐色土層を基本とし、④⑤が縄文時代早期の遺物包含層にあたる。②については弥生時代の遺物も出土するが、③の腐食土層または二次堆積層である可能性もあり、プライマリーな遺物包含層であるかは疑わしい。調査区の北端及び北東部で堆積が見られる。これらの層は東側の谷と微高地を隔てたズクノ山第2遺跡などとは土色標記が異なるが、②を除いてほぼ各遺跡調査区と共通するものである。

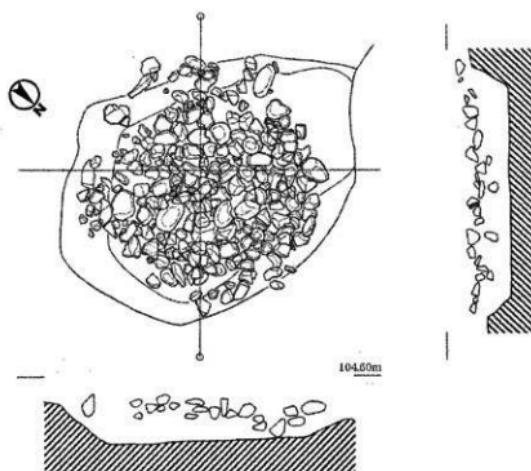
### 第2節 縄文時代早期の遺構と遺物

主に調査区南及び南東の、アカホヤ層直下にあたる褐色硬質土層中及びその下層の褐色土層中において15基の集石遺構を検出した。大半が土坑を伴い、焼穢の出土状況は密なものと疎らなものがある。受熱による破碎のためか、各礫は拳大前後の小ぶりのものが大半であった。遺構内からの良好な出土遺物も無い。同期の包含層からは貝殻条痕文系・押型文土器・手向山式土器・塞ノ神式土器・苦浜式土器・轟I式土器などが出土している。これらのことから、集石遺構の時期は早期と考えられるが、検出層位からみて、やや時期の下る押型文土器以降のものと判断できよう。その他詳細については、機を得て再度報告したい。

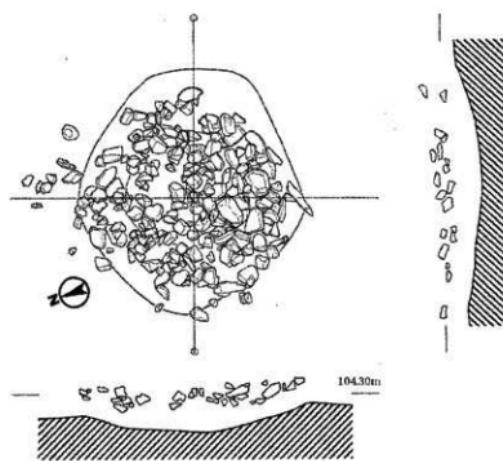


第1図 集石遺構分布図(S=1/500)

SI-01

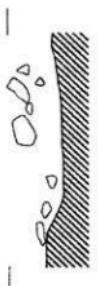
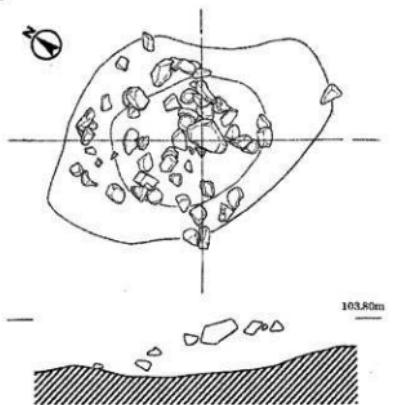


SI-02

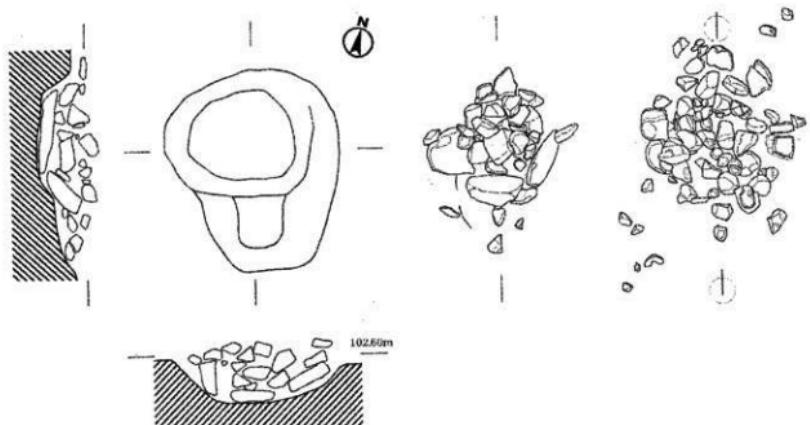


第2図 集石遺構実測図 (S=1/20)

SI-03

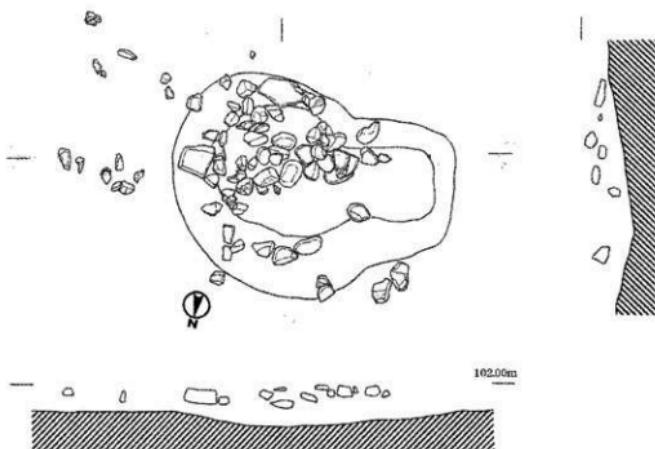


SI-04

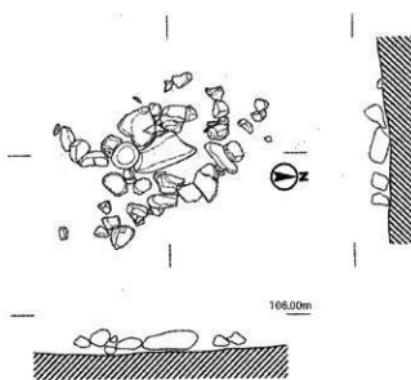


第3図 集石遺構実測図 (S=1/20)

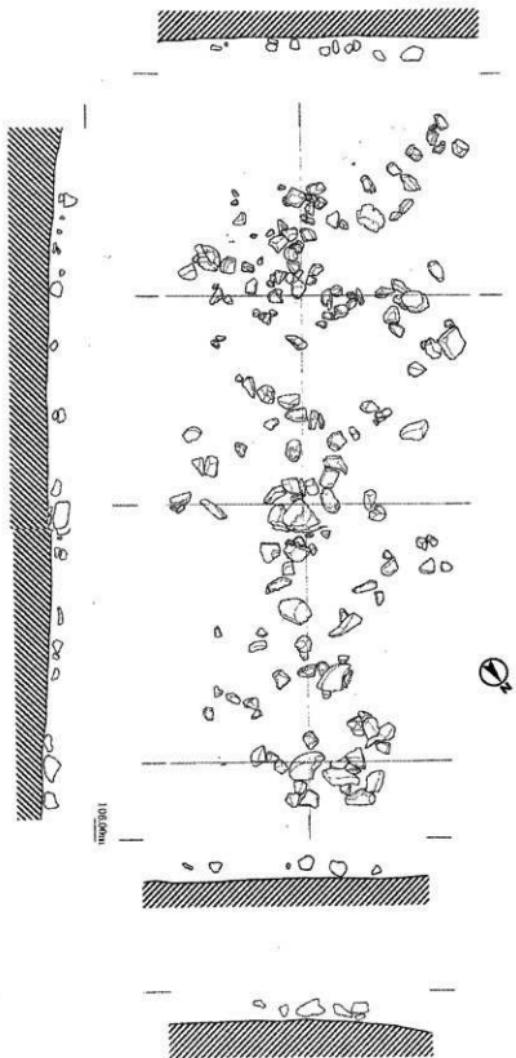
SI-05



SI-06

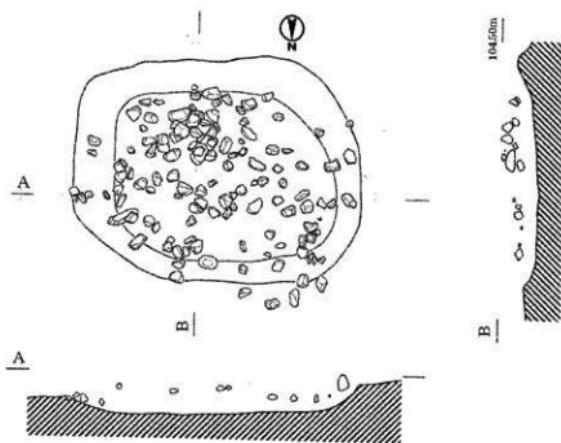


第4図 集石遺構実測図 (S=1/20)

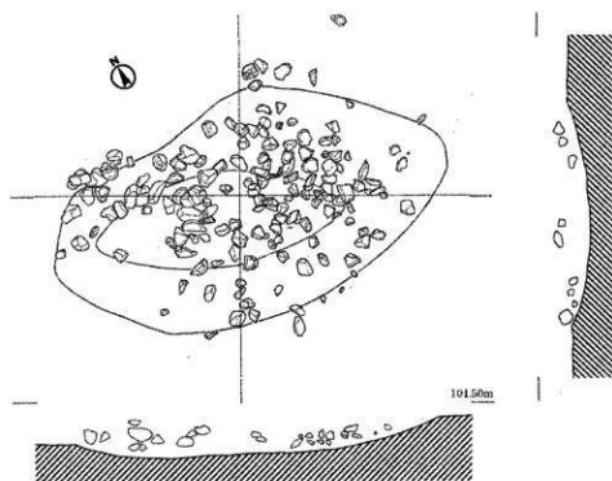


第5図 集石造構実測図 ( $S=1/20$ )

SI-08

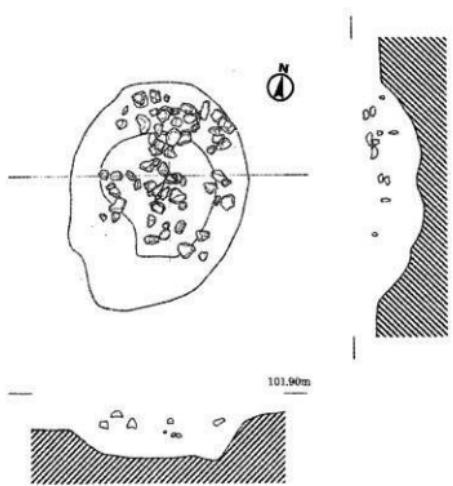


SI-09

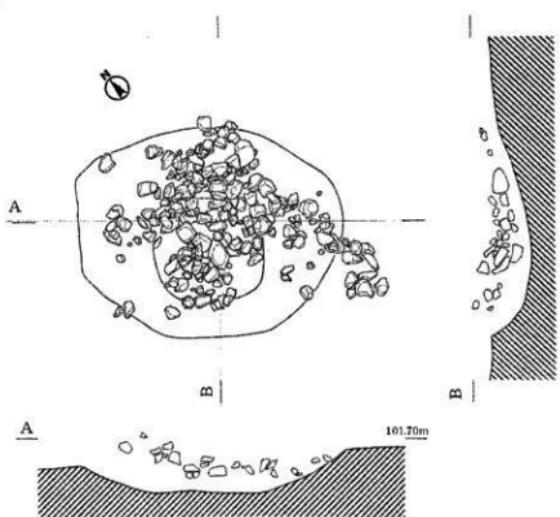


第6図 集石遺構実測図 ( $S=1/20$ )

SI-10

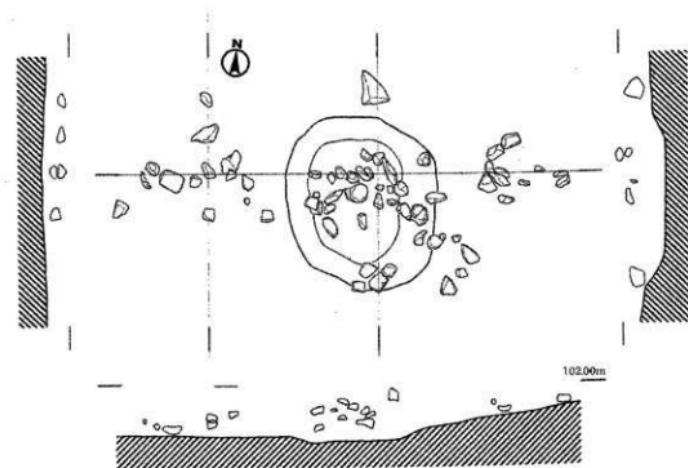


SI-11

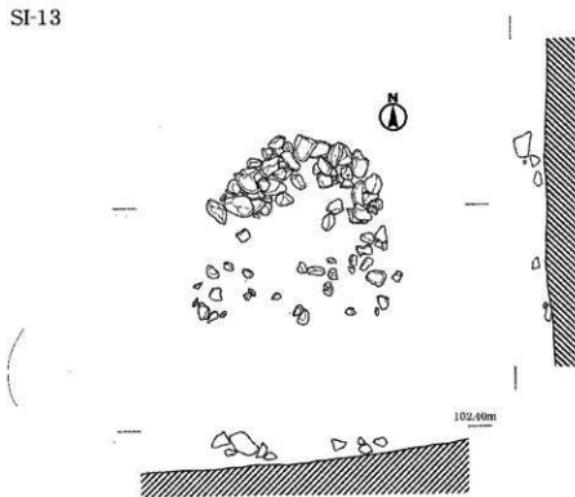


第7図 集石造構実測図 ( $S=1/20$ )

SI-12

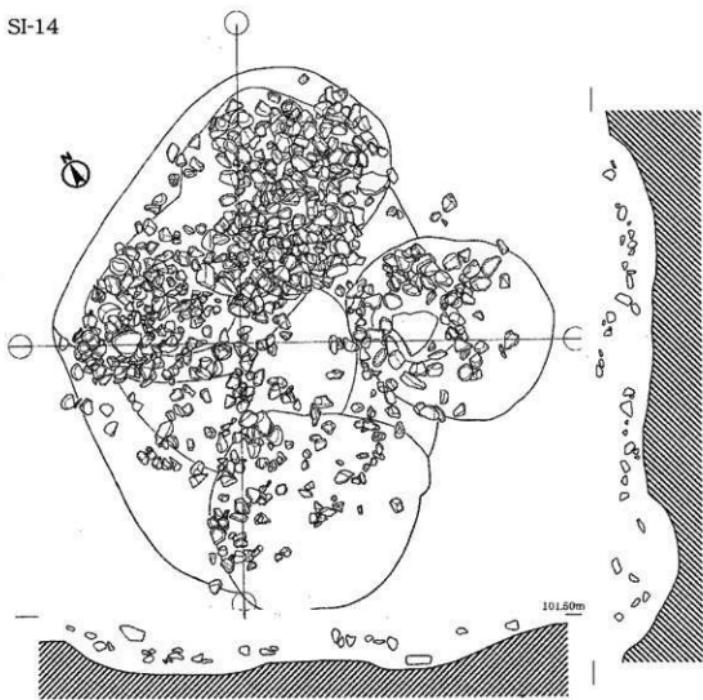


SI-13

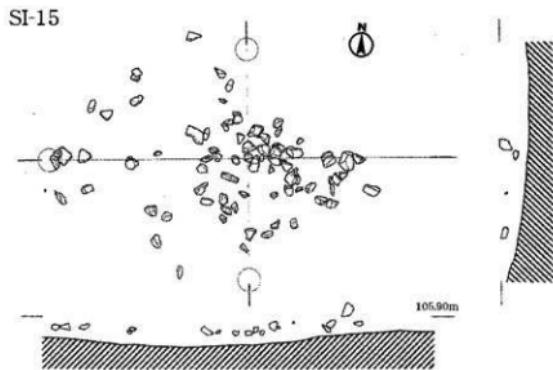


第8図 集石遺構実測図 ( $S=1/20$ )

SI-14



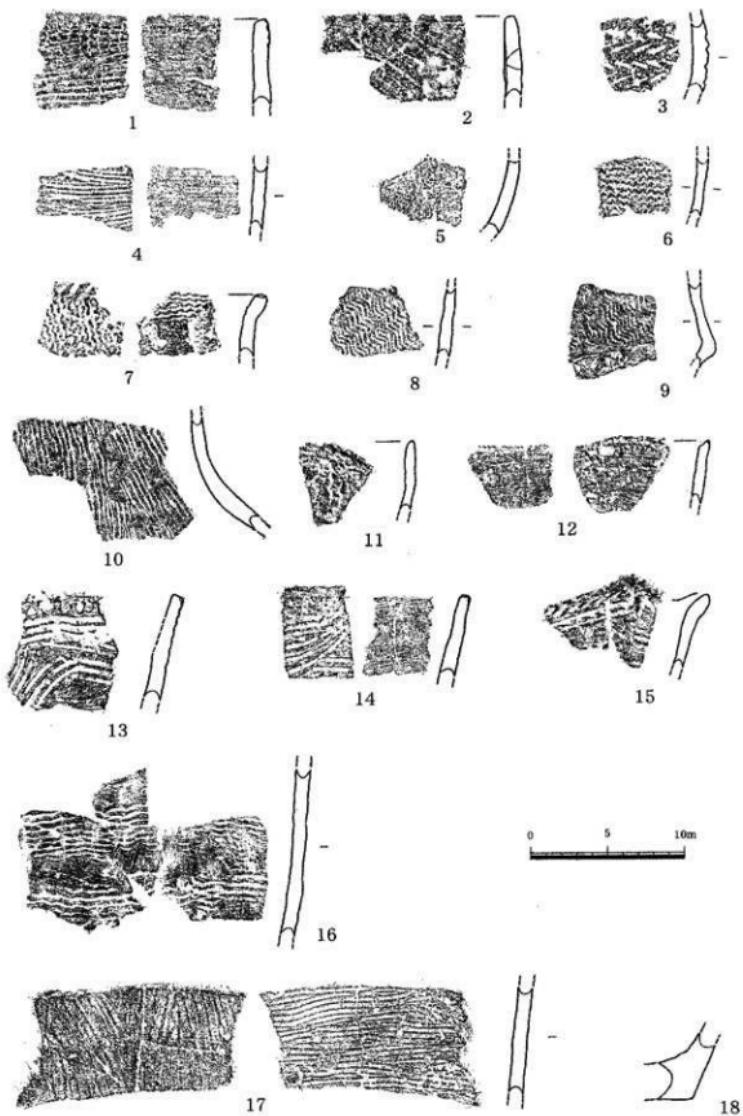
SI-15



第9図 集石造構実測図 (S=1/20)

表1 包含層出土土器観察表

図面番号	遺物番号	部位	測定		胎上	備考
			外	内		
10	1	口縁部	外: 横位の貝殻押印文、条痕文 内: 条痕のちケツリ	外: 深黄(2.5V7/3) 内: 暗灰黄(2.5V5/2)	D: 微	
10	2	口縁部	外: 斜位の条痕 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR6/3) 内: にぶい黄緑(10YR7/3)	C: 多	
10	3	胴部	外: 一 内: ケツリ	外: にぶい黄緑(10YR6/3) 内: 灰灰黄(10V6/2)	C: 中	
10	4	胴部	外: 横位条痕文 内: 条痕	外: 黄(7.5V7/6) 内: にぶい黄緑(10YR5/3)	B: 少C: 微	
10	5	胴部	外: 押型文 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR7/3) 内: にぶい黄緑(10YR5/3)	B: 微C: 中	
10	6	胴部	外: 横位の山形押型文 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR6/3) 内: 灰黄褐(10YR5/2)	A: 微C: 少	
10	7	口縁部	外: 縦位の山形押型文 内: 横位の山形押型文	外: 黃(7.5V6/6) 内: にぶい赤褐(5YR5/4)	B: 微C: 中	
10	8	胴部	外: 縦位の山形押型文 内: タテ	外: にぶい黄褐(10YR5/3) 内: にぶい褐(7.5YR5/4)	A: 少C: 少	
10	9	胴部	外: 縦位の山形押型文 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR5/3) 内: にぶい褐(7.5YR5/4)	A: 少C: 少	
10	10	胴部	外: 扇条文 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR7/4) 内: にぶい黄緑(10YR6/3)	B: 微C: 微	
10	11	口縁部	外: 扇条文 内: タテ	外: にぶい褐(7.5YR5/4) 内: にぶい褐(7.5YR5/4)	B: 微C: 微	
10	12	口縁部	外: タテ 内: タテ	外: 明黄褐(10YR7/6) 内: 淡黄(2.5Y8/4)	B: 微C: 微	
10	13	口縁部	外: 条痕からタテ 内: 不明	外: にぶい褐(7.5YR5/4) 内: 褐(7.5YR4/4)	C: 少	
10	14	口縁部	外: タテ 内: 条痕	外: 褐(7.5YR7/6) 内: にぶい黄緑(10YR7/3)	B: 微C: 微	
10	15	口縁部	外: タテ 内: タテ	外: にぶい黄緑(10YR7/4) 内: にぶい黄緑(10YR6/4)	B: 微C: 微	
10	16	胴部	外: ? 内: 条痕からタテ	外: 黄(2.5Y8/6) 内: 淡黄(2.5Y7/3)	C: 少	
10	17	胴部	外: 条痕文 内: 条痕	外: 淡黄(2.5Y8/4) 内: 淡黄(2.5Y7/3)	C: 中	
10	18	底部	外: ケツリ 内: タテ	外: にぶい褐(5YR6/4) 内: にぶい黄緑(10YR6/3)	C: 多	



第10図 包含層出土遺物実測図

表2 包含層出土石器観察表

図面 番号	遺物 番号	遺構名	石材名	大きさ(cm)			重さ(g)	備 考
				長さ	幅	厚さ		
11	19	包含層	石礫	2	1.5	0.2	-	
11	20	包含層	叩き石	5.4	3.7	3	86	両端敲打痕、両面研磨痕
11	21	包含層	叩き石	6.4	3.6	3.6	122	両端敲打痕
11	22	包含層	磨石	7.5	6.5	4.1	285	一端及び両側縁敲打痕、片面研磨痕
11	23	包含層	磨石	8.8	7.9	4.4	388	周縁及び片面敲打痕、片面研磨痕
11	24	包含層	磨石	11	9.9	3.6	499	周縁敲打痕
12	25	包含層	磨石	10.9	6.6	4.9	433	周縁及び片面敲打痕、両面研磨痕
12	26	包含層	叩き石	8.5	5.3	5	340	
12	27	包含層	叩き石	9.5	7.1	4.1	365	



19



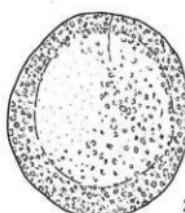
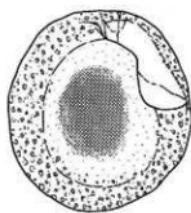
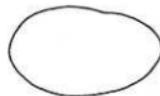
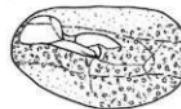
20



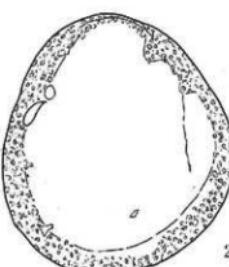
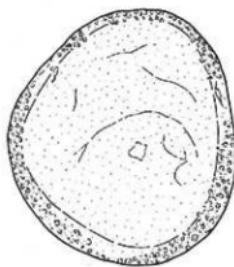
21



22



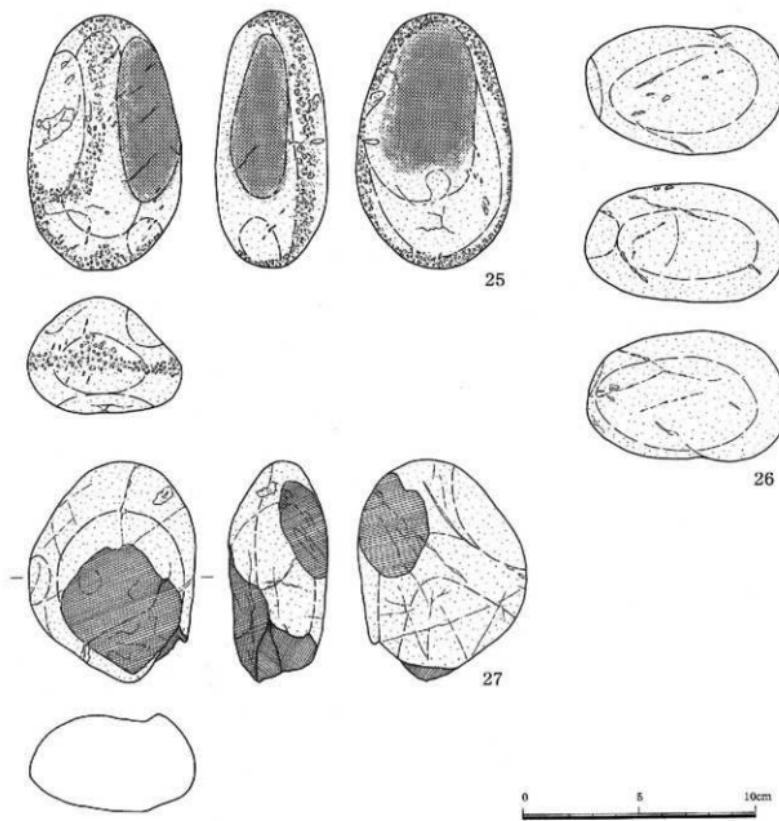
23



24



第11図 包含層出土遺物実測図



第12図 包含層出土遺物実測図

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

調査区の中央部より北側にかけて、主に検出作業を行なった。その結果、間仕切り住居を含む竪穴住居跡や土坑などが検出された。調査区南端から遺構分布域にかけては、比較的急な斜面地形を呈する。この南側及び北西側については、耕作土を除去した時点で、既にアカホヤ層が残存しておらず、縄文時代早期の層にあたる褐色硬質土層（カシワバン）が露出していた。畠地形成の過程で既に削平を受けていたと見られる。さらに南側においても同様の状況であり、弥生時代以降の遺構遺物や包含層ともに皆無であった。北側のSA-10あたりからは、ほぼフラットに見えるほどの緩斜面となる。SA-19・30～31周辺は最も低く、降雨の度に水溜りとなり、シラス層の陥没やその北側の崖部が崩落していく状況も見られた。遺構分布域の東側については、削平を受けていないが明瞭なアカホヤ層ではなく、腐植土状の不安定な堆積であった。上面から少量の遺物も出土したが、遺構は検出されなかった。さらに東側のシラス陥没によって形成された谷地形の影響を、かなり受けているものと考えられる。以上のことから、南側を除いては遺構群の若干の拡張を想定しておく必要がある。

竪穴住居跡と認定したものは35軒ある。規模は大小様々であるが、間仕切りを有するもの（SA-09・12・16・25・27・28・32・33）と方形プランで間仕切りの無いものとに大別され、間仕切りタイプには円形基調（SA-16・33）と方形基調のもの（SA-09・12・25・27・28・32）がある。その他、住居内土坑と認識できるものや主柱穴のみが残存するもの（SA-34・35）も、これに含めた。各遺構や出土遺物概略については以下に記すが、その詳細は一覧表を参照いただきたい。文中に記した「主軸」は住居軸の大まかな目安である。

宮崎県の弥生時代土器編年は、主に宮崎学園都市での調査などの資料に拠るところが大きかったが、近年では石川氏による宮崎平野を中心とした出土資料の編年案や柴畠氏による中溝式上器の検討など、徐々にその調査研究成果も進展しつつある。ここでは県内で一般的に用いられている石川氏の編年案を参考とした。但し、編年案が途上の段階であることや本遺跡出土資料の出土状況なども考慮し、あえて必要最小限にとどめた。

#### （SA-01）

遺構分布域では最も南側の、標高103.6m前後の地点で検出した。検出面から床面最深部までは約17cm。長方形プランを呈し、主軸はN51°Wをとる。2本分の柱穴と浅い上坑を有する。遺物は土器の細片が数点出土したのみであった。

#### （SA-02）

SA-01から東へ最短約2.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約22cm。長方形プランを呈し主軸もN50°Wと、ほぼ01と同様である。中央附近に浅いピットを有する。柱穴は確認できなかった。長頸壺の口縁部（28）、壺の口縁部（202）などが出土した。石川編年のⅢ期（以下省略し、同様の扱いとする）に属するものとみられる。

#### （SA-03）

SA-01から北へ最短約3mの地点で検出した。方形プランを呈するが、北西隅に精円形の土坑

を有する。柱穴は確認できなかった。主軸はN19° Eをとる。検出面から床面最深部までは約14m。遺物は住居床面から台石(126)打製石斧(128)、土坑内から壺形土器(28~32)と壺形土器の底部(33)のほか台石(125)軽石製品(127)などが出土した。壺はいずれも口縁部の折れ曲がり稜線を明瞭に残していることや外反の度合いなどから、石川編年のⅢ期~Ⅳa期に属するものとみられる。

## (SA-04)

SA-03から西へ最短約2.7mの地点で検出した。柱穴は確認できなかった。やや膨らみのある長方形プランを呈し、内部に4本の主柱穴と中央に土坑を有する。南壁の一部は耕作溝による搅乱を受けている。検出面から床面最深部までは約28cm。主軸はE10° Nをとる。遺物は覆土内及び土坑内から、壺形土器(34・35)壺形土器(36・37)や磨製石鏃の未製品(129)軽石製品(130)叩き石(131・132)などが出土した。(34)は直口する口縁部の下位に刻み目突帯をもつ下城式系壺と、(35)口縁部の台形状突帯を特徴とするもので、石川編年のⅢ期に属するものである。

## (SA-05)

SA-04から北へ最短約3.4mの地点で検出した。やや膨らみのある歪な方形プランを呈する。柱穴は確認できなかった。主軸はN21° Wをとる。検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は壺形土器(38~44・184)壺形土器(45)や台石(133・135)叩き石(136)などが出土した。土器はいずれもⅤ期を下るものが見られず、脚台状の底部(40)などもあり、Ⅲ期の中でも古い要素をもつ一群として捉えておきたい。

## (SA-06)

SA-05と08の中間地点において検出した。SA-05から西へ最短約2.4mの地点にある。柱穴は確認できなかった。僅かに隅丸の長方形プランを呈する。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約16cm。遺物は凡そⅢ期に属する壺形土器の口縁部片(46)のほか、土器の細片が北側に集中して数点出土したのみである。

## (SA-07)

SA-09から東へ最短約0.8mの地点で検出した。長方形プランを呈し、主軸はN35° Wをとる。柱穴は確認できなかった。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約30cm。南東壁の一部は耕作溝による搅乱を受けている。遺物は土器片が少量出土したのみである。

## (SA-08)

SA-06から西へ最短約2mの地点で検出した。長方形プランを呈し、主軸はW18° Nをとる。柱穴は確認できなかった。2本分の柱穴と南壁寄りに方形の土坑を有する。他に浅く小ぶりなピットも見られるが、住居に伴うものは不明。検出面から床面最深部までは約50cm。遺物はⅢbから、Ⅳ期の範疇におさまる壺形土器(47・185)のほか、土器の細片などが少量出土したのみである。

## (SA-09)

調査区の最も西側、標高約103.5m前後の地点で検出した。柱穴は確認できなかった。3箇

所の突出壁を有し、やや不整形であるが方形プランを基調とするものと見られる。4本分の柱穴と中央にピットを有する。検出面から床面最深部までは約32cm。遺物は土器の細片などが数点出土したのみである。

(SA-10)

SA-05から北東へ最短約8.5mの地点で検出した。基本的には長方形プランを呈するが、東西の壁が一部突出している。拡張の可能性もあり、掘り下げの段階で精査したが明確にはできなかつた。柱穴は確認できなかつた。住居群の中では比較的大型の部類で、4本分の柱穴を有する。主軸はW14° Nをとる。検出面から床面最深部までは約42cm。遺物は壺形土器(49・50)壺形土器(48)をはじめ土器の細片、磨製石鎌(137)打製石斧(139)軽石製錘車(140)軽石(141・142)叩き石(143~145)台石(146)のほか、土製勾玉(51)も出土した。勾玉は丁子頭のタイプで、片面の一部を欠損している。土器はいずれもⅢbからⅣa期の範疇におさまるものである。打製の石鎌(138)は純文時代のものであろう。

(SA-11)

SA-10から北東へ最短約1.5mの地点で検出した。ほぼ長方形プランであるが北壁は一部突出したように歪な形状を呈し、2本分の柱穴を有する。主軸はN49° Wをとる。検出面から床面最深部までは約17cm。遺物は壺形土器(53~58・186)壺形土器(59・60)をはじめ土器の細片が出土した。(54)にはやや古い要素、(58)などにはやや新しい要素がみられるなど若干の編年上の時間差を感じるが、ⅢからⅣ期の範疇におさまるものである。

(SA-12)

SA-11から南東へ最短約4.9mの地点で検出した。方形プランを基調とし、4箇所の突出壁と中央部との段差によりベッド状の区画を有するが、その床面は歪であり本来の形状とは考え難い。二次的に設営されたものかどうかは、明確にできなかつた。南東の壁の一部は攪乱を受けて消失している。柱穴は確認できなかつた。主軸はN17° Eをとる。検出面から床面最深部までは約18cm。遺物は壺形土器(61・62)のほか土器の細片、磨製石鎌(147)台石(148・150)軽石(149)などが出土した。(61)はⅢ期に属するものとみられる。

(SA-13)

SA-11から東へ最短約3.9mの地点で検出した。方形プランで南壁はやや歪な形状を呈する。2本分の柱穴とその南側に丸底の土坑を有する。主軸はN2° Eをとる。検出面から床面最深部までは約12cm。土坑内ではほぼ完形を含む壺形土器(64・65)、その南側の壁に面したところで完形もしくはほぼ完形の壺形土器の一括資料(63・66~68)が出土した。完形でないものについては、耕作の影響により破損したものであり、本来は完形品であったものと考えられる。その他は壺形土器(69)や高坏(70)などがある。壺はいずれも底部は平底であり、その他の器種を含めて全般的に成形調整とも粗雑な傾向が見受けられる。V期に属する一群である。

(SA-14)

SA-14から東へ最短約3.1mの地点で検出した。ほぼ方形プランを呈し、主軸はN19° Eをと

る。北東と南壁の一部を、攪乱及び削平により消失している。南北の隅に2本分の柱穴を有するが、南側のそれは浅く、住居に伴うものであるかは疑わしい。検出面から床面最深部までは約12cm。遺物は壺形土器(187)、台石(151)とその他土器片が出土した。(187)はⅢ期に属するものとみられる。

## (SA-15)

SA-14から東へ最短約6.4mの地点で検出した。後世の削平により、原形をとどめていない。遺物は甕の破片がごく少量出土したのみである。

## (SA-16)

SA-13から北東へ最短約10.6mの地点で検出した。6箇所の突出壁とベッド状の区画を有する花弁状住居で、住居群の中でも大型の部類である。また、住居中央にやや丸みのある長方形プランの土坑を伴う。東側の一箇所を除いて、各突出部に合わせた5本分の柱穴が見られるが、本来は6本柱であった可能性も考えられる。検出面から床面最深部までは約64cm。遺物は主に覆土中から壺形土器(73・78~81・189・191)壺形土器(71・72・74・75・77・190・192)をはじめ多量の土器の細片と土製勾玉(82)、台石(152)叩き石(153・154)軽石(155)のほか、土坑内からも完形の壺形土器(76)が出土した土製勾玉は遺跡内から計3個体出土しており、これは最も小型のものである。土器底部の窄まりや上げ底の様相から、凡そⅣ期におさまるものであろう。(76)については雲母が混入するなど、他の土器と胎土が異なることから、移入品と考えられる。

## (SA-17)

SA-13から北西へ最短約2.8mの地点で検出した。特に南壁などはかなりの丸みをもつ本来は方形プランを呈するもので、住居群の中では大型の部類に入る。調査の段階では明確にできなかったが、住居の拡張か重複がありえるものと考えられる。主軸はN38.5°Eをとる。検出面から床面最深部までは約32cm。6本分の柱穴を有する。遺物は壺形土器(83~92・96・97・193)や壺形土器(93~95・98~101・194・195)、台石(156)叩き石(158・162~165)磨製石鎌(157)軽石(159・160)軽石製品(161)などが出土した。各土器における口縁部及び底部の形状に、編年上の時期差がみられる。Ⅲ~Ⅳ期の範疇で捉えておきたい。

## (SA-18)

SA-17から北へ最短約1.4mの地点で検出した。ほぼ方形のプランを呈し、主軸はW15°Nをとる。東壁を切り込む土坑状の構造は、住居に伴うものではない。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約12cm。遺物は甕底部(108)のほか、土器片が少量出土した。

## (SA-19)

調査区の北壁沿いのSA-18から北東へ最短約7.3m、標高約101.2m前後の地点で検出された。ほぼ方形のプランを呈し、主軸はをとる。4本分の柱穴とその西側に浅い土坑を有する。更に北側へ延びるが、地盤沈下と崖崩れの兆しが見られたので、あえて調査区は拡張しなかった。SA-30・31も同様である。検出面から床面最深部までは約35cm。遺物は壺形土器(103・196)

のほか、土器の細片が出土した。(103)は胸部が膨らむ形状から、Ⅳ期に属するものと考えられる。

(SA-20)

SA-10から西へ最短約3.1mの地点で検出された。やや歪な方形プランを呈し、主軸はN30°Eをとる。柱穴は確認できなかったが、西壁にはぼく沿うように床面を掘り込んだ土坑を有する。検出面から床面最深部までは約16cm。遺物は高壺脚部(105)や壺形土器(104)のほか、土器片が出土した。(104)は垂れ下がり状に作られる口縁部の一部で、Ⅲ期に属するものと考えられる。

(SA-21)

SA-06から北へ最短約5.7mの地点で検出された。方形プランを呈するものとみられるが、残存状態が悪く、詳細は不明。検出面から床面最深部までは約11cm。遺物はⅢ期に属するとみられる壺形土器(106)や軽石(166)のほか、土器片が少量出土した。

(SA-22)

SA-20から北へ最短約2.1mの地点でSA-23に切り込まれた状態で検出した。方形プランを呈し、主軸はW17° Nをとる。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約4cm。遺物は叩き石(167)と土器片が少量出土した。

(SA-23)

SA-22北側とSA-24の南側を切り込む状態で検出した。方形プランを呈し、主軸はN17° Eをとる。1本分の柱穴を確認した。検出面から床面最深部までは約31cm。SA-22と共に、住居群の中では小規模なものである。遺物は壺形土器(197・198)や軽石(168・169)のほか土器片が少量出土した。

(SA-24)

方形プランを呈するもので、東側は残存状態が悪く歪である。東壁の一部は突出したようにも見えるが、本来の形状ではないものと考えられる。7本分の柱穴と浅い落ち込みを有する。この落ち込みと住居を切り込む方形と橢円形の土坑が、住居に伴うものであるかは明確にできなかった。検出面から床面最深部までは約15cm。遺物は叩き石(170)のほか、土器片が少量出土した。

(SA-25)

SA-24から北へ最短約5.3mの地点で検出した。2箇所の突出壁、2本分の柱穴と歪な方形の土坑を有し、方形プランを基調とする。壁の一部が搅乱により消滅しており、突出部の状況からみて、本来は3箇所の突出壁を有するものであったことも考えられる。主軸はE78° Nをとる。検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は土器片が少量出土したのみである。

(SA-26)

SA-17から西へ最短約1.8mの地点で検出した。ほぼ方形プランを呈し、主軸はW20° Nをとる。2本分の柱穴と、それからやや南にずれた位置に浅い土坑を有する。他に4箇所で浅く小ぶりのピットも見られるが、住居に伴うものであるかは疑わしい。検出面から床面最深部まで

は約20cm。遺物はⅢ期に属するとみられる壺形土器(107)とミニチュア土器(108)のほか、土器の細片が少量出土したのみである。

## (SA-27)

SA-26の北壁とわずかに接した状態で検出した。方形を基調とする間仕切り住居で、3箇所の突出壁を有するものと想定されるが、北東側の壁も長方形の区画で突出する。これは拡張された結果と想定される。2本分の柱穴を有する。主軸はE32.5° Nをとる。検出面から床面最深部までは約32cm。遺物は壺形土器(109・199)と叩き石(171)のほか、Ⅲ期に属するとみられる土器片が少量出土した。

## (SA-28)

SA-27から北へ最短約0.9mの地点で検出した。突出壁を1箇所と2本分の柱穴を有し、方形プランを基調とする間仕切り住居である。外周には拡張の痕跡が見られ、東側の間仕切り部は浅く掘り窪められる。主軸はN34° Wをとる。検出面から床面最深部までは約17cm。遺物は台石の破片(172)と土器片が少量出土したのみである。

## (SA-29)

SA-28から北西へ最短約5mの地点で検出した。方形プランを基調とし、主軸はN28° Wをとる。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約15cm。遺物は丁子頭タイプの土製勾玉(110)のほか、土器片が少量出土したのみである。

## (SA-30)

SA-29から東へ最短約3.3mの地点で検出した。SA-19などと同様に詳細をつかめないが、方形プランを呈するものと想定され、壁面の一箇所と内部2箇所に土坑を有する。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約37cm。遺物は壺形土器(111~113・115・200)壺形土器(114)のほか土器の細片と砥石(173・175)が出土した。(111)は山ノ口式で、胎土に雲母を含むことから移入品と考えられる。(112)は胴部にやや膨らみを有する。(114)は胴部の張りが小さい壺形土器の片部で、その他を含め凡そⅢ期の範疇におさまるものである。

## (SA-31)

SA-30から東へ最短約7.1mの地点で検出した。SA-30などと同様に詳細をつかめないが、方形プランを呈するものと想定される。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約10cm。遺物は土器片が少量出土したのみである。

## (SA-32)

調査区の最も北側、SA-31から西へ最短約3.1m、標高約101.2m前後の地点で検出した。この住居を含めた一帯は、降雨によって泥だまりとなり、また水穴による陥没の兆候や地山の亀裂も見られたため、詳細を把握しうるような調査は不可能であった。調査時の現状で3箇所の突出壁を確認したが、本来は方形プランを基調とするものでSA-12・27と同タイプであると想定される。柱穴は確認できなかった。主軸はW12° Nをとる。検出面から床面最深部までは約26cm。遺物は剥片石器(176)叩き石(177・178)台石(180)軽石(179)のほか、土器片が少量出

土したのみである。

(SA-33)

SA-29から西へ最短約7.3mの地点で検出した。調査の時点では3箇所の突出壁と6本分の柱穴を有し、円形プランを基調とするものと想定される。残存状態がそれほど良くないことから、SA-16に類するタイプであったことも考えられる。検出面から床面最深部までは約18cm。遺物は斐形土器(116~121)壺形土器(122・123・201)のほか土器の細片と、叩き石(181~183)が出土した。これら土器は、いずれもⅢ~Ⅳ期の範疇におさまるものである。

(SA-34)

SA-23から西へ最短約12.5mの地点で検出した。現状では方形の土坑とその東側に2本分の柱穴が見られるのみであるが、本来あった突出壁及びベッド状部を削平によって消失した結果であると想定し、竪穴住居に含めた。主軸はW17.5° Nをとる。遺物は出土していない。

(SA-35)

SA-25から北へ最短約3.1mの地点で検出した。SA-34と同様に壁面を消失しており、外側に4本分の柱穴とその中央に土坑を有する竪穴住居と想定した。遺物は出土していない。

#### 第4節 その他の遺構

SB-01~03は、現地調査の段階で古代以降のものと認識していた掘立柱建物である。各建物の時期についても出土遺物がないことや、埋没土が地点によって若干異なることなど、その時期を明確にする根拠に欠けるため、あえて「その他」とした。ただし各建物の柱間が比較的狭く、棟持柱を有するものもあることなどから、弥生時代に属するものと想定しておきたい。SX-01は室内整理作業の段階で確認したものである。1間×2間の柱穴の並びで、本来は竪穴住居に伴うものであったことも考えられる。

(SB-01)

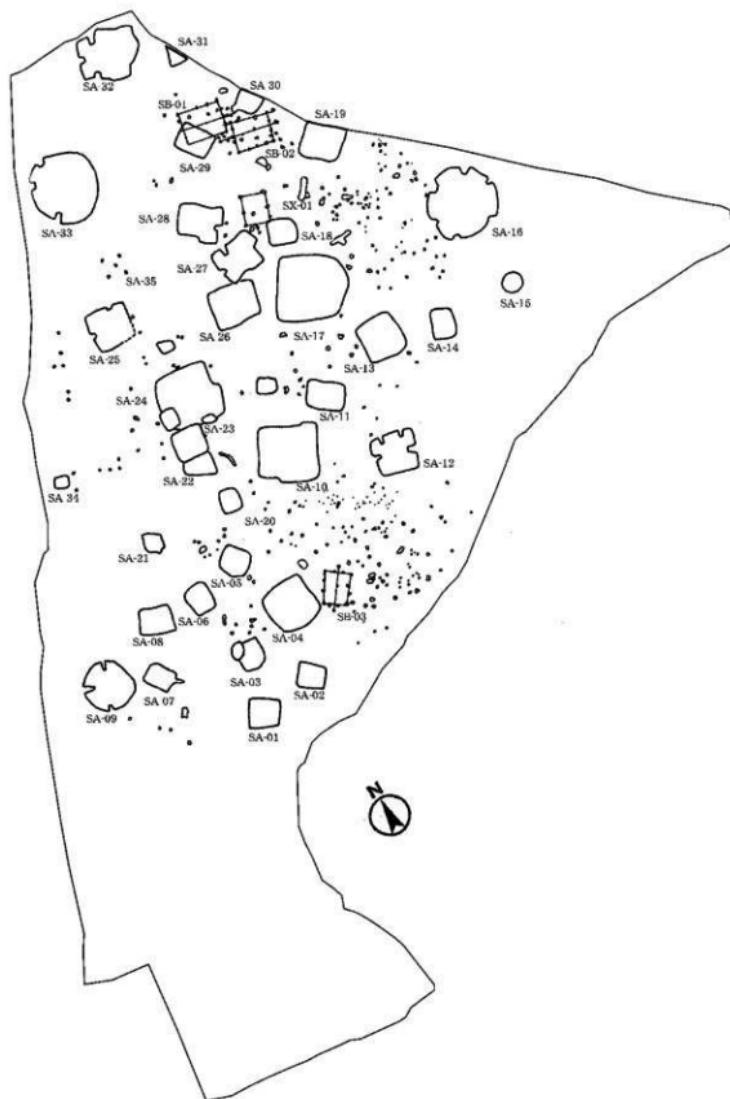
SA-19・29・30に囲まれた地点で検出した。3間(約3.58m)×4間(約4.1m)の建物で面積は約14.7m<sup>2</sup>、柱間は0.6mから1.4mを測り、棟持柱を持つ。北側の一部は検出できなかった。不整形な方形プランを基調とする。

(SB-02)

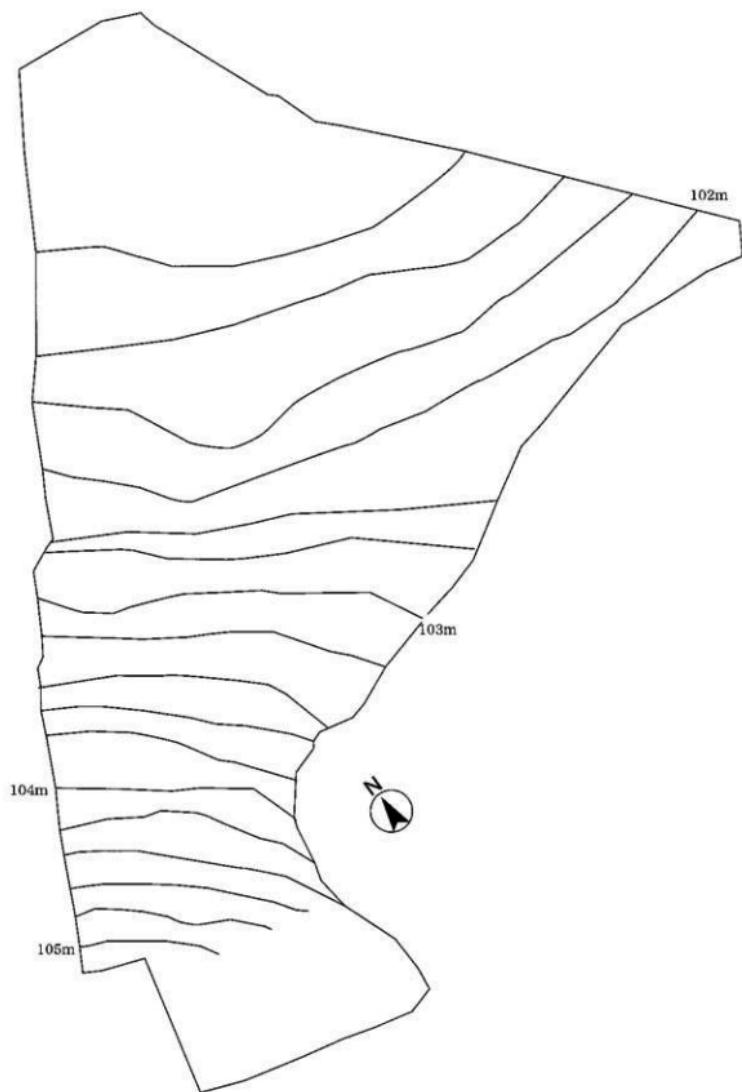
SB-01に隣接した地点で検出した。3間(約3.56m)×4間(約4.7m)の建物で面積は約17m<sup>2</sup>、柱間は0.6mから1.32mを測り、棟持柱を持つ。南側の一部は検出できなかった。不整形な方形プランを基調とする。

(SB-03)

SA-04の東壁側に隣接する地点で検出した。3間(約2.92m)×4間(約3.6m)の建物で面積は約10.5m<sup>2</sup>、柱間は0.94mから1.36mを測り、棟持柱を持つ。不整形な方形プランを基調とする。



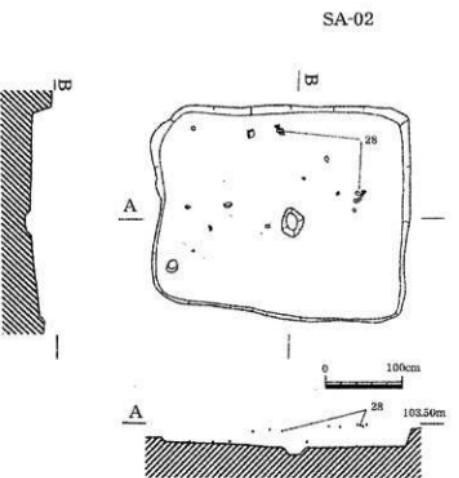
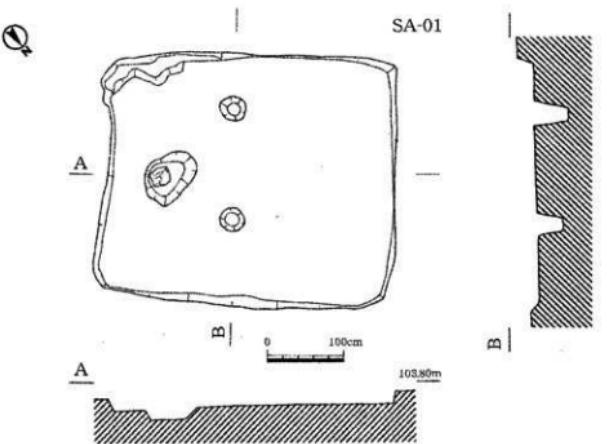
第13図 弥生時代遺構分布図(S=1/500)



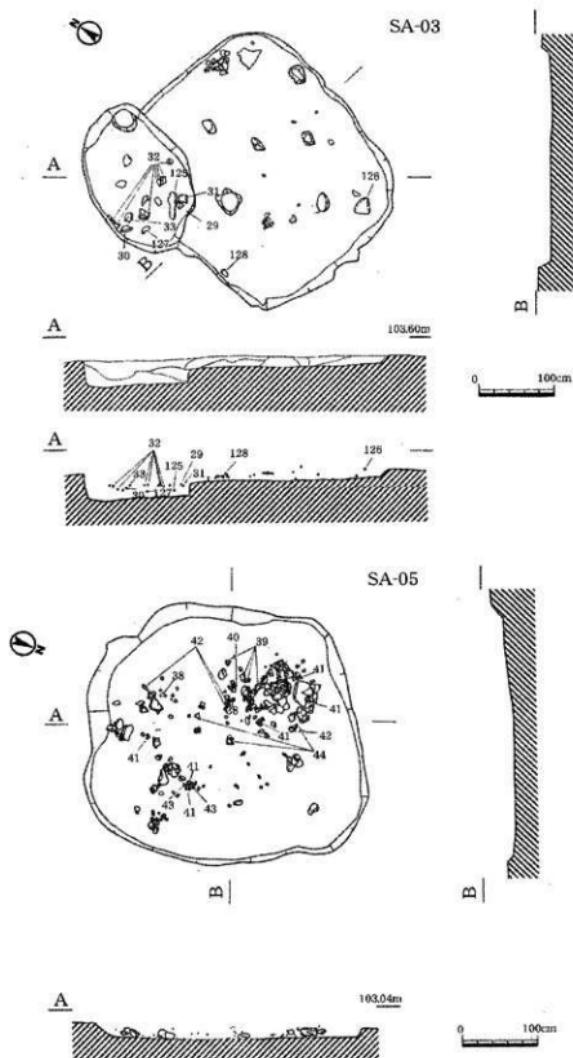
第14図 弥生時代遺構検出面地形図(S=1/500)

表3 穴住居観察表

番号	分類	形状	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主柱穴	突出壁	出土遺物
SA01	VII	方形	3.9×3.3	12.08	2	—	
SA02	VII	方形	3.4×2.8	8.75	—	—	土器(28, 202)
SA03	VII	方形	3.4×2.9	8.70	—	—	土器(29~33)、石器(125~128)
SA04	VII	方形	5.6×5.6	27.97	4	—	土器(34~37)、石器(129~132)
SA05	V	方形?	3.7×3.4	10.51	—	—	土器(38~45, 184)、石器(133~136)
SA06	VII	方形	3.5×2.9	8.84	—	—	土器(46)
SA07	VII	方形	3.3×2.6	7.88	—	—	
SA08	VII	方形	4.0×3.2	11.80	2	—	土器(47, 185)
SA09	III	方形+円形	6.0×5.4	24.96	4	3	
SA10	V	方形	7.0×6.6	43.60	4	2?	土器(48~51)、石器(137~146)
SA11	VII	方形	4.6×3.4	14.20	2	—	土器(52~60, 186)
SA12	II	方形	5.1×4.8	20.92	—	4	土器(61, 62)、石器(147~150)
SA13	VII	方形	5.2×4.8	22.11	2	—	土器(63~70)
SA14	VII	方形	3.4×2.6	8.86	2	—	土器(187)、石器(151)
SA15	VI	円形	2.6×2.3	4.65	—	—	
SA16	I	円形	8.4×8.0	49.16	5(6?)	6	土器(71~82, 189~192)、石器(152~155)
SA17	VII	方形	8.4×8.3	57.51	6	—	土器(83~101, 193~195)、石器(156~165)
SA18	VII	方形	3.5×3.0	9.11	—	—	土器(102)
SA19	VII	方形	5.1×?	—	4	—	土器(103, 196)
SA20	VII	方形	5.6×4.5	22.94	—	—	土器(104, 105)
SA21	VII?	方形?	2.5×?	—	—	—	土器(106)、石器(166)
SA22	VII	方形	3.8×?	—	—	—	石器(167)
SA23	VII	方形	3.8×3.7	13.31	2?	—	土器(197, 198)、石器(168, 169)
SA24	V	方形?	6.7×6.7	36.72	5	2?	石器(170)
SA25	IV	方形	4.8×4.7	20.29	2	2	
SA26	VII	方形	5.6×4.8	24.49	2	—	土器(107, 108)
SA27	IV	方形	5.6×4.4	19.57	2	4	土器(109, 199)、石器(171)
SA28	IV	方形	5.2×4.2	18.31	2	2	石器(172)
SA29	VII	方形	4.1×3.1	12.06	—	—	土器(110)
SA30	VII?	方形?	3.3×?	—	—	—	土器(111~115, 200)、石器(173~175)
SA31	VII?	方形?	—	—	—	—	
SA32	III?	方形?	7.0×6.1	32.23	—	3?	石器(176~180)
SA33	III	方形+円形	8.1×7.7	49.52	6	3	土器(116~123, 201)、石器(181~183)
SA34	—	—	—	—	2	—	

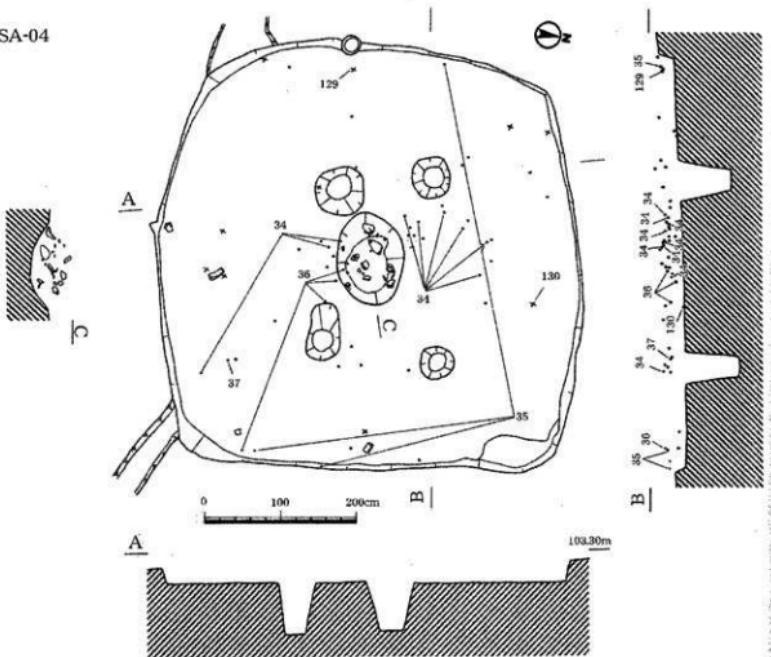


第15図 積穴住居実測図

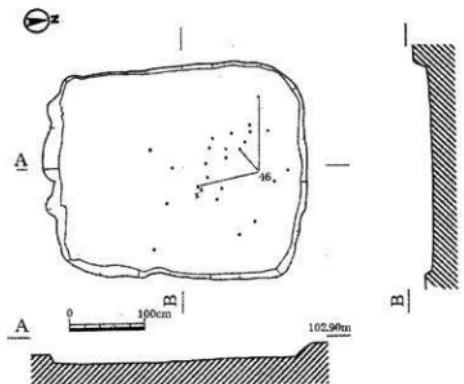


第16図 積穴住居実測図

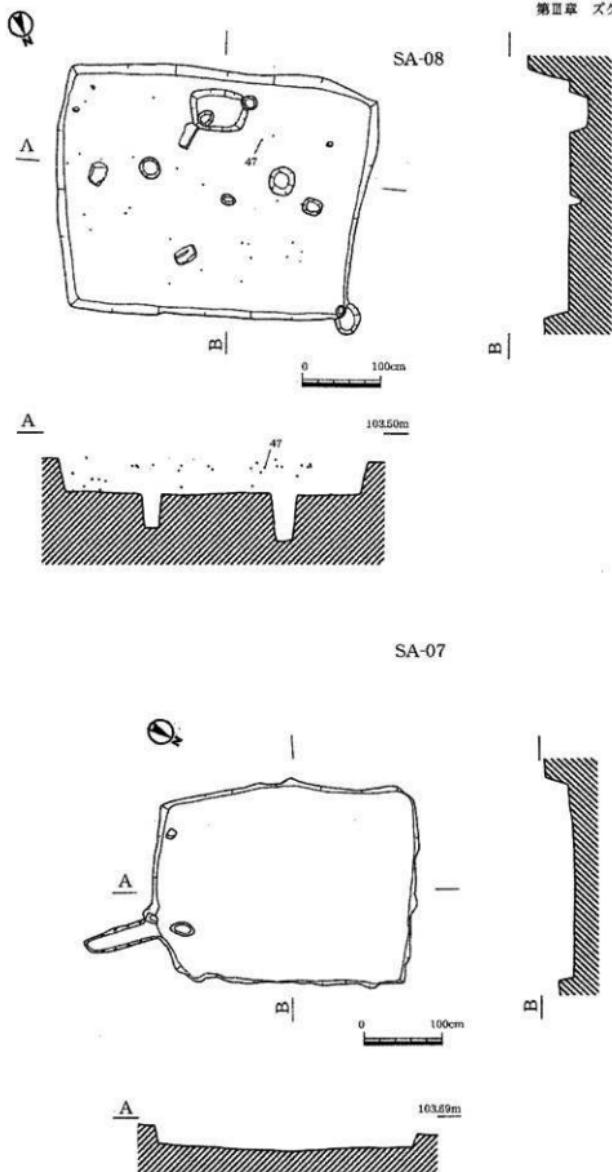
SA-04



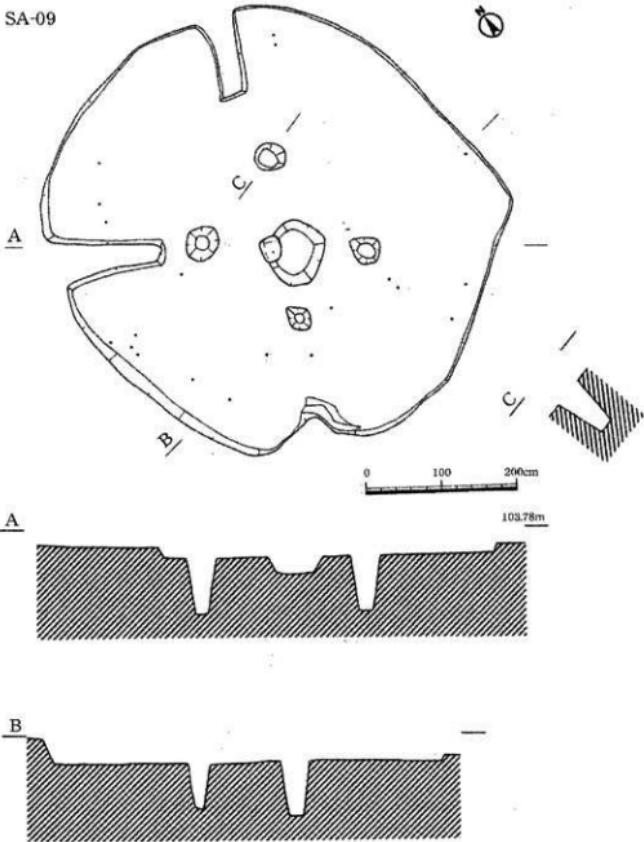
SA-06



第17図 壁穴住居実測図

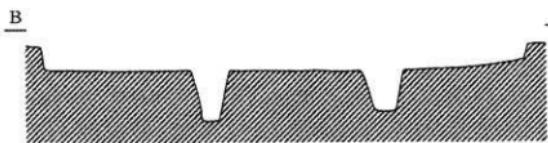
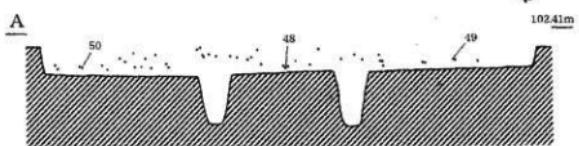
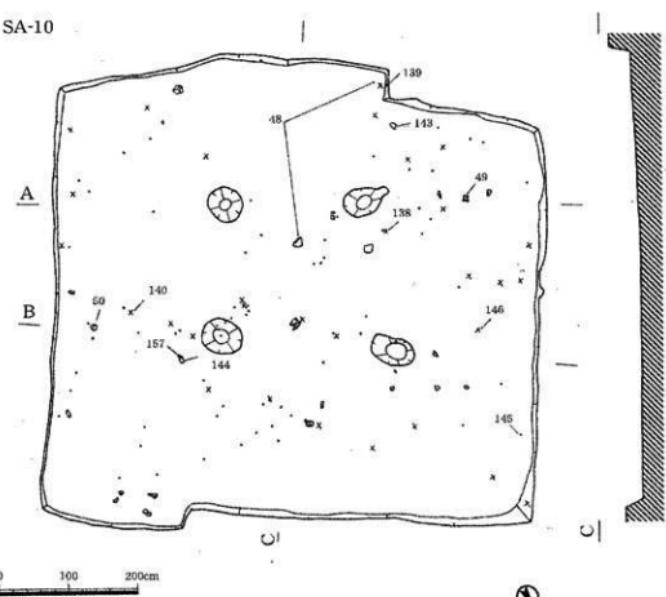


第18図 竪穴住居実測図

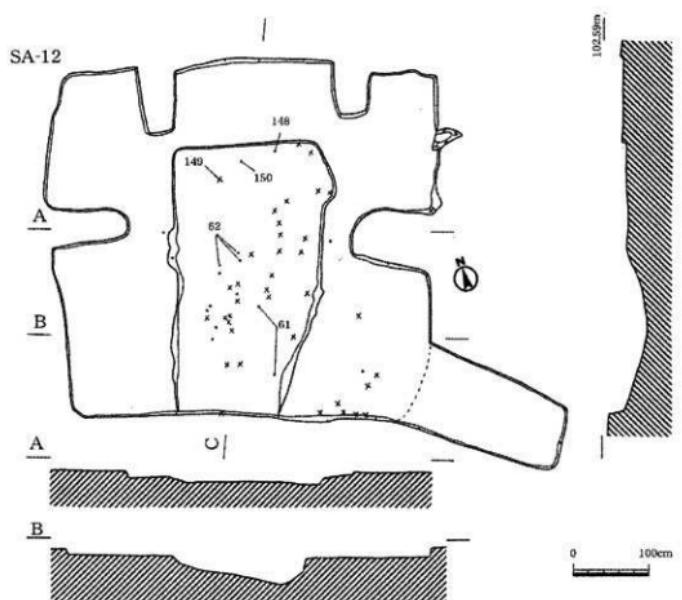
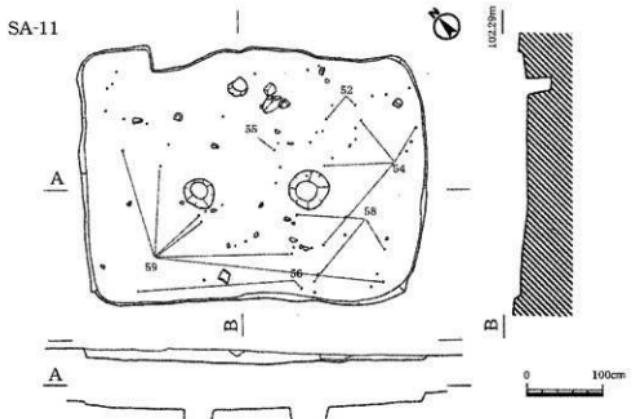


第19図 壁穴住居実測図

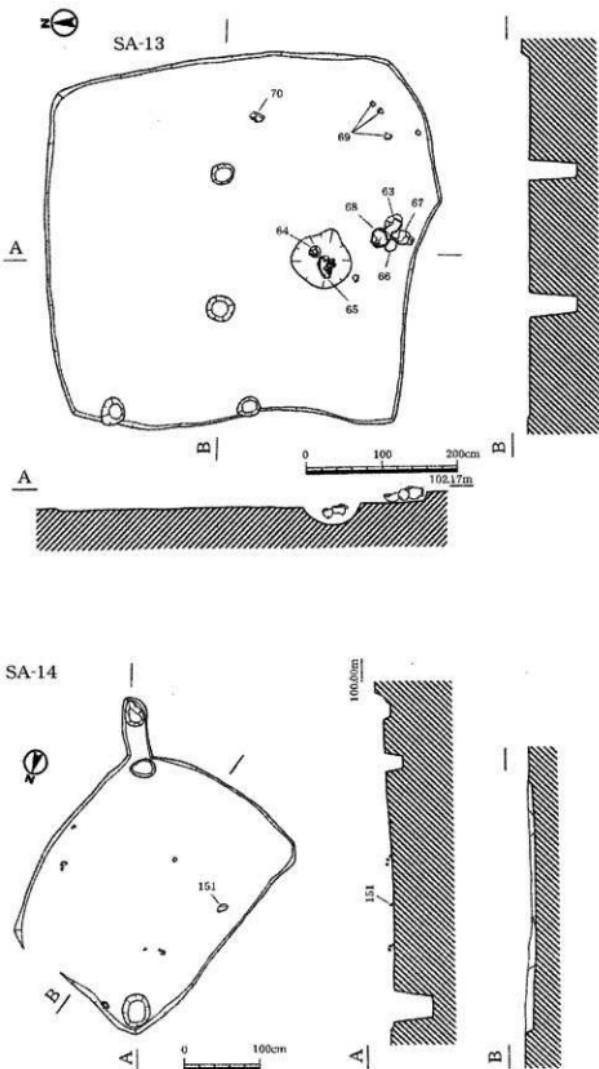
SA-10



第20図 竪穴住居実測図

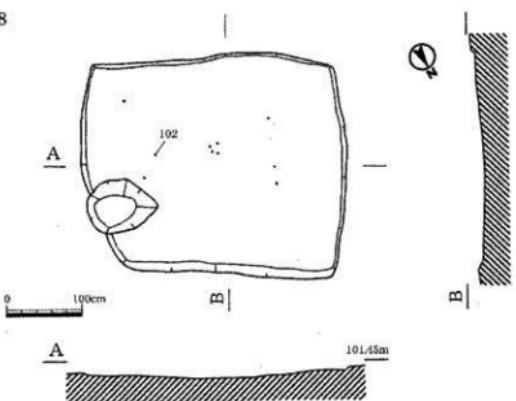


第21図 積穴住居実測図

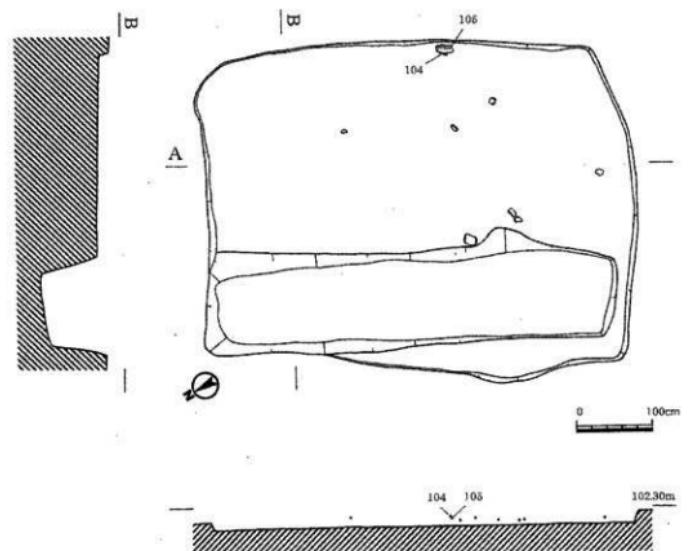


第22図 竪穴住居実測図

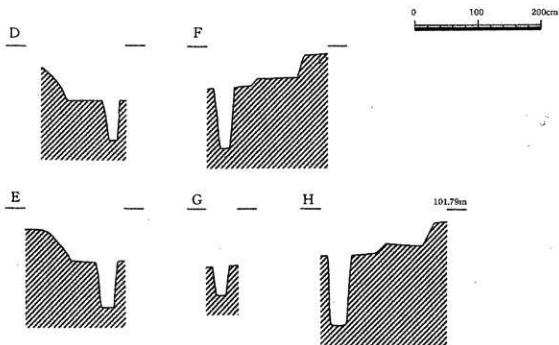
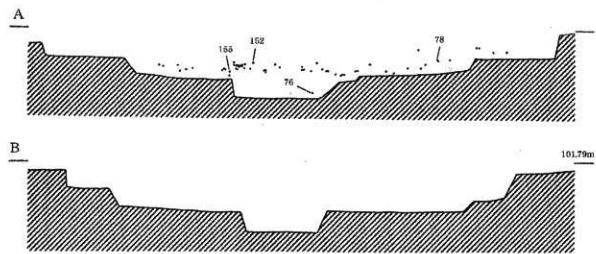
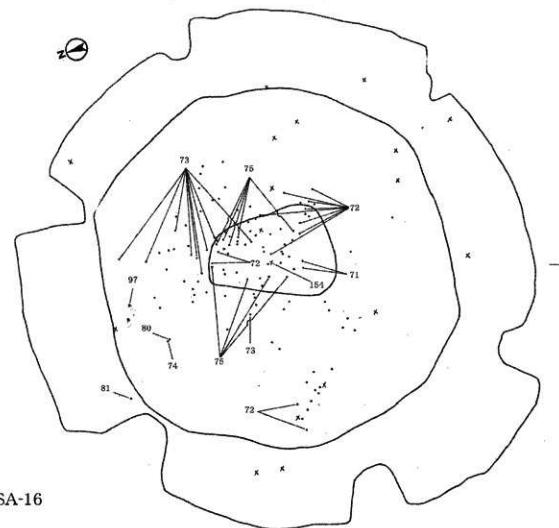
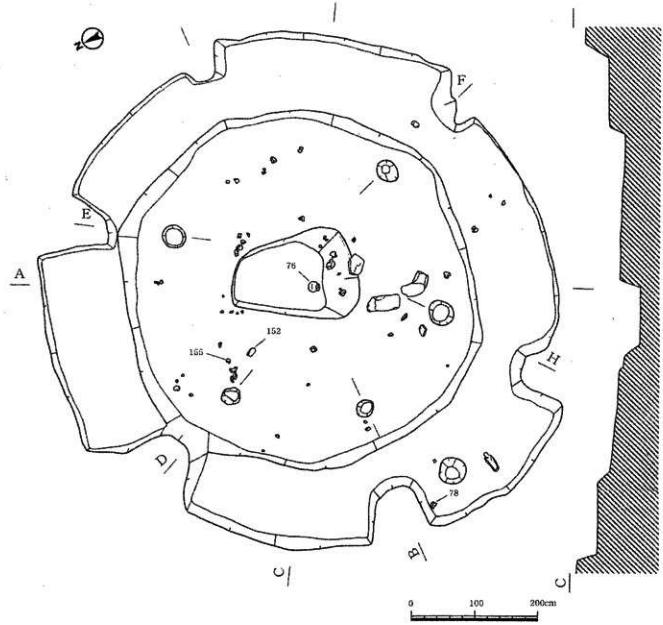
SA-18



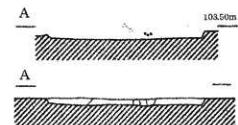
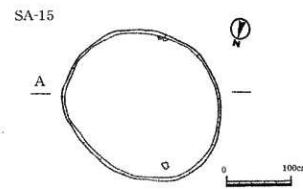
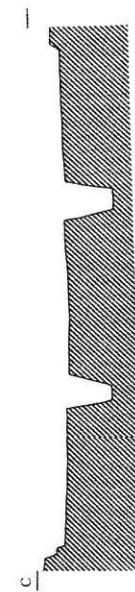
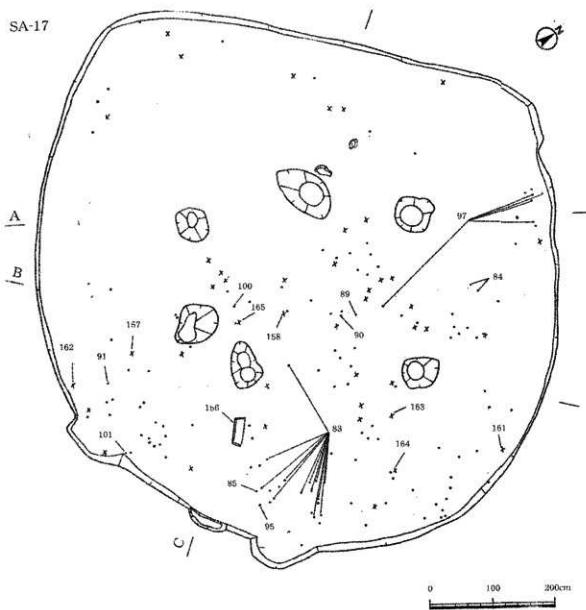
SA-20



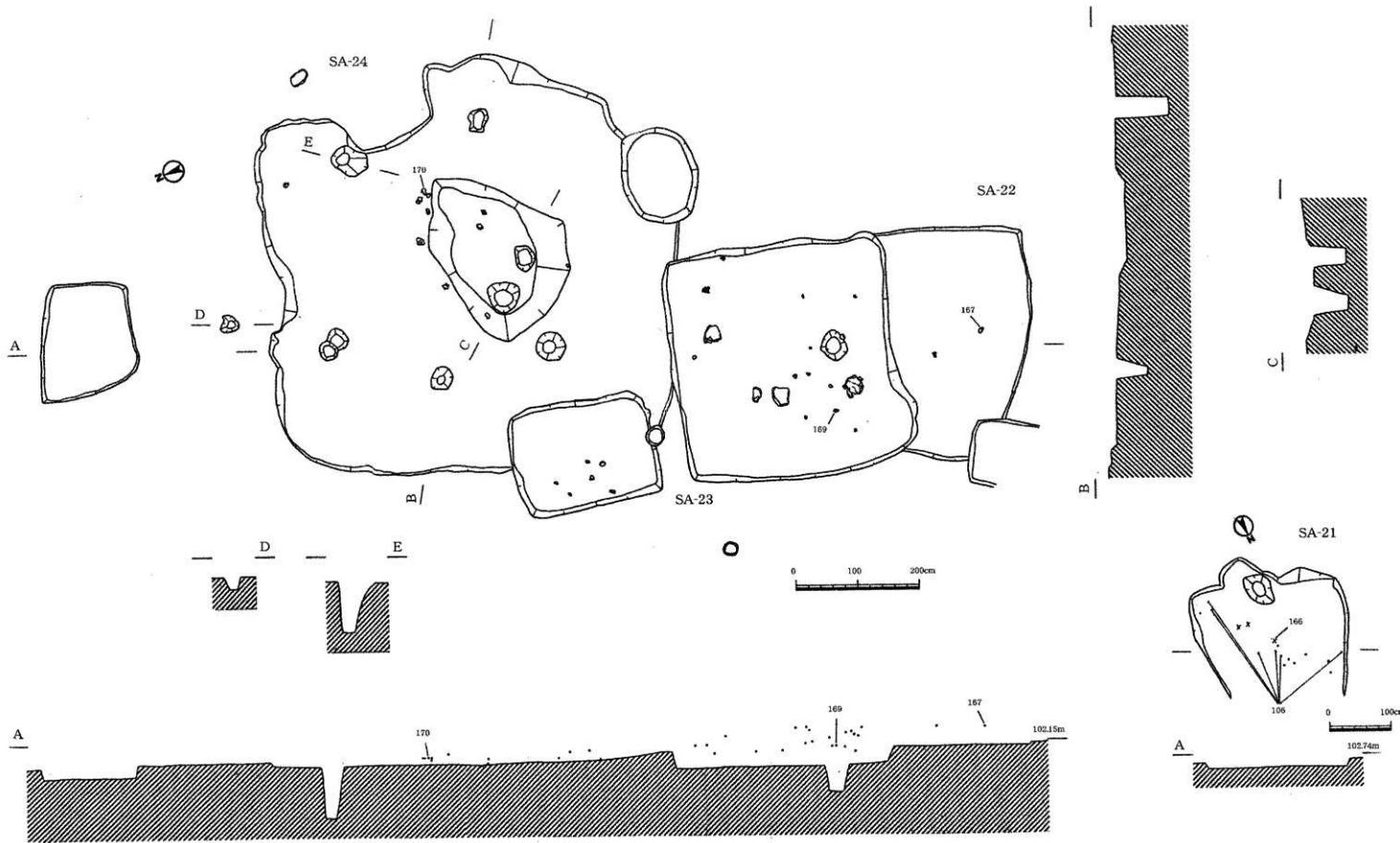
第23図 堅穴住居実測図



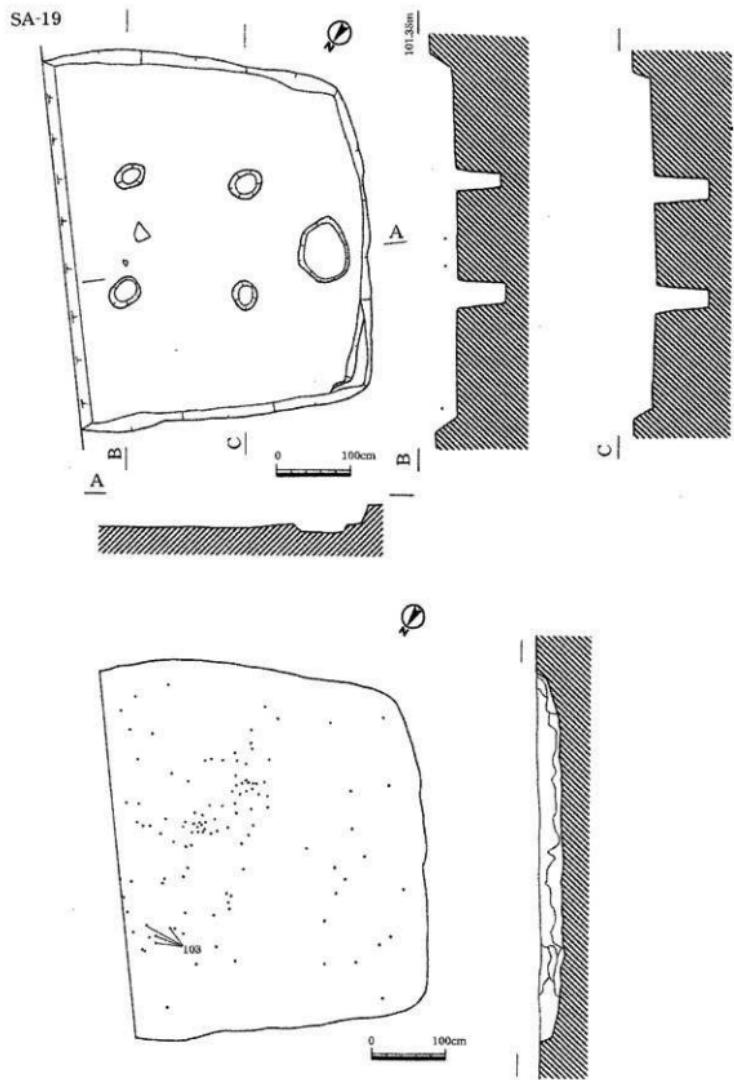
第24図 積穴住居実測図



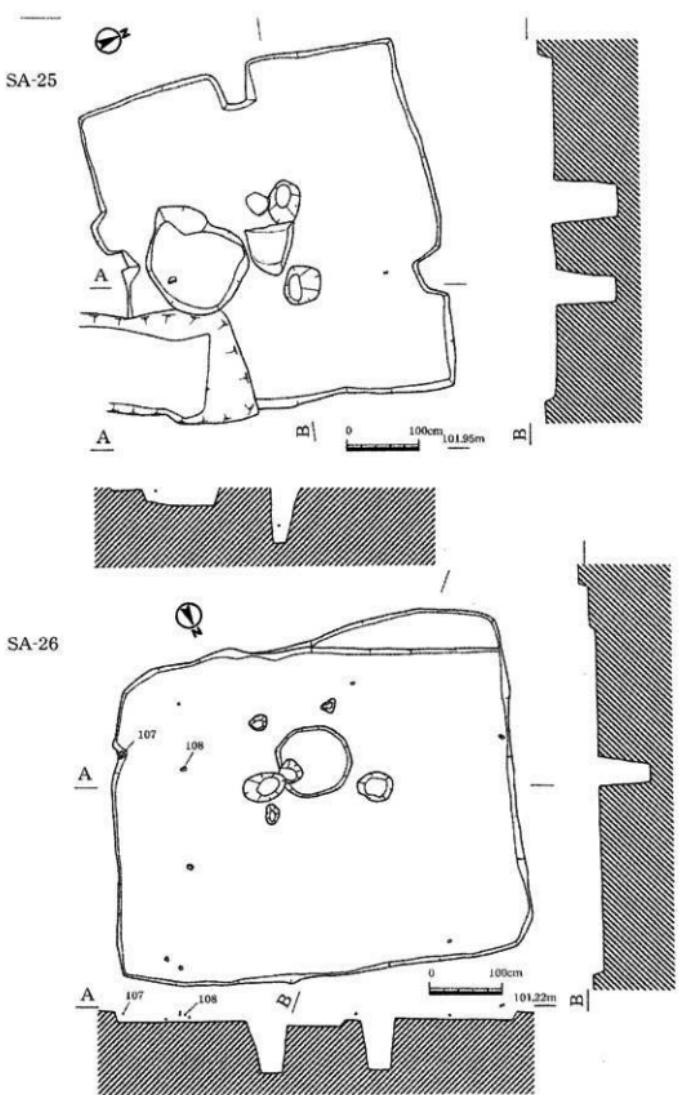
第25図 壁穴住居実測図



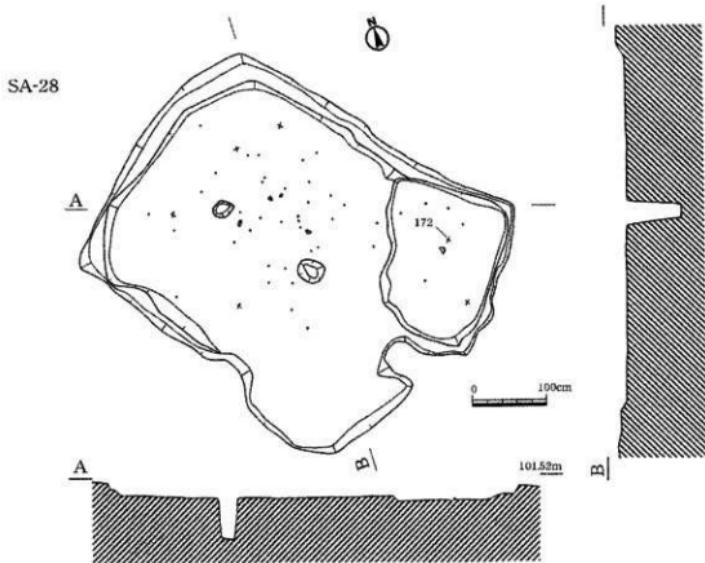
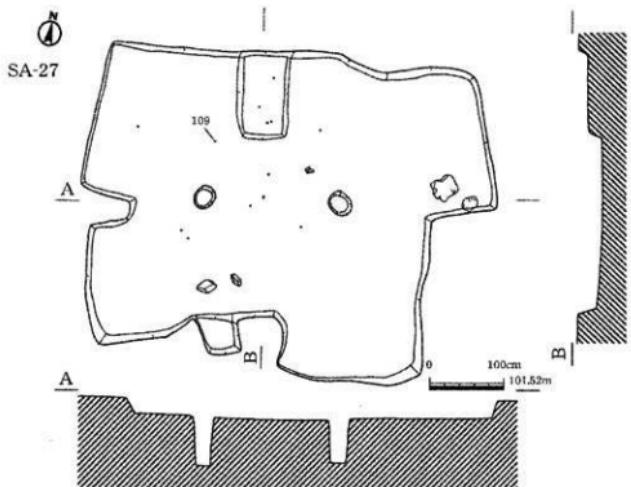
第26図 壁穴住居実測図



第27図 堅穴住居実測図

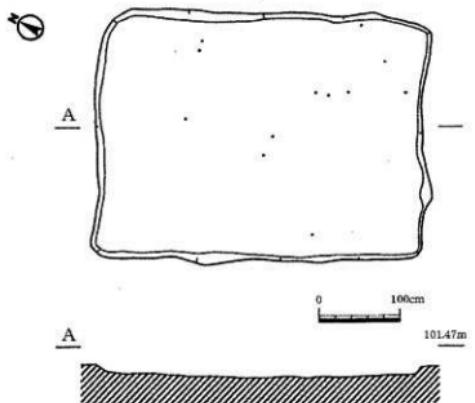


第28図 穂穴住居実測図

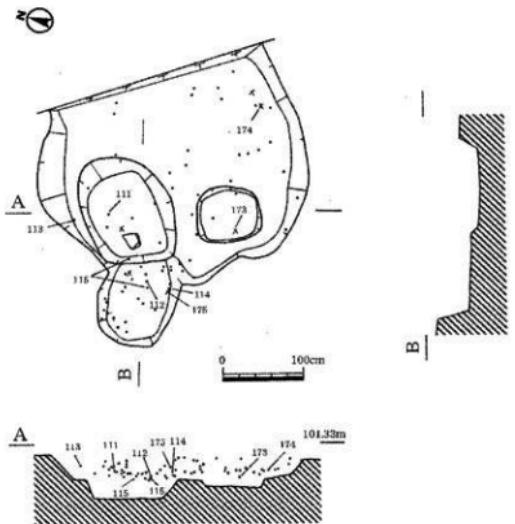


第29図 竪穴住居実測図

SA-29

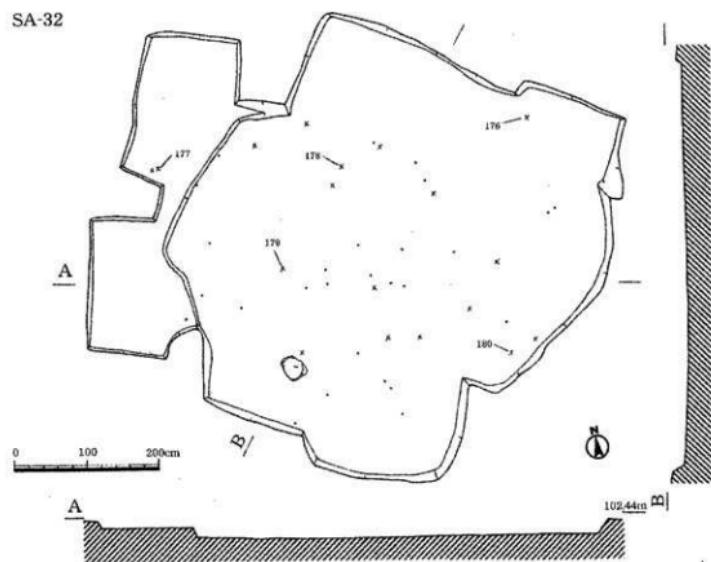


SA-30

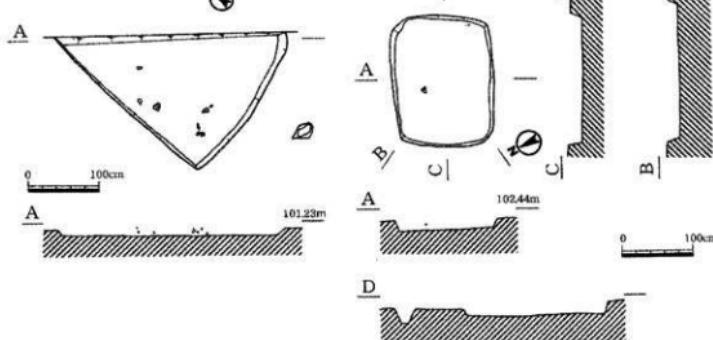


第30図 積穴住居実測図

SA-32



SA-31



第31図 竪穴住居実測図